

笹ノ沢(3)遺跡II

—八戸環状道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2002年2月

青森県教育委員会

笹ノ沢(3) 遺跡II

－八戸環状道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

2002年2月

青森県教育委員会

序

八戸市笹ノ沢(3)遺跡は、東北縦貫自動車道八戸線（八戸～八戸）の建設工事に先立って、平成10・11年度に当センターが調査を行いましたが、この調査の際に調査区の北側隣接部が県道八戸環状線の建設予定区域に含まれていることが新たにわかり、平成12年度から当センターが調査を行っています。

平成12年度の調査では、竪穴住居跡は確認されませんでしたが、新たに円形のプラスコ状土坑12基が発見されました。地下貯蔵穴と見られる遺構で、従来知られていた縄文時代中期初等のものよりも古く、前期末葉にさかのぼるものであることから、この集落跡は従来考えられていたよりも長期であったことが判明しました。また、細長い形態のおとし穴も新たに24基発見されました。狩猟用の落とし穴と見られる縄文時代の遺構で、この地域が縄文時代には狩猟場としても利用されていたことが再度確認されました。

この報告書は、平成12年度の調査成果をまとめたものです。埋蔵文化財の調査資料として、今後この地域の埋蔵文化財の調査・研究、文化財の保護・活用に役立てていただければ幸いです。

調査の実施から報告書の刊行にいたるまで、種々ご指導・御協力くださった関係各位に対し、厚くお礼を申し上げる次第です。

平成14年2月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長 中島 邦夫

例 言

1. 本報告書は、八戸環状道路建設事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成12年度に発掘調査を実施した八戸市笹ノ沢(3)遺跡の発掘調査報告書である。
2. 出土した石器の石質鑑定は松山 力(八戸市文化財審議委員)氏に依頼した。
3. 本報告書に掲載した地図は、国土交通省国土地理院発行の5万分の1地形図「三戸」・「八戸」である。
4. 本書を編集するに当たり下記の機関及び諸氏にお世話になった(順不同 敬称略)。
北上市立埋蔵文化財センター (財) 岩手県埋蔵文化財センター 稲野裕介

凡 例

- 1 遺構の表記は青森県埋蔵文化財調査センターで定めた下記の略号を使用している。

S B 挖立柱建物跡	S D 溝跡	S E 井戸跡	S I 住居跡
S K 土坑	S N 焼土遺構	S Q 配石・集石遺構	S R 土器埋設遺構
S T 捜て場	S V 溝状土坑	S X その他の遺構	
- 2 掘図中の北方位は、座標北である。
- 3 掘図の縮尺は、各掘図にスケールとともに示した。ただし、座標の表示のあるものについてはスケールを示していない場合がある。
- 4 掘図中で用いたスクリーントーンの指示は次の通りである。



- 5 繩文原体の表記は『日本先史土器の縄文』(山内清男、1979年)に従ったが、観察表中では略記した場合がある。(羽状縄文結束第〇種→羽状結束〇種 単軸絡条体→単軸 多軸絡条体→多軸 第〇類→〇類)
- また、表中に単に縦位・横位とある場合は原体の回転方向を表している。
- 6 観察表中の胎土の項目は混和物に主眼をおき、略号を用いて表記した。(繊維→織 海綿骨針→骨風化した岩片→岩 酸化鉄→鉄 浮石→浮 凝灰岩→凝 霧母→雲 黒色鉱物→黒 長石→長)
また、書体により量の多寡を表した。(ゴシック:多 明朝:中 アンダーライン:少 イタリック:微)
- 7 遺物写真的縮尺は、特に断りのない場合以下のとおりである。
土器・礫石器:1/3 剥片石器:1/2

目 次

序

例言・凡例

目次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査要項	1
第2節 既往の調査	1
第3節 調査の方法	1
第4節 調査の経過	3
第2章 遺跡の層序	5
第3章 検出遺構とその出土遺物	7
第1節 検出遺構の概要	7
第2節 検出遺構	8
第4章 遺構外出土遺物	45
第1節 土 器	45
第2節 石 器	46
参考文献	62
写真図版	63
抄録	
奥付	

第1章 調査の経過

第1節 調査要項

- 1 調査目的 八戸環状道路建設事業の実施に先立ち当該地区に所在する笛ノ沢(3)遺跡の発掘調査を行い、その記録を保存し、地域社会の文化財の活用に資する。
- 2 調査期間 平成12年4月18日から同年9月14日まで
- 3 遺跡名及び 所在地 笛ノ沢(3)遺跡（青森県遺跡台帳番号 03042）
八戸市大字尻内町字下毛合清水7-7、外
- 4 調査対象面積 8,400m²
- 5 調査委託者 青森県県土整備部
- 6 調査受託者 青森県教育委員会
- 7 調査担当機関 青森県埋蔵文化財調査センター
- 8 調査体制 調査指導員 村越 潔（考古学 青森大学教授）
調査員 松山 力（地質学 八戸市文化財審議委員）
工藤竹久（考古学 八戸市教育委員会文化課副参事）
調査担当者 青森県埋蔵文化財調査センター
所長 中島 邦夫
次長 成田 誠治
総務課長 西口 良一
調査第二課長 福田 友之
文化財保護主事 中村 哲也 竹内 誠司（現青森市立横内中学校教諭）
調査補助員 新谷 幸子 佐藤 淑 小野 亜沙美 坂本 光子

第2節 既往の調査

笛ノ沢（3）遺跡は、平成10・11年度に、東北自動車道八戸線（八戸～八戸）建設事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが調査を実施し、その成果は既に公表されている（青森県教育委員会 2001）。このときの調査区域は、本書で報告する区域（図2斜線部・アミ掛け部）の西側隣接地に当たり、沢地形を挟んで、南側の尾根で縄文時代中期初頭の集落、北側の尾根で溝状土坑群が検出されている。縄文時代の集落はほぼ円筒上層a式期に限定され、短期間に営まれた集落であり、同時に2～3軒の住居が存在したと考えられている。溝状土坑は長軸が等高線に平行になるよう構築されており、時期は縄文時代後期が想定されている。

第3節 調査の方法

グリッド設定・B.M.移設 グリッドの原点・規模・呼称等は、平成10・11年度調査時のもの（青森県教育委員会 2001）を踏襲した。ただし、本年度の調査対象区域は、平成10・11年度のグリッドでカバーしきれず、東西軸のAライン以東を0（アラビア数字の0）とアルファベットの小文字a～yの組み合わせ（0a, 0b…0y）で、南北軸の0ライン以北を一桁目に0をつけた数字（01, 02, 03, 04…）で表わした。東西軸・南北軸とも0を頭に用い、また南北軸に-（マイナス）記号を用いなかったのは、以下の理由による。①当センターでは注記を機械で行っており、大文字と小文字の区別

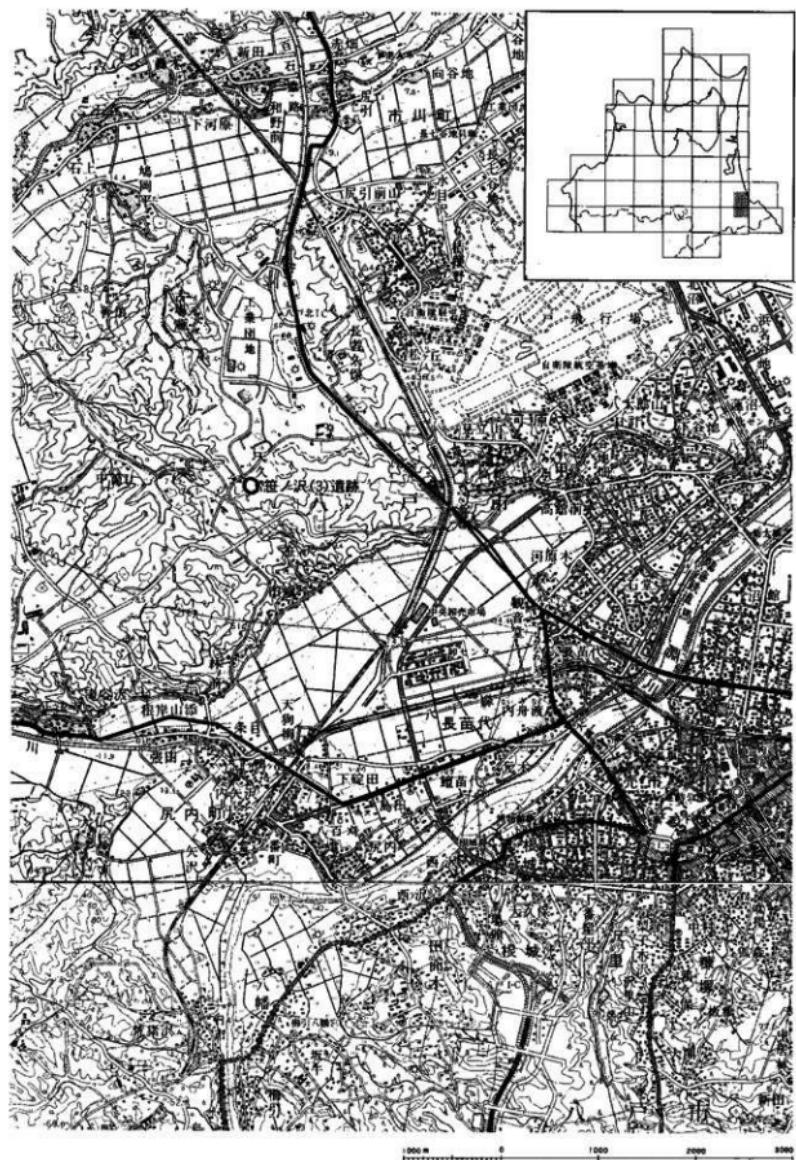


図1 遺跡位置図 ($S = 1/50,000$)

がつきにくいアルファベットがあること。②ー（マイナス）記号はー（ハイフン）と混同しやすい。

グリッド杭は、路線杭設置のため遺跡内に設置された4級測量基準点を用いて設置した。

なお、前回報告書（青森県教育委員会 2001）で明示されなかったグリッド原点A-0の公共座標値は、第X系、X=59,900 (m) Y=50,880 (m) である。

包含層の掘進 包含層の掘進は重機による表土除去を基本とし、表土直下からは人力で掘り下げた。ただし、進捗状況によって表土から人力で掘り下げた部分も多い。遺構・遺物の分布の希薄な部分はトレーンチ調査を行った。本遺跡の北側・東側の隣接地では砂鉄の露天採掘が1970年代まで行われており、調査対象区域内でもこれに相当すると考えられた区域が確認された（図2 斜線部）。この区域では数カ所に重機を用いてトレーンチを設定し現地表下約3mまで調査を行ったが、全て盛土であった。周辺地形を考えあわせて、地形の変更が相当の深度まで行われたものと考えられ、トレーンチ調査のみで精査を終了した。B.M.は付近に設置されていた工事用仮ベンチマーク(70.858m)から移設して用いた。
遺構外出土遺物の取り上げ 遺構外の層序はローマ数字を以て表記した。遺構外出土遺物は層位とグリッドを記録して取り上げた。

遺構の精査と記録 遺構は種別ごと・検出順に名称を付した。調査後、擾乱と判明した場合は欠番とした。土坑は2分法を採用し、分層発掘に努めた。層序は算用数字を以て表記した。遺構から出土した遺物は遺構内堆積土の層位ごとに取り上げ、必要に応じて出土位置を記録した。具体的には、半蔵の際、堆積土を薄く水平に掘削し、遺物が出土した段階で、すぐに垂直方向の断面を分層し、また、垂直方向断面の下端に連続する水平方向の掘削面の分層を対比して遺物の出土層位の帰属を決定した。実測図は1/20縮尺で作成した。写真は35mmカラーリバーサルフィルム・35mmモノクロフィルム(ISO400)、35mmカラーネガフィルム(ISO100)を用いて撮影した。

第4節 調査の経過 4月18日、当初は8月11日までの予定で調査を開始した。正午頃、機材を搬入した。午後、調査対象区域の雑木移動・B.M.の移設を開始する。調査区の旧状は山林・畠で、枝打ちされた雑木の移動に手間取った。4月20日、B.M.移設を終了し、グリッド杭打設開始。4月21日、優先的に調査を求められた橋脚部分から粗掘を開始した。4月26日、溝状土坑を検出。以後、遺構検出と精査を主体に行う。6月1日、橋脚部分の調査を終えたが、この間、調査を優先的に行う区域の追加を打診され、承諾した。6月1日以降、追加優先区域の精査と同時並行で他の部分の調査を実施した。6月末、^⑨OKライン以東に重機によりトレーンチを設定した。概ね0 f ライン以東は砂鉄の採掘により相当深度まで掘削を受けていることが明らかとなり、調査不要と判断された。調査終了予定期日以前に当初予定された区域の調査を終える見込みとなり、一方、次に発掘調査が予定されていた、県道八戸三沢線建設事業に係る林ノ前遺跡の用地買収が不調だったため、予定された調査範囲を超えて笛ノ沢(3)遺跡の調査を継続することとなり、30ライン以南の一部と15ライン以北の調査を開始した。7月末、林ノ前遺跡の用地買収が可能となり、調査開始は9月18日からと決定された。そのため、8月11日に新たにプレハブを設置し、旧プレハブの跡地を含む15ライン以北と30ラインまでの調査を同時に調査を行った。30ライン以南は、精査の途中で調査を中止し、翌年度以降に調査を持ち越した。9月14日には調査を全て終えた。遺跡上空は海上自衛隊八戸駐屯地の管制区域となっていたり、空中撮影の日程は厳しく制限されていたが、調整をとり9月16日に撮影を行った。

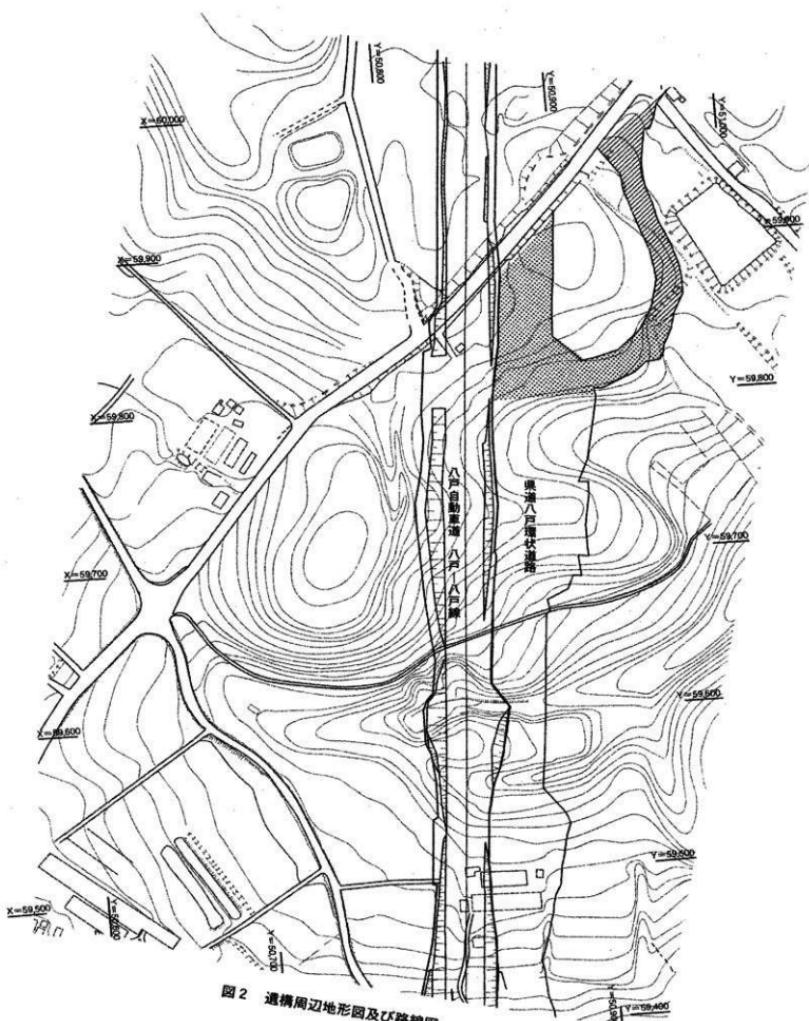


図2 造構周辺地形図及び路線図

第2章 遺跡の層序

平成12年度の調査区は、北側の尾根と、その南斜面、谷底部に当たる。大別で7層を確認した。調査区内の微地形は変化に富み、また、畠地や山林として利用されてきた結果も手伝ってか、一部の層が欠如する部分も多い。今回の調査では、土層の堆積が比較的良好だった尾根頂部付近の層序を以て基本層序とした。以下、調査区内の土層について記述する。

- 第I層 10YR1.7/1 黒色シルト To-b軽石を含む。
- 第II層 10YR2/1 黒色砂質シルト To-b軽石、To-Cuの細粒含む。谷底に近い30ライン付近の北側調査区境界ではTo-bを含む IIa層とTo-bを含まない IIb層に細分できる。斜面部は段差などの地形変化が認められ、畠地として利用されていたとも思われる。そのためか本層が全体に薄く、10cm以下の部分もある。尾根上の平坦面では概ね5ライン以南、Aライン以西が削平されており、本層から第IV層までを欠如する。
- 第III層 10YR3/3 暗褐色砂質シルト To-Cuがやや黒色化している。南側斜面部は地形的な要因のためか、本層を欠如する。
- 第IV層 10YR4/4 褐色シルト To-CuとTo-Nbかと思われる黄褐色浮石を含む。南側斜面部では本層を欠如する。
- 第V層 褐色～黄褐色の堅くしまった火山灰土で、八戸火山灰層上部に相当する。土色や混入物から第Va層と第Vb層に細分が可能である。
 - 第Va層 10YR4/6 褐色シルト質火山灰土 $\phi 3\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。
 - 第Vb層 10YR5/6 黄褐色シルト質火山灰土 $\phi 3\text{mm}$ の黄褐色浮石多量含む。
- 第VI層 八戸火山灰層下部。今回の調査では以下のように細分した。
 - 第Via層 10YR7/8 黄橙色砂質火山灰層 堅くしまっている。八戸火山灰第V層。
 - 第Vib層 10YR6/6 明黄褐色浮石層 $\phi 3\text{mm}$ 。八戸火山灰第IV層。
 - 第Vic層 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質火山灰層 八戸火山灰第III層。
 - 第Vid層 10YR7/6 明黄褐色浮石層 土層断面図作成地点では風化が著しい。ただし、地点によってあまり風化していない部分がある。粗粒の浮石層である。八戸火山灰第II層。
 - 第Vie層 10YR8/2 灰白色粘土質火山灰層 八戸火山灰第I層。
 - 第Vif層 10YR8/2 灰白色浮石層 八戸火山灰第I層中に含まれる浮石層に相当する。
 - 第Vig層 10YR8/2 灰白色粘土質火山灰層 八戸火山灰第I層の下部。
- 第VII層 7.5YR4/4 褐色粘土質火山灰土 高館火山灰層上部。最上部は5YR4/1褐色粘土質火山灰土である。

遺物はほとんどが尾根の南側斜面から出土しており、主要な遺物包含層は第II層である。第II層はTo-bの有無を指標として第IIa層と第IIb層に細分可能である。この事実は遺構の埋没時期を限定するのに重要である。To-bの降下年代はほぼ縄文時代晚期末葉以降、弥生時代の初め頃と考えられており(松山 1983)、To-bが遺構堆積土に含まれない場合、遺構の埋没年代をほぼ縄文時代に限定できる。

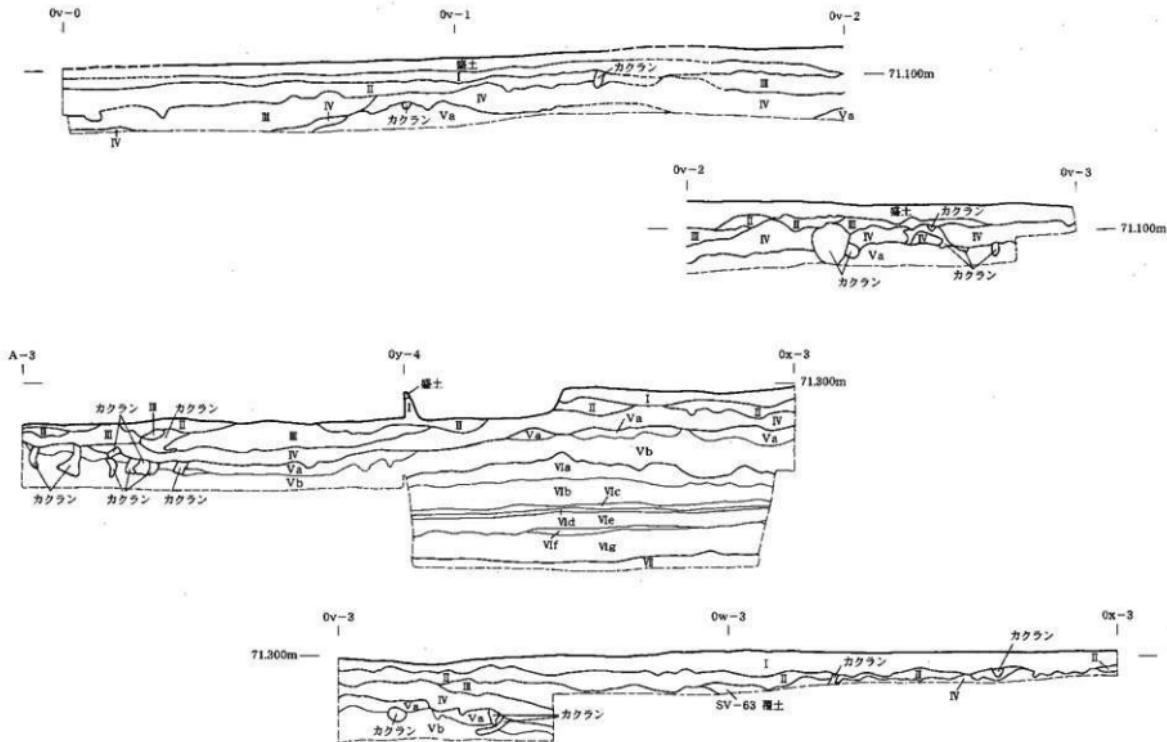


図3 基本層序 (S=1/50)

第3章 検出遺構とその出土遺物

第1節 検出遺構の概要

平成12年度の調査で検出された遺構は土坑21基、溝状土坑24基、溝跡22条、焼土遺構2基である。

フ拉斯コ状土坑 土坑のうち12基はフ拉斯コ状土坑で、標高64mから68mの斜面に位置し、10基が65m～67mの等高線の間に収まる。堆積土の主体は基本層序第II層に類似し、To-bを含まないことから特に第IIb層に類似する。遺物が伴うものはほとんど無く時期決定が難しい。しかし、第199号土坑からは、土器片200片が出土し、すべて円筒下層d式と考えられ、周辺に廃棄された土器が流れ込んだものと考えられた。また、フ拉斯コ状土坑群付近から出土した土器は前期末～中期初頭のものが多く、フ拉斯コ状土坑群はこの時期の所産である可能性が高い。付近からは住居跡は検出されていない。住居跡から離れた位置に形成されたフ拉斯コ状土坑群であると考えられる。

その他の土坑 フ拉斯コ状土坑以外の土坑は堆積土の主体が基本層序第I層に類似し、比較的新しい時期の所産と考えられる。そのうち2基は壁や底面に焼面が認められ、このうち1基（第208号土坑）は底面直上層全面から多量の炭化物が出土した。一種の炭窯の可能性も考えられる。

溝状土坑 尾根頂部から南側斜面にかけて、ほとんどが、長軸が等高線に平行になるよう構築されている。全て自然堆積と判断できた。堆積土にはTo-bを含まず、基本層序第IIb層に類似し、このことから縄文時代に属するものと考えられる。第54号溝状土坑の堆積土上位及び遺構の周辺（層位的には確認面より上位）からは縄文時代後期～晩期初頭の土器片が出土しており、これが後世の移動によるものでないとすればこの溝状土坑はこのころまでには埋没していたと考えられる。第70・71号溝状土坑は一方が埋没した後もう一方が構築されたことは明らかで、溝状土坑が構築された期間には一定の時間幅があることも想定できる。以上から溝状土坑の構築・使用時期は縄文時代後期を中心とした時期が想定できる。ただし、その下限が縄文時代後期の時間幅の中に収まるかどうかは明らかにできない。

溝跡 堆積土の土質は基本層序第I層に類似する。用途を特定することは難しいが、この地が畠地や山林として利用されてきたことに関連する可能性が考えられる。調査開始以前には、北西～南東方向にのびる第4・5・7・20・22号溝跡の上には防火帯かと思われる土手が築かれていた。土手は、黒色土で形成されていたため、これらの第V層を掘り込んだ溝が現在の土手を構築するためのもとは考えにくい。土手以前の土地区画を反映している可能性も考えられるが、その上限は明らかでない。

地滑り 人間の生活には直接の関連は見いだせないものの、地滑りの痕跡が検出された。平成10・11年度の調査でも確認されており、全て八戸火山灰第IV層と同第III層の間で生じていることが指摘されている（青森県教育委員会 2001：P8）。縄文時代の遺構はほとんどが地滑りにより変形しているが、変形していない第66号溝状土坑が変形している第214号土坑とわずかに重複している事実から、地滑りが生じた後に構築された溝状土坑がある可能性は十分に考えられる。第70・71号土坑の重複も、溝状土坑の構築・使用時期に一定の時間幅があることを示している。しかし、地滑りによるズレの量は個別の遺構により異なるし、同一遺構のうちでも異なる例（第54号溝状土坑）もあり、地滑り量にミクロなレベルでの差異が生じる要因は複雑なものと予想される。従って、溝状土坑の地

滑りによる変形の有無は時間差が要因であると断定することは難しい。地滑りが生じた時期は溝状土坑が継続的に構築されていた縄文時代後期かそれよりも後と考えざるを得ない。

第2節 検出遺構

検出遺構の位置・規模等は以下の一覧にまとめた。基本的な形状は実測図を参照されたい。一覧では表現できない事項のある各遺構については特記することとする。特に、遺構の埋没状態は、実測図・土層注記がその判断の根拠となるよう留意したつもりだが、その特徴を十分に表現できていないものも多い。また、考古学研究者間で堆積状態を判別するためのモデルが必ずしも共有されていないと思われる。判断が難しいものがあることも事実だが、堆積状態は遺跡・遺構によって千差万別であり、全てパターン化して提示することが困難であること、どのような指標が有効であるか整備されていないこと、などが原因と思われる。どのような指標が有効であるか整備されていないことが不十分な注記の原因もあり、文章で説明する必要があると考えた。

遺構一覧

凡例

1. 平面規模は遺構下端の数値を用いた。縄文時代およびそれ以後の遺構は一般に黒色土中から掘り込まれており、火山灰土の崩落土も一般的に認められることからも、黒色系統の上層の崩落土が遺構内の堆積土として存在することが当然推定できる。従って、遺構の上端は、遺構の埋没過程において崩落による変形を生じるのが当然のことと考えられる。検出面における上端の計測値は、両辺土層の堆積の厚さと掘り込み面のレベルや検出時の掘り下げの程度によって若干の変化が生じる。従って、上端の計測値は、遺構の垂直方向の任意の位置における数値であり、それが変化する要因も一定でないことは明らかで、遺構の法量を表す基準値として用いるのは不適当であると考えられる。下端は崩落による変化がないので、基準値として用いるのにより適当である。

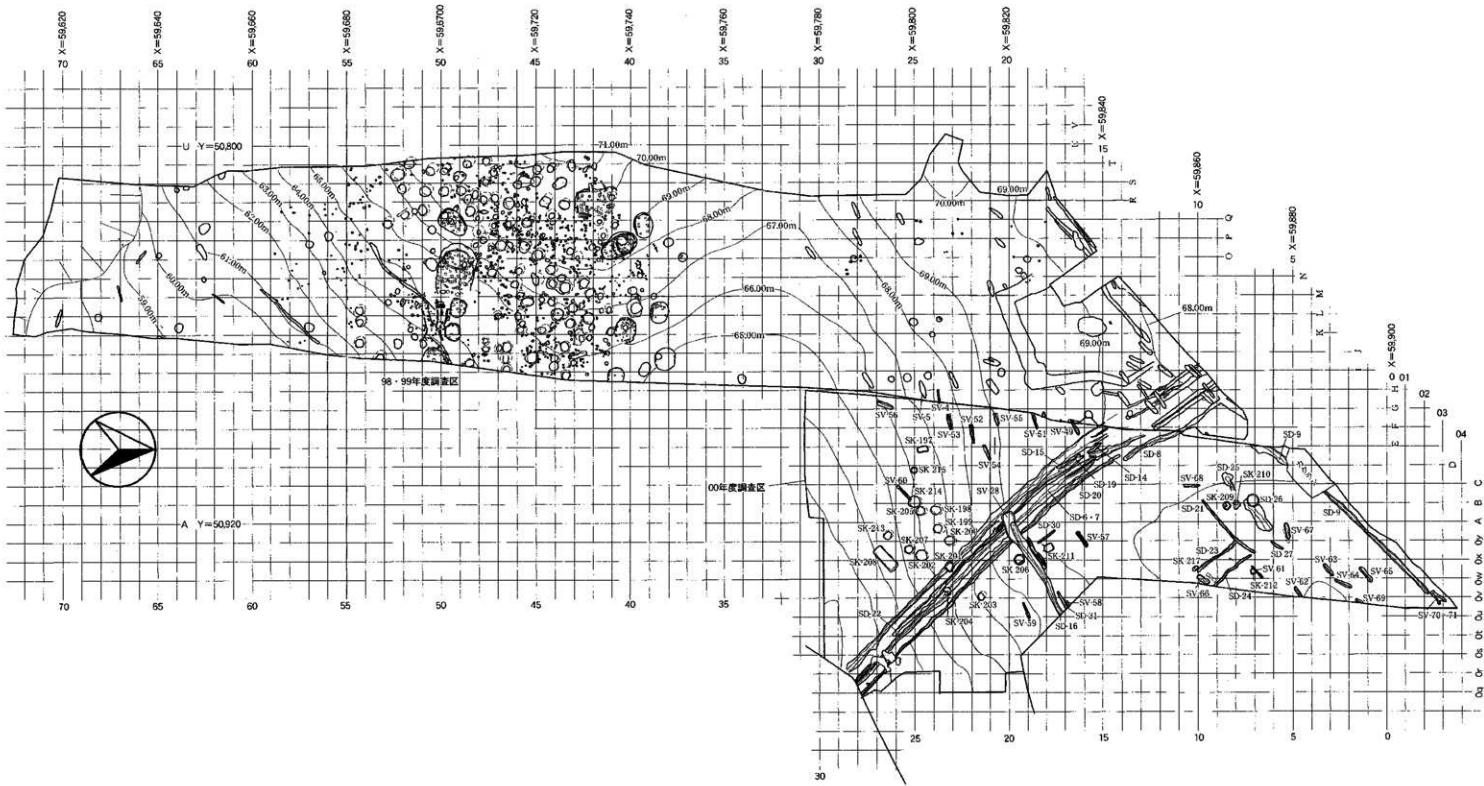
2. 土坑・溝状土坑の深さは、1/20セクション図で遺構底面の最も低いところから最も高いところまでの計測値である。溝は、溝に概ね直交するラインでの上端と下端のレベル差のうちの最大値を採用した。いずれも両辺土層の堆積の厚さと掘り込み面のレベルや検出時の掘り下げの程度によって若干の変化が生じる性質のものであり、その取り扱いには注意を要する。

3. 溝の長さは1/50の実測図をキューリピメーターを用いて計測した。キューリピメーターの読みとり精度により、有効数字は0.1mとなった。

4. 一覧中の略号や記号の意味は次に示すとおりである。

<SK-O:SK-Oと重複しSK-Oより古い 0:発掘調査部分の数値 イタリック:下端の凹凸が激しく、上端の数値を示したもの
>SK-O:SK-Oと重複しSK-Oより新しい ゴシック: (青森県教育委員会 2001) の数値を用いたもの

遺構名	遺構 記号	検出グリッド	検出 層位	底面	規模 (単位:m)			地滑りに よるズレ	備考
					長軸	短軸	深さ		
第197号土坑	SK-197	D-24・25	V	V	1.88	1.08	0.33	無	人為堆積
第198号土坑	SK-198	A-23・24	V	Vle~Vll	2.48	2.24	1.24	有	自然堆積
第199号土坑	SK-199	0y-23・24	V	Vll	2.43	2.04	1.10	有	自然堆積 班状構造
第200号土坑	SK-200	A・0y-23	V	Vle~Vll	2.32	2.20	1.55	有	自然堆積
第201号土坑	SK-201	0w-23	V	Vlc	2.27	1.71	1.24	有	<SD-4・5 自然堆積
第202号土坑	SK-202	0w・x-24・25	V	Vll	2.44	2.45	1.14	有	自然堆積
第203号土坑	SK-203	0v・0w-21	V	Vle~Vlg	1.96	1.47	1.21	有	自然堆積 溝状構造
第204号土坑	SK-204	0u・0w-23	V	Vlc	1.66	1.14	1.06	有	<SD-6・7 自然堆積



遺構名	遺構 記号	検出グリッド	検出 層位	底面	規模(単位:m)			地滑りに よるズレ	備考
					長軸	短軸	深さ		
第205号土坑	SK-205	A-24・25	V	Vic	2.04	1.64	1.26	有	自然堆積 岩状構造
第206号土坑	SK-206	0w・0x-19	V	V	1.75	1.42	0.41	無	人為堆積
第207号土坑	SK-207	0x-25	V	Vic	2.16	2.14	0.93	有	自然堆積
第208号土坑	SK-208	0w・0x-27・28	V	V	5.50	2.00	0.54	無	壁底面に施面、炭化物多 量出土 堆積不明
第209号土坑	SK-209	A-9	V	V	1.23	1.21	0.36	無	人為堆積
第210号土坑	SK-210	A-8・9	V	V	1.72	1.56	0.48	無	人為堆積
第211号土坑	SK-211	0x-17・18	V	V	1.65	1.41	0.26	無	人為堆積
第212号土坑	SK-212	0w-7	V	V	0.95	0.86	0.22	無	自然堆積
第213号土坑	SK-213	0y・A-26	V	Vic	2.50	1.74	1.03	有	自然堆積 岩状構造
第214号土坑	SK-214	A・B-25・26	V	V	2.49	2.17	1.94	有	<SV-60 自然堆積 岩 状構造
第215号土坑	SK-215	C-25	V	V	1.20	1.16	1.61	無	自然堆積
第217号土坑	SK-217	0w-10	V	V	0.96	0.50	0.09	無	人為堆積
第218号土坑	SK-218		V	V				無	壁に施面 <SD-4・5・ 6・7・8
第4号溝状土坑	SV-4	G-23・24	V	Vid~Vig	3.30	0.17	0.85	無	自然堆積
第5号溝状土坑	SV-5	G・H-24・25	V		3.40	0.22	1.47	有	自然堆積
第49号溝状土坑	SV-49	E・F-16	V	Via	4.66	0.24	1.04	無	自然堆積
第51号溝状土坑	SV-51	E・F-18・19	V		3.38	0.11	1.13	無	自然堆積
第52号溝状土坑	SV-52	D・E-22	V	Vic	4.06	0.06	0.78	有	自然堆積
第53号溝状土坑	SV-53	E・F-23	V	Vic	3.60	0.15	1.11	有	自然堆積
第54号溝状土坑	SV-54	D-21	V		3.27	0.14	1.30	有	自然堆積
第55号溝状土坑	SV-55	E・F-20・21	V	Vic or Vic~	2.96	0.07	1.14	有	自然堆積
第56号溝状土坑	SV-56	F・G-26・27	V	gVic	3.60	0.12	1.68	有	自然堆積
第57号溝状土坑	SV-57	0x・0y-16	V	Vic	3.36	0.11	1.26	有	自然堆積
第58号溝状土坑	SV-58	0w-17	V		(1.45)	(0.11)	1.20	無	自然堆積
第59号溝状土坑	SV-59	0v・0w-19	V		3.49	0.11	1.22	無	自然堆積
第60号溝状土坑	SV-60	B-25・26	V		3.46	0.14	1.28	無	>SK214 自然堆積
第61号溝状土坑	SV-61	0v・0w-6・7	V		3.03	0.10	1.02	無	自然堆積
第62号溝状土坑	SV-62	0u・0v-4・5	V		2.48	0.40	1.24	無	自然堆積
第63号溝状土坑	SV-63	0v・0w-3	V		3.06	0.10	1.44	無	自然堆積
第64号溝状土坑	SV-64	0v-2	V		3.52	0.12	1.46	無	自然堆積
第65号溝状土坑	SV-65	0v・0w-1	V		3.64	0.15	1.30	有	自然堆積
第66号溝状土坑	SV-66	0v・0w-10・11	V	Vid~Vig	2.36	0.20	1.30	有	自然堆積
第67号溝状土坑	SV-67	0w・0x-5	V	Vic	3.16	0.13	0.98	有	自然堆積
第68号溝状土坑	SV-68	B-10	V		3.19	0.07	1.10	無	自然堆積

遺構名	遺構 記号	検出グリッド	検出 層位	底面	規模 (単位:m)			地滑りに によるズレ	備考
					長軸	短軸	深さ		
第69号溝状土坑	SV-69	0u·1	V		(1.26)	(0.10)	1.22	無	自然堆積
第70号溝状土坑	SV-70	0u·0v·03	V		3.15	0.13	1.10	無	<SV-71 自然堆積
第71号溝状土坑	SV-71	0u·0v·03	V		3.58	0.12	1.48	無	>SV-70 自然堆積
第1号堆土	SN-1	0t·0s·29	II		2.15	1.0			荒業ないし擾乱を受けた可能性大
第2号堆土	SN-2	0q·27	II		0.48	0.31			
第4・5号溝跡	SD-4・5				2.26	0.60	無	<SK-218	
第6・7号溝跡	SD-6・7		V		2.52	0.57	無	<SK-218	
第8号溝跡	SD-8		V		13.0	0.52	0.43	無	>SK-204 <SK-218
第9号溝跡	SD-9		V		49.1	0.74	0.53	無	
第14号溝跡	SD-14		V		3.5	0.63	0.17	無	
第15号溝跡	SD-15		V		5.1	0.62	0.27	無	
第16号溝跡	SD-16		V		(21.5)	0.87	0.62	無	>SK-218
第17号溝跡	SD-17		V		6.3	0.48	0.09	無	
第18号溝跡	SD-18		V		6.3	0.46	0.11	無	
第19号溝跡	SD-19		V		3.50	0.62	0.60	無	
第20号溝跡	SD-20		V	V		0.99	0.50	無	
第21号溝跡	SD-21		V		15.3	0.30	0.15	無	
第22号溝跡	SD-22		V			1.30	0.41	無	
第23号溝跡	SD-23		V		10.0	0.20	0.17	無	
第24号溝跡	SD-24		V		10.0	(0.34)	0.18	無	
第25号溝跡	SD-25		V		2.9	0.90	0.16	無	
第26号溝跡	SD-26		V		5.0	0.86	0.17	無	
第27号溝跡	SD-27		V		7.5	0.92	0.11	無	
第30号溝跡	SD-30		V		6.00	0.42	0.16	無	
第31号溝跡	SD-31		V		4.75	0.61	0.12	無	

フラスコ状土坑の堆積土について

フラスコ状土坑内の堆積土を観察した結果、今回の調査ではほぼ全ての土坑に共通するパターンが認められた。その内容を以下に列挙する。

- ① 基本層序第IIb層に類似する黒色・黒褐色の砂質シルトを主体とする。中摺浮石を主要な母材とすると考えられる。シルト・粘土粒子のレベルで、八戸火山灰層や高館火山灰層の風化した粘土質・浮石質の土層が多量に混入することはない。
- ② 黒色・黒褐色の砂質シルト中には塊状の火山灰土が認められない。認められても、径数mmのものが少量で、人為的に攪拌・混合されたとは考えにくい。

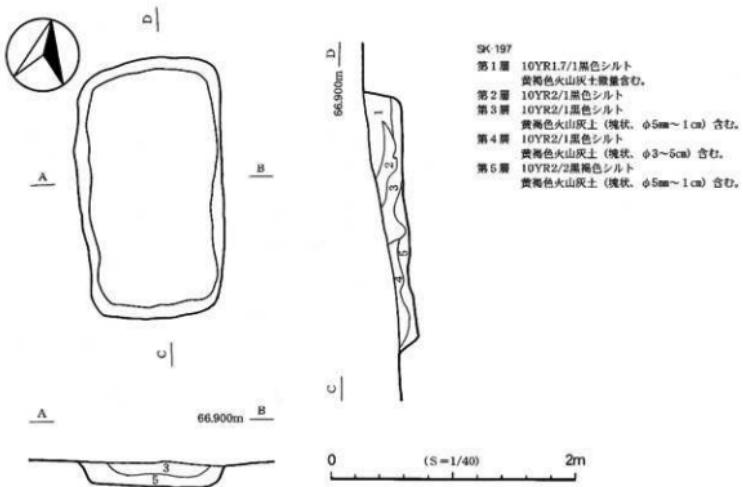
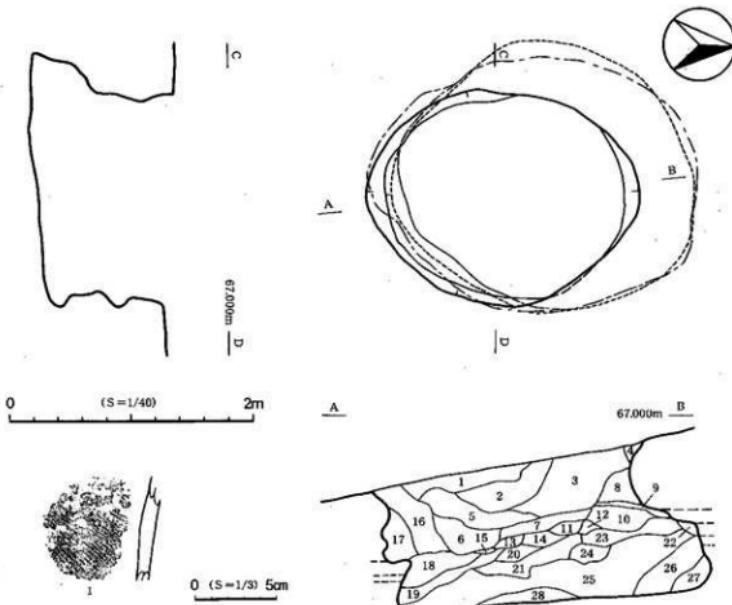


図5 第197号土坑

- ③ 壁際には火山灰土と、堆積の主体をなしている黒色・黒褐色の砂質シルトの混合した土層が認められるが、中央部には認められない。これは、壁の火山灰土が気温の変化や含有水分量の変化、あるいは凍結・融解などの自然営力によって風化し、黒色・黒褐色の砂質シルトと混合したものと思われる。
 - ④ 黒色・黒褐色の砂質シルトと混じり合わない純粋な火山灰土が壁際に認められる。多量にある場合、土色・土質・粒径などの特徴から複数の層に細分可能である。その細分層の上下関係は、特徴が一致する壁の火山灰土の上下関係と一致し、壁の火山灰土の複数層序が塊状に崩落したものと考えられる場合が多い。
 - ⑤ 堆積土内に認められる火山灰土は、遺構の壁においてそれが起源すると思われる層序の上端よりも低いレベルで認められる。逆にいえば、堆積土内に認められた火山灰土は、遺構の壁においてそれが起源すると思われる層序の上端より高いところには堆積していない。崩落土である限り、それが起源する火山灰土より高い位置にあることは物理的にあり得ない。
- 以上により、フラスコ状土坑は自然堆積であると考えた。

堆積土の一部には若干土色の異なる砂質シルトが、互いに円形を呈し、その境界が不明瞭で、その配置は規則的であるという構造が認められた（写真図版4-18）。報告者はこれを斑状構造と仮称している（中村 2001）。斑状構造は粒径の明らかに異なる二種の土（たとえば粘土質火山灰土と砂質シルト）の間でも認められ、また（粘土質火山灰土と砂質シルトほど違わないという程度の意味で）同質の土でも認められることが明らかになった。二種の土が規則的な配列を示すことから、自然営力により生じた可能性が高いと考えられる。



SK-198

- 第1層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
 第2層 10YR2/1黒褐色砂シルト
 第3層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石微量。
 第4層 10YR4/4褐色シルト賀火山灰土 壁の崩落土。
 第5層 10YR2/1黒褐色砂シルト φ3mmの黄褐色浮石微量。
 第6層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石微量。
 第7層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石微量。
 第8層 10YR4/6褐色シルト賀火山灰土 壁の崩落土。
 第9層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2~3mmの黄褐色浮石微量。
 第10層 10YR4/4褐色シルト賀火山灰土 壁の崩落土。
 第11層 10YR4/6褐色シルト賀火山灰土 壁の崩落土。
 第12層 10YR4/6褐色地土 賀火山灰土 壁の崩落土。
 第13層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
 第14層 10YR2/3黒褐色砂質シルト

- 第15層 10YR3/2墨褐色シルト
 第16層 10YR3/2墨褐色砂質シルト
 第17層 10YR3/4墨褐色シルト
 第18層 10YR4/6褐色シルト 賀火山灰土 壁の崩落土。
 第19層 10YR2/2墨褐色砂質シルト
 第20層 10YR2/3墨褐色砂質シルト
 第21層 10YR3/3墨褐色シルト
 第22層 10YR6/6明黄褐色シルト賀火山灰土 壁の崩落土。
 第23層 10YR5/8墨褐色火山灰土上と暗褐色シルトとの混合土
 第24層 10YR5/6黄褐色シルト賀火山灰土 壁の崩落土。
 第25層 10YR6/8明黄褐色シルト賀火山灰土 壁の崩落土。
 第26層 10YR6/8黄褐色シルト賀火山灰土 壁の崩落土。
 第27層 7.5YR5/6明褐色地土賀火山灰土 壁の崩落土。
 第28層 10YR2/1黑色砂質シルト

SK-198

番号	層位	外面文様等	内面調査等	施主	時期	備考
1	2層	RLL標位回転	縦方向のナデ	職員白井	前期末～中期初	

図6 第198号土坑

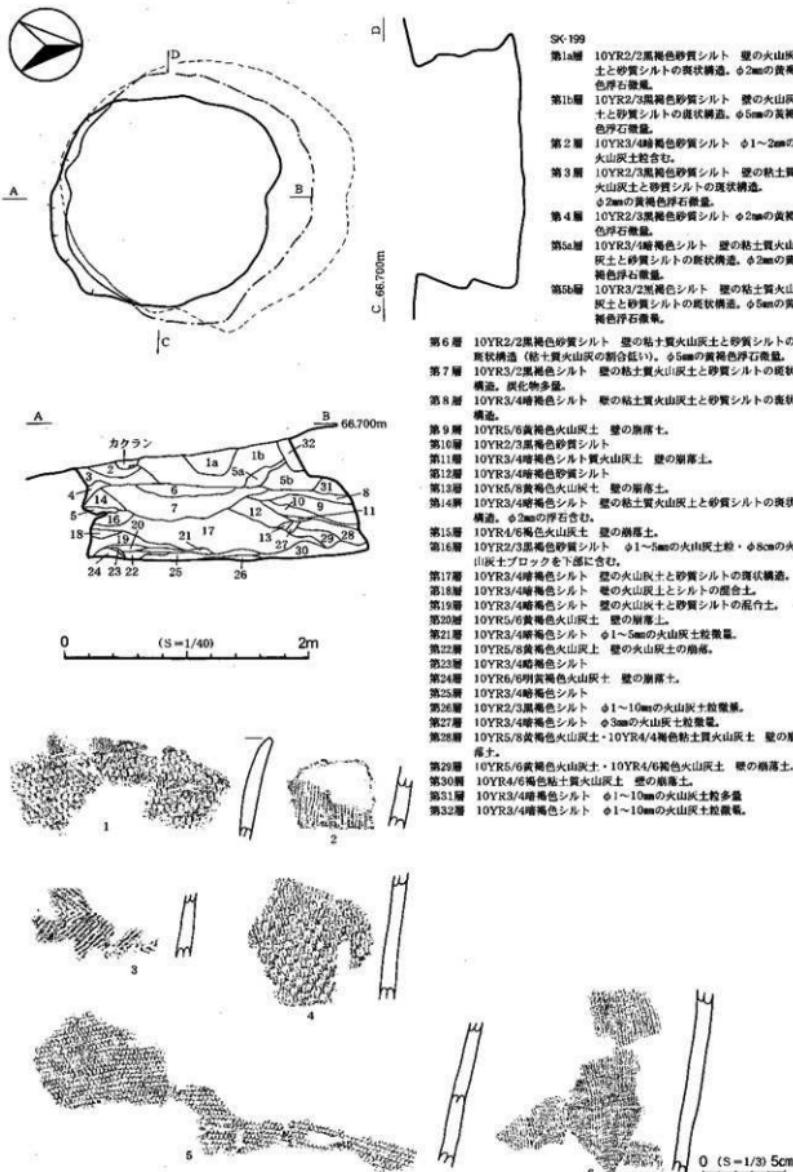


図7 第199号土坑・出土遺物(1)

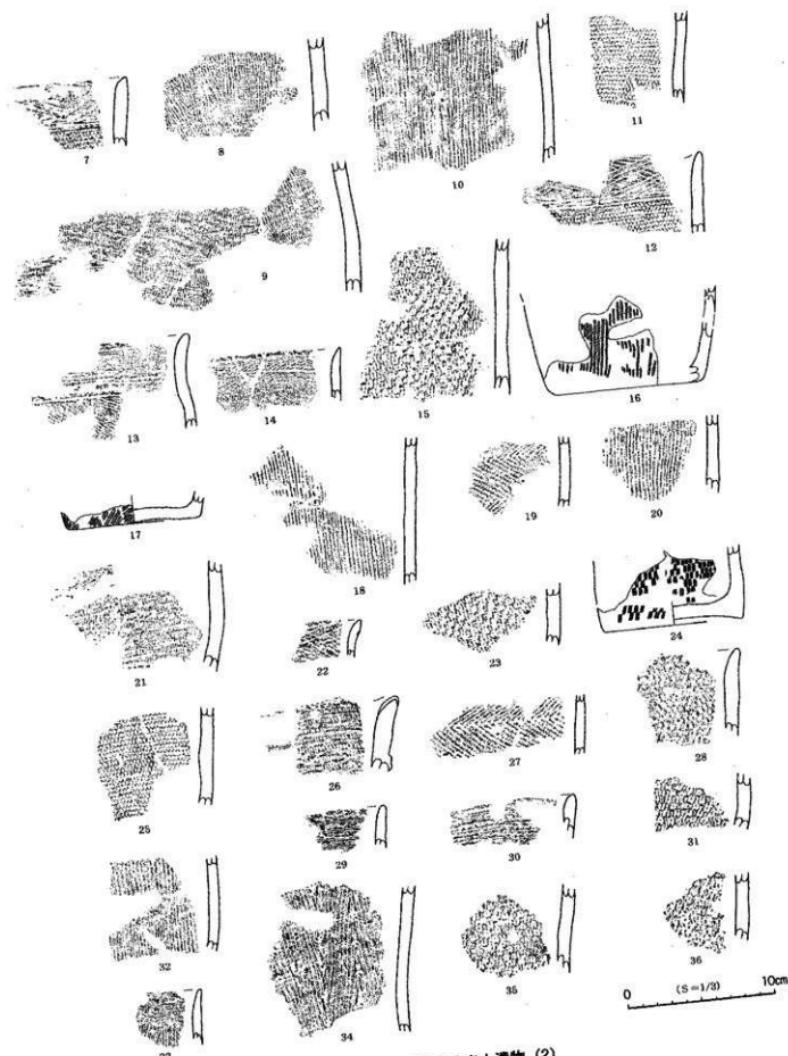


図8 第199号土坑出土遺物 (2)

SK-199

番号	層位・取り上げ番号	外因文様等	内面調査等	助土	時期	備考
7-1	7層P154-155 17層P163	多輪(3R+2二本一組)複数	やや風化、縦方向のナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体3
7-2	17層P125	単輪(1頭) 細粒	縦方向のナデ	織石古窯跡	円筒下端d	個体2
7-3	1層P6 7層P118 17層P-X	羽状葉末1種複数	風化	織石	円筒下端d	個体4
7-4	確認面	多輪(3R+2二本一組)複数	縦方向のミガキ	織石古窯跡	円筒下端d	個体5
7-5	1層P-15-66 6層P-32-87 19層P-165	多輪(3R+2二本一組)複数	縦方向のナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体1
7-6	6層P-82-X 7層P-160 12層: P-162	単輪(1頭) 複数	縦方向のナデ	織石古窯跡	円筒下端d	個体2
8-7	18層P-124	口縁風化剥離部底面(R) 剥離:多輪(3R+2二本一組)複数	縦方向のナデ	織石古窯跡	円筒下端d	個体3
8-8	7層P-101	単輪(1頭) 複数	縦方向のナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体2
8-9	2層P-136 6層: 84-88-94 7層: P-102	単輪(1頭) 複数	縦方向のナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体2
8-10	6層P-89 7層P-111-116-117	単輪(1頭) 複数	縦方向のナデ	織石古窯跡	円筒下端d	個体5
8-11	7層P-106 A-25-X 17層P-X	多輪(3R+2二本一組)複数	縦方向のナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体1
8-12	1b層P-66 7層P-121	口縁風化剥離部底面(R) 剥離:多輪(3R+2二本一組)複数	縦方向のミガキ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体1
8-13	1b層P-137 SK-198-2-5-7層: P-X	口縁風化剥離部底面(R) 剥離:多輪(3R+2二本一組)複数	口縁: 3コ ベルト底面: 縦方向のミガキ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体10
8-14	1b層P-X 3層P-130 7層P-110	口縁風化剥離部底面(R) 剥離:多輪(3R+2二本一組)複数	縦方向のミガキ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体11
8-15	1b層P-61-80 7層P-99	多輪(3R+2二本一組)複数	縦方向のナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体6
8-16	1b層P-1-142-143 5b層P-79	単輪(1頭) 複数	やや風化、ナデ	織石古窯跡	円筒下端d	個体5
8-17	8層P-78 9y-26 I層	LRR部位(複数の一部)	板状工具によるナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体4
8-18	3層P-55	単輪(1頭) 複数(二段の繩を母線にした白磁台身?)	縦方向のナデ	織石古窯跡	円筒下端d	個体3
8-19	1b層P-138 5層P-149	羽状葉末1種複数	縦方向のナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体4
8-20	6層P-96	単輪(1頭) 複数	縦方向のナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体5
8-21	1層P-55 6層P-88	単輪(1頭) 複数	縦方向のナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体2
8-22	6層P-90	RU側面底面	縦方向のミガキ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体8
8-23	1b層P-72	多輪(3R+2二本一組)複数	縦方向のナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体6
8-24	11層P-140-144 6層P-148-151 7層P-106-153	多輪(3R+2二本一組)複数	剥離	織合石古窯跡	円筒下端d	個体3
8-25	1b層P-64 A-22 I層	多輪(3R+2二本一組)複数	縦方向のナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体1
8-26	1層P-44 2層P-133	単輪(1頭) 底面に底面	縦-斜方のミガキ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体9
8-27	1層P-21 6層P-81	羽状葉末1種複数	やや風化、縦方向のナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体4
8-28	1b層P-65	多輪(3R+2二本一組)複数	やや風化、縦方向のナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体3
8-29	1層P-2-3	織合石古窯跡	縦方向のナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体13
8-30	1層P-2-3 1b層P-76	口縁部: 単輪(1頭) 複数、底面: 1b層底面	縦方向のナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体4
8-31	1層P-37	多輪(3R+2二本一組)複数	縦方向のミガキ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体6
8-32	1層P-2-3	単輪(1頭) 複数	風化	織合石古窯跡	円筒下端d	個体5
8-33	1b層P-123	口縁部: 単輪(1頭) 複数、底面: 単輪(1頭)(3R+2二本一組)複数	縦方向のミガキ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体12
8-34	1層P-52 5b層P-77	単輪(3R+2二本一組)複数	風化	織合石古窯跡	円筒下端d	個体7
8-35	1層P-38	多輪(3R+2二本一組)複数	縦方向のミガキナデ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体6
8-36	1b層P-50-57	多輪(3R+2二本一組)複数	縦方向のミガキ	織合石古窯跡	円筒下端d	個体6

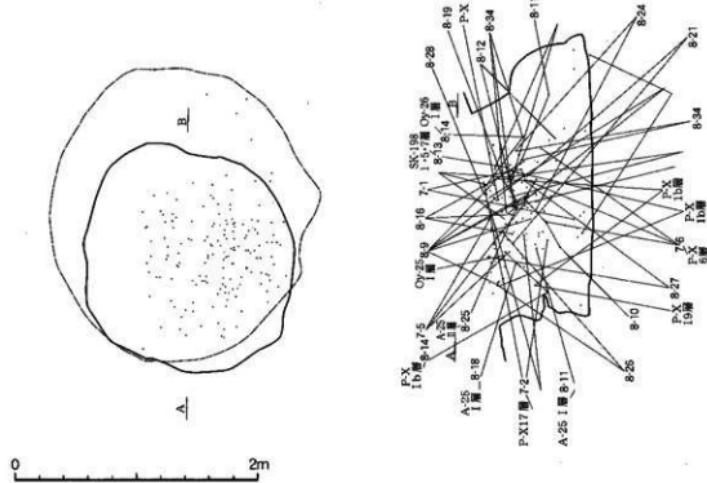
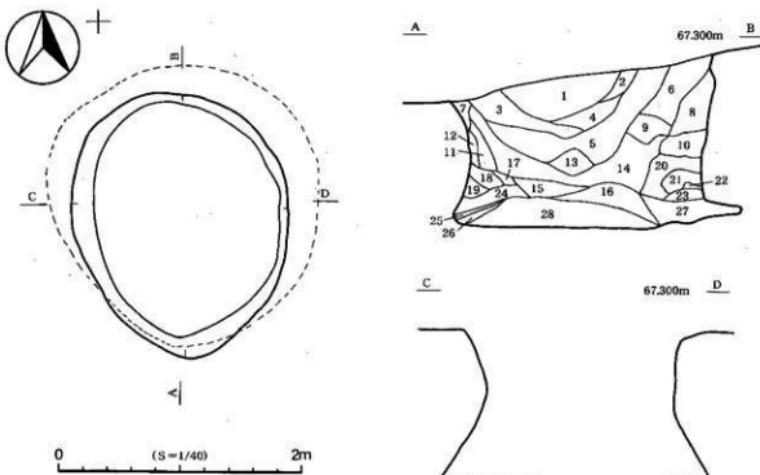


図9 第199号土坑遺物出土状況・接合状況 (ゴシックは実測図番号)



SK-200

第1層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ5~10mmの黄褐色浮石含む。
 第2層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ3~5mmの黄褐色浮石含む。
 第3層 10YR3/4暗褐色砂質シルト シルトと壁の火山灰土との混合土。
 第4層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ3~5mmの黄褐色浮石含むが、第2層より少ない。
 第5層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ1~10mmの黄褐色浮石が上部に多く認められる。
 第6層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ3~5mmの黄褐色浮石含む。
 第7層 10YR4/6褐色シルト 黒色系シルトと壁の火山灰土との混合土。
 第8層 10YR4/6褐色シルト 黑色系シルトと壁の火山灰土との混合土。
 第9層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
 第10層 10YR5/6黄褐色シルト 黑色系シルトと壁の火山灰土との混合土。
 第11層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石含む。
 第12層 10YR4/6褐色シルト φ3~5mmの黄褐色浮石含む
 第13層 10YR2/3黒褐色シルト φ5~10mmの黄褐色浮石、φ3~5mmの黄褐色火山灰土含む。
 第14層 10YR2/3黒褐色シルト φ5~10mmの黄褐色浮石、φ3~5mmの黄褐色火山灰土含む。

第15層 10YR3/4暗褐色シルト φ1~10mmの黄褐色浮石含む。
 第16層 10YR3/4暗褐色シルト φ1~5mmの黄褐色浮石含む。
 第17層 10YR2/3黒褐色シルトと10YR4/6褐色シルトの混合土 φ1~20mmの黄褐色浮石含む。
 第18層 10YR5/8黄褐色シルト 壁の火山灰土と褐色シルトの混合土。
 第19層 10YR5/8黄褐色火山灰土と壁の火山灰土との混合土。
 第20層 10YR5/6黄褐色シルト 黒褐色シルトと壁の火山灰土との混合土。
 第21層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土
 第22層 10YR5/8黄褐色粘土質火山灰土
 第23層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土
 第24層 10YR3/4暗褐色シルト
 第25層 10YR3/4暗褐色シルト
 第26層 10YR5/6黄褐色シルト
 第27層 10YR2/3黒褐色シルト
 第28層 10YR3/4暗褐色シルト

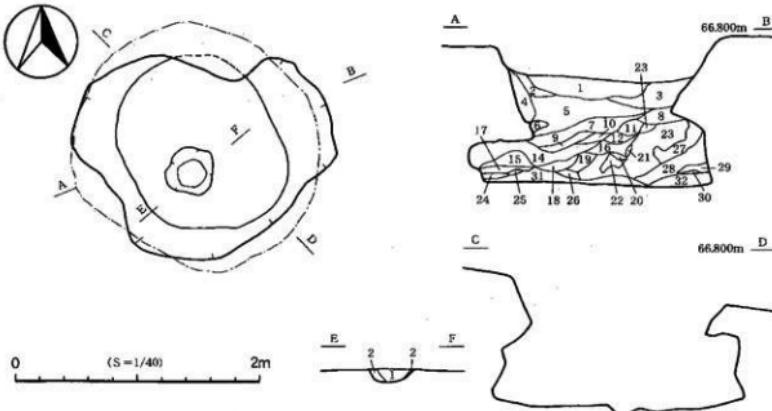
図10 第200号土坑

第199号土坑遺物出土状況・接合状況について（図7～9）

第199号土坑からは200片の土器片が出土した。うち、166片について出土位置を記録して取り上げた。その他は細片のため出土位置を記録しなかったか、遺構確認時・精査時に若干移動したため出土位置を記録できなかったものである。これらの遺物も層位を記録して取り上げることを基本とした。しかし、細片などは整理時の手違いで、層位を読みとれなくなったものが若干ある。出土遺物の帰属層位を決定する方法は第1章第3節に述べているのでここでは繰り返さない。

土器は、縄文時代前期末葉～中期初頭のもののみが出土した。口縁部破片は全て円形下層d1式である。また、胴部破片は第4章の当該時期の文様分類ク（p45）が見られず、円筒下層d1式に限られる可能性が高いと考えられる。

土器の垂直方向の分布は確認面から底面まで認められるが、多くは遺構の垂直方向における上位2/3に集中する。層中から出土し、層理面に集中する傾向は認められない。平面における遺物の分布



SK-201
 A-B C-D
 第1層 10YR2/3黒褐色沙質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石含む。
 第2層 10YR2/2黒褐色沙質シルト φ5~10mmの黄褐色浮石含む。
 第3層 10YR4/4褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石含む。
 第4層 10YR2/4暗褐色シルト 硅の結晶と見われるφ5mmの浮石含む。
 第5層 10YR2/2黒褐色沙質シルト 3~5mmの黄褐色浮石含む。
 第6層 10YR3/5明褐色火山灰土 硅の結晶土。
 第7層 10YR2/2暗褐色沙質シルト φ2mmの黄褐色浮石含む。
 第8層 10YR3/1黒褐色沙質シルト φ5mmの黄褐色浮石含む。
 第9層 10YR3/4暗褐色シルト 火山灰土粒混在む。
 第10層 10YR2/3暗褐色沙質シルト φ3mmの黄褐色浮石含む。
 第11層 10YR2/2暗褐色シルト φ5mmの黄褐色浮石含む。
 第12層 10YR4/4褐色シルト φ3mmの黄褐色浮石多量含む。
 第13層 10YR5/6黄褐色シルト 買火山灰土 ブロック状に崩落した堅の
 崩落土と考えられ、堅い。
 第14層 10YR4/4暗褐色沙質シルト φ3~5mmの黄褐色浮石含む。
 第15層 10YR2/3にぶい黄褐色シルト 火山灰土粒多量含む。
 第16層 10YR2/2黒褐色シルト 火山灰土粒含む。
 第17層 10YR2/4褐色シルト 買火山灰土 壁の崩落土。

第18層 10YR5/6黄褐色火山灰土・浮石壁の崩落土。
 第19層 10YR2/3黒褐色沙質シルト
 第20層 10YR3/1黒褐色沙質シルト
 第21層 10YR5/8暗褐色浮石 硅の火山灰土の崩落土。
 第22層 10YR5/8暗褐色浮石 硅の火山灰土の崩落土。
 第23層 10YR6/6明褐色シルト 買火山灰土 硅の火山灰土の崩落土。
 第24層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土 硅の火山灰土の崩落土。
 第25層 10YR3/2暗褐色沙質シルト 硅の火山灰土の崩落土。
 第26層 10YR5/6暗褐色浮石 硅の火山灰土の崩落土。
 第27層 10YR4/6暗褐色浮石 硅の火山灰土の崩落土。
 第28層 10YR6/4にぶい黄褐色粘土質火山灰土 硅の火山灰土の崩落土。
 第29層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土 硅の火山灰土の崩落土。
 第30層 10YR6/6明褐色シルト 買火山灰土 硅の火山灰土の崩落土。
 第31層 10YR1/1黑色砂質シルト
 第32層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土 硅の火山灰土の崩落土。

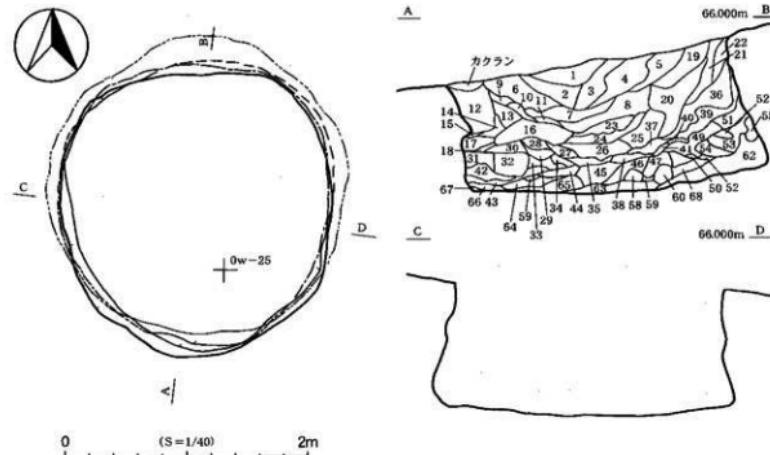
図11 第201号土坑

は、多くは開口部より内側に分布している。

接合例は35例認められた。数十cmのレベル差のものが接合する場合がある。また、遺構外の遺物と接合する例、遺構間接合する例がある。

土器の数量は、口縁部で14点（10個体：（）内は個体識別を行った場合の個体数）、底部が6点（5個体）、口縁部と胴部の組み合わせが不明なものがあるため、口縁部・胴部・底部すべてについて個体識別を行った場合は13個体分を識別することができる。同一個体でも出土位置に相当程度のレベル差・層位差が認められる。

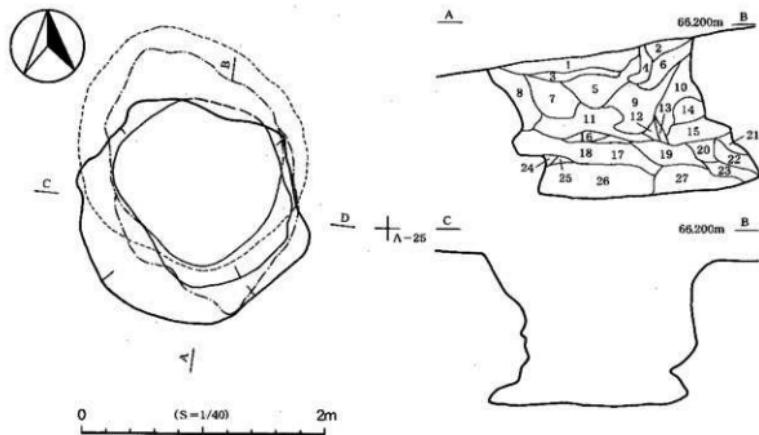
以上の点から、第199号土坑出土遺物は、周辺に廃棄された遺物が自然營力によって移動し、時間差を持って土壤とともに流入したものと考えられ、堆積土の様相とも調和的である。従って、遺物の出土状況からも遺構堆積土の形成過程をある程度復元することは可能であると考えられる。



SK-202

- 第1層 10YR2/3 黒褐色砂質シルト $\phi 5mm$ の黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと暗褐色砂質シルトの複状構造。
- 第2層 10YR2/2 黒褐色砂質シルト $\phi 5mm$ の黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと暗褐色砂質シルトの複状構造。
- 第3層 10YR2/3 黒褐色砂質シルト $\phi 5mm$ の黄褐色浮石微量。灰化物粒微量。暗褐色砂質シルトと暗褐色砂質シルトの複状構造。
- 第4層 10YR4/4 黑褐色シルト 上半部は暗褐色砂質シルトとの複状構造。
- 第5層 10YR2/2 黒褐色砂質シルト $\phi 3mm$ の黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと暗褐色砂質シルトの複状構造。
- 第6層 10YR3/3 黑褐色砂質シルト $\phi 5mm$ の黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと暗褐色砂質シルトの複状構造。
- 第7層 10YR2/2 黒褐色砂質シルト $\phi 3mm$ の黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと暗褐色砂質シルトの複状構造。
- 第8層 10YR3/3 黑褐色砂質シルト $\phi 2mm$ の黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと暗褐色砂質シルトの複状構造。
- 第9層 10YR2/3 黑褐色砂質シルト 暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトの複状構造。
- 第10層 10YR3/4 黑褐色砂質シルト $\phi 5mm$ の黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと暗褐色砂質シルトの複状構造。
- 第11層 10YR4/6 黑褐色砂質シルト 買火山灰土
- 第12層 10YR5/2 黑褐色砂質シルト 灰化物粒微量。暗褐色砂質シルトと暗褐色砂質シルトの複状構造。
- 第13層 10YR3/3 黑褐色砂質シルト $\phi 5mm$ の黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと暗褐色砂質シルトの複状構造。
- 第14層 10YR3/4 黑褐色砂質シルト $\phi 5mm$ の黄褐色浮石微量。
- 第15層 10YR4/6 黑褐色シルト 買火山灰土
- 第16層 10YR2/2 黒褐色砂質シルト $\phi 2mm$ の黄褐色浮石微量。
- 第17層 10YR4/6 黑褐色砂質シルト 灰の崩落による火山灰土ブロック含む。
- 第18層 10YR3/3 黑褐色砂質シルト
- 第19層 10YR2/3 黑褐色砂質シルト $\phi 1cm$ の黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと暗褐色砂質シルトの複状構造。
- 第20層 10YR3/3 黑褐色砂質シルト $\phi 5mm$ の黄褐色浮石少量。暗褐色砂質シルトと暗褐色砂質シルトの複状構造。
- 第21層 10YR2/4 黑褐色砂質シルト $\phi 3mm$ の黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと暗褐色砂質シルトの複状構造。
- 第22層 10YR5/6 黑褐色シルト $\phi 5mm$ の浮石少量。灰の崩落による黄褐色火山灰土ブロック含む。
- 第23層 10YR2/3 黑褐色砂質シルト $\phi 2mm$ の浮石少量。
- 第24層 10YR3/2 黑褐色砂質シルト $\phi 2mm$ の黄褐色浮石少量。
- 第25層 10YR3/3 黑褐色砂質シルト 灰化物粒ブロック含む。
- 第26層 10YR2/3 黑褐色砂質シルト $\phi 3mm$ の黄褐色浮石少量。
- 第27層 10YR4/4 黑褐色火山灰土
- 第28層 10YR5/8 黑褐色火山灰土
- 第29層 10YR3/4 黄褐色砂質シルト
第30層 10YR4/6 黑褐色火山灰土
- 第31層 10YR3/3 黑褐色砂質シルト 灰化物粒ブロック状に崩落したものと考えられ、非常に堅い。
- 第32層 10YR6/7 黑褐色砂質シルト 買火山灰土 ブロック状に崩落したものと考えられ、非常に堅い。
- 第33層 10YR4/6 黑褐色シルト 買火山灰土。
- 第34層 10YR2/3 黑褐色砂質シルト
- 第35層 10YR2/3 黑褐色砂質シルト
- 第36層 10YR3/4 黑褐色砂質シルトと10YR4/6 黑褐色火山灰土が不均一に混合したものの、
10YR4/6 黑褐色シルトと買火山灰土と10YR3/3 黑褐色砂質シルトの混
合土。
- 第37層 10YR4/6 黑褐色シルトと買火山灰土と10YR3/3 黑褐色砂質シルトの混
合土。
- 第38層 10YR2/3 黑褐色砂質シルト
- 第39層 10YR4/5 黑褐色火山灰土 黒褐色砂質シルトを一部に含む。
- 第40層 10YR3/4 黑褐色砂質シルト
- 第41層 10YR4/4 黑褐色砂質シルト
- 第42層 10YR6/7 黑褐色火山灰土
- 第43層 10YR4/4 黑褐色砂質シルト
- 第44層 10YR3/2 黑褐色砂質シルト
- 第45層 10YR3/3 黑褐色砂質シルト $\phi 2mm$ の黄褐色浮石少量。
- 第46層 10YR4/5 黑褐色砂質シルト $\phi 5mm$ の火山灰土ブロック含む。
- 第47層 10YR2/3 黑褐色砂質シルト
- 第48層 10YR6/8 黄褐色浮石 $\phi 2mm$ 。
- 第49層 10YR5/8 黄褐色火山灰土
- 第50層 10YR5/2 黄褐色火山灰土
- 第51層 10YR5/6 黑褐色粘土質火山灰土
- 第52層 10YR7/6 黄褐色砂質火山灰土
- 第53層 10YR5/4 ぶい黄褐色粘土質買火山灰土
- 第54層 10YR6/6 黑褐色粘土シルト 買火山灰土
- 第55層 10YR4/3 ぶい黄褐色粘土質買火山灰土
- 第56層 10YR5/3 ぶい黄褐色粘土質買火山灰土
- 第57層 10YR2/2 黄褐色砂質シルト
- 第58層 10YR5/6 黄褐色火山灰土 ブロック状に崩落したものと思われ
堅い。
- 第59層 10YR2/3 黑褐色砂質シルト
- 第60層 10YR6/6 黄褐色火山灰土 ブロック状に崩落したものと思われ
堅い。

図12 第202号土坑

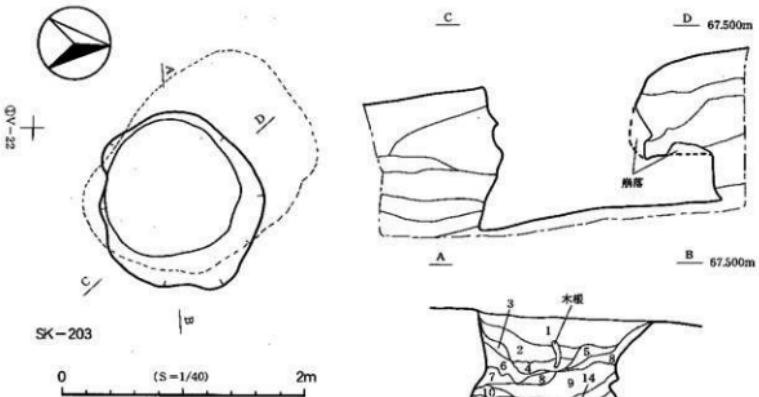


- 第12層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 10YR3/2 黒褐色砂質シルトが斑状に認められる。
- 第13層 10YR2/3黒褐色砂質シルト 本底による埋没。
- 第14層 10YR4/4暗褐色火山灰土と10YR2/3暗褐色砂質シルトの混合土
- 第15層 10YR2/2黒褐色砂質シルト $\phi 3\text{mm}$ の浮石含む。
- 第16層 10YR3/2黒褐色砂質シルト $\phi 5\text{mm}$ の浮石含む。
- 第17層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
- 第18層 10YR3/2黒褐色砂質シルト
- 第19層 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト 10YR4/6 黄色火山灰土が葉理状に認められる。
- 第20層 10YR4/6褐色火山灰土と黒色砂質シルトの互層
- 第21層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
- 第22層 10YR6/6明黄色火山灰土質火山灰土 壁の火山灰土の堆積土
- 第23層 10YR4/6暗褐色シルト
- 第24層 10YR5/6暗褐色火山灰土 振りすぎ。
- 第25層 10YR4/4褐色浮石と黑色砂質シルトの互層土。
- 第26層 10YR3/2黒褐色シルト $\phi 3\text{mm}$ の黄褐色石英量。
- 第27層 10YR2/2黒褐色砂質シルト

番号	層位	外曲文様等	内面調査等	胎土	時期	備考
1	4層	RLL横位回転	絞り方向のミガキ	繊維状石英	前段末～中期初	

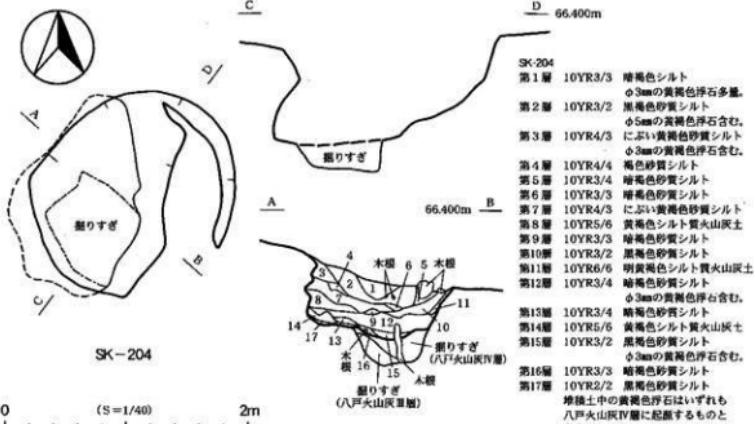
番号	層位	外曲文様等	内面調査等	胎土	時期	備考
1	2層	多軸(R+L 二本一組)縦位	絞り方向のミガキ	繊維状石英	前段末～中期初	

図13 第205号土坑・第202号土坑出土遺物



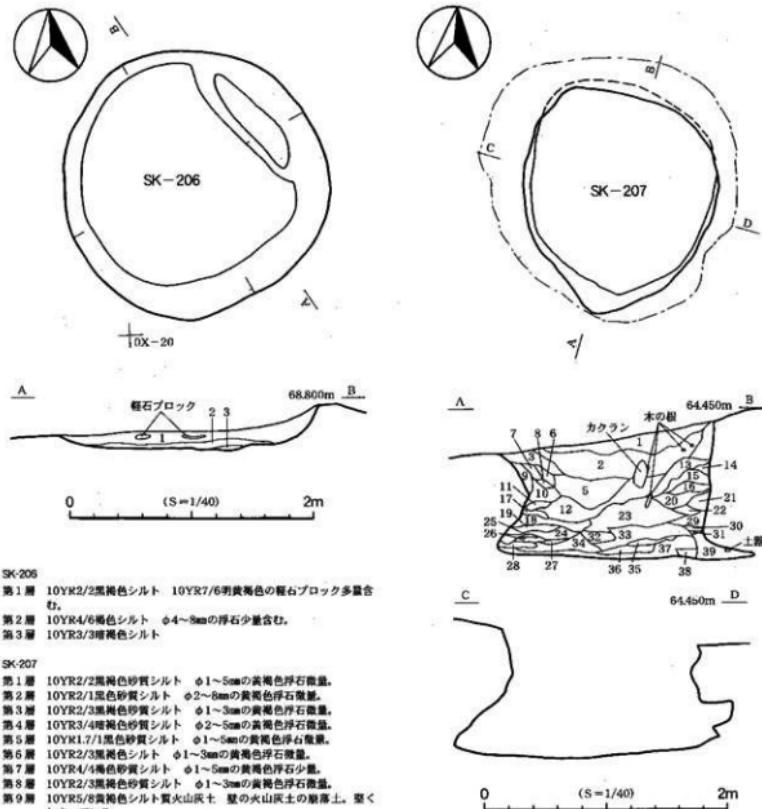
SK-203
 第1層 10YR2/3 黒褐色砂質シルト 0~2mmの黄褐色浮石混む。
 第2層 10YR3/3 黑褐色砂質シルト 0~5mmの黄褐色浮石含む。
 第3層 10YR3/4 黑褐色砂質シルト 0~3mmの黄褐色浮石含む。
 第4層 10YR3/2 黑褐色砂質シルト 0~3mmの黄褐色浮石含む。
 第5層 10YR3/3 黑褐色砂質シルト 0~3mmの黄褐色浮石含む。
 第6層 10YR3/2 黑褐色砂質シルト
 第7層 10YR3/4 黑褐色シルト質火成灰土 壁の火成灰土の崩落土。
 第8層 10YR3/3 黑褐色砂質シルト
 第9層 10YR2/3 黑褐色砂質シルト
 第10層 10YR4/6 海色シルト質火成灰土 壁の火成灰土の崩落土。
 第11層 10YR2/3 黑褐色砂質シルト 0~3mmの黄褐色浮石含む。
 第12層 10YR3/3 黑褐色シルト 壁の火成灰土の崩落土を含む。
 第13層 10YR5/6 黄褐色砂質シルト質火成灰土
 どちらも壁の火成灰土の崩落。
 第14層 10YR3/2 黑褐色砂質シルト

第15層 10YR2/2 黑褐色砂質シルト
 第16層 10YR3/2 黑褐色砂質シルト
 10YR5/6 黄褐色火成灰土ブロック50%
 第17層 10YR2/3 黑褐色砂質シルト
 第18層 10YR4/4 海色シルト質火成灰土。壁の火成灰土の崩落土。
 第19層 10YR2/3 黑褐色砂質シルト
 第20層 10YR3/3 黑褐色砂質シルト
 第21層 10YR3/4 黑褐色砂質シルト
 第22層 10YR4/2 灰褐色シルト
 第23層 10YR3/3 黑褐色砂質シルト
 第24層 10YR3/3 黑褐色砂質シルト質火成灰土
 第25層 10YR2/3 黑褐色砂質シルト



第1層 10YR3/3 海色シルト
 0~3mmの黄褐色浮石多量。
 第2層 10YR3/2 黑褐色砂質シルト
 0~5mmの黄褐色浮石含む。
 第3層 10YR4/3 に付い黄褐色砂質シルト
 0~3mmの黄褐色浮石含む。
 第4層 10YR4/4 黑褐色砂質シルト
 第5層 10YR3/4 黑褐色砂質シルト
 第6層 10YR3/3 黑褐色砂質シルト
 第7層 10YR4/3 黑褐色砂質シルト
 第8層 10YR5/6 黄褐色シルト質火成灰土
 第9層 10YR3/3 黄褐色砂質シルト
 第10層 10YR2/3 黑褐色砂質シルト
 第11層 10YR6/6 明黄褐色シルト質火成灰土
 第12層 10YR3/4 黄褐色砂質シルト
 0~3mmの黄褐色浮石含む。
 第13層 10YR3/4 黄褐色砂質シルト
 第14層 10YR6/6 黄褐色シルト質火成灰土
 第15層 10YR3/2 黑褐色砂質シルト
 0~3mmの黄褐色浮石含む。
 第16層 10YR3/2 黑褐色砂質シルト
 第17層 10YR2/2 黑褐色砂質シルト
 増殖土中の黄褐色浮石はいずれも
 八戸火成灰土層に起源するものと
 考えられる。

図14 第203・204号土坑



- SK-205:**
- 第1層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1~5mmの黄褐色浮石微量含む。
 - 第2層 10YR4/6褐色シルト φ4~8mmの浮石少量含む。
 - 第3層 10YR3/3暗褐色シルト
- SK-207:**
- 第1層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1~5mmの黄褐色浮石微量含む。
 - 第2層 10YR2/1黒色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量含む。
 - 第3層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量含む。
 - 第4層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量含む。
 - 第5層 10YR1.7/1黒色砂質シルト φ1~5mmの黄褐色浮石微量含む。
 - 第6層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量含む。
 - 第7層 10YR4/3褐色砂質シルト φ1~5mmの黄褐色浮石少量。
 - 第8層 10YR2/3暗褐色砂質シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
 - 第9層 10YR5/8黄褐色シルト質火山灰土。壁の火山灰土の崩落土。堅くしまっている。
 - 第10層 10YR2/3暗褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
 - 第11層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土。壁の火山灰土の崩落土。堅くしまっている。φ2~5mmの浮石微量。
 - 第12層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
 - 第13層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
 - 第14層 10YR3/4暗褐色砂質シルト 質火山灰土。ブロック状に崩落したと思われ。堅くしまっている。壁の火山灰土の崩落土。φ2~5mmの浮石微量。
 - 第15層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ1~5mmの黄褐色浮石微量。
 - 第16層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
 - 第17層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
 - 第18層 10YR3/2暗褐色砂質シルト φ3~5mmの浮石微量。壁に、崩落土上に思われる10YR4/6褐色土が幅10cmほどじる。
 - 第19層 10YR4/6褐色火山灰土。壁の崩落土。φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
 - 第20層 10YR2/3暗褐色砂質シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
 - 第21層 10YR4/6褐色火山灰土。壁の崩落土。φ3~10mmの黄褐色浮石微量。
 - 第22層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
 - 第23層 10YR2/3暗褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
 - 第24層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ1~5mmの黄褐色浮石微量。
 - 第25層 10YR4/6褐色土 壁の崩落土。
 - 第26層 10YR3/4暗褐色シルト φ3~10mmの黄褐色浮石含む。
 - 第27層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土。壁の火山灰土の崩落土。堅くしまっている。

- 第28層:** 10YR5/8黄褐色シルト質火山灰土。壁の火山灰土の崩落土。堅くしまっている。φ1~3mmの浮石微量。
- 第29層:** 10YR6/8明褐色シルト質火山灰土。
- 第30層:** 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
- 第31層:** 10YR3/4暗褐色土 壁の崩落土。堅くしまっている。
- 第32層:** 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ1~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第33層:** 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第34層:** 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第35層:** 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ2~10mmの黄褐色浮石微量。
- 第36層:** 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第37層:** 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2~10mmの黄褐色浮石微量。
- 第38層:** 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第39層:** 10YR2/1黒色砂質シルト φ2~10mmの黄褐色浮石微量。

図15 第206・207号土坑



SK-205

番号	層位	外面文様等	内面調整等
1	2層	単輪1頭(R) 縦微凹板	やや風化 繩方向のミガキ
2	2層	単輪1頭(R+R 二本一組) 縦微	やや風化 繩方向のミガキ
3	39層	単輪1頭(R+R 二本一組) 縦微	風化

0 (S=1/3) 5cm

胎土	時期	備考
鐵石英	前期末～中期初頭	
鐵石英 黒	前期末～中期初頭	
鐵浮石英黒	前期末～中期初頭	

SK-208

- 第1層 10YR2/2褐色砂質シルト $\phi 2\sim5\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。
 第2層 10YR2/1黒色砂質シルト $\phi 1\sim3\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。
 第3層 10YR1.7/1黒色砂質シルト $\phi 2\sim10\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。
 第4層 10YR2/2褐色砂質シルト $\phi 2\sim5\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。
 第5層 10YR1.7/1黒色砂質シルト $\phi 1\sim3\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。炭化材少量出土。
 第6層 10YR1.7/1黒色砂質シルト $\phi 1\sim3\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。
 第7層 10YR2/2褐色シルト $\phi 3\sim10\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。
 第8層 10YR1.7/1黒色砂質シルト $\phi 1\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。炭化材少量出土。
 第9層 10YR1.7/1黒色砂質シルト $\phi 2\sim5\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。炭化材少量出土。
 第10層 10YR2/1黒色砂質シルト $\phi 2\sim5\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。炭化材少量出土。
 第11層 10YR2/3黒褐色シルト $\phi 1\sim3\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。
 第12層 10YR3/1黒褐色砂質シルト $\phi 1\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。
 第13層 10YR2/2黒褐色砂質シルト $\phi 1\sim3\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。
 第14層 10YR2/1黒色砂質シルト $\phi 1\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。炭化材少量出土。
 第15層 10YR3/3黒褐色砂質シルト $\phi 1\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。炭化材少量出土。
 第16層 10YR1.7/1黒色砂質シルト $\phi 1\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。炭化材少量出土。
 第17層 10YR2/2黒褐色砂質シルト $\phi 1\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。炭化材少量出土。
 第18層 10YR2/1黒色砂質シルト $\phi 1\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。炭化材出土層。
 第19層 10YR3/4黒褐色砂質シルト 炭化材出土層。

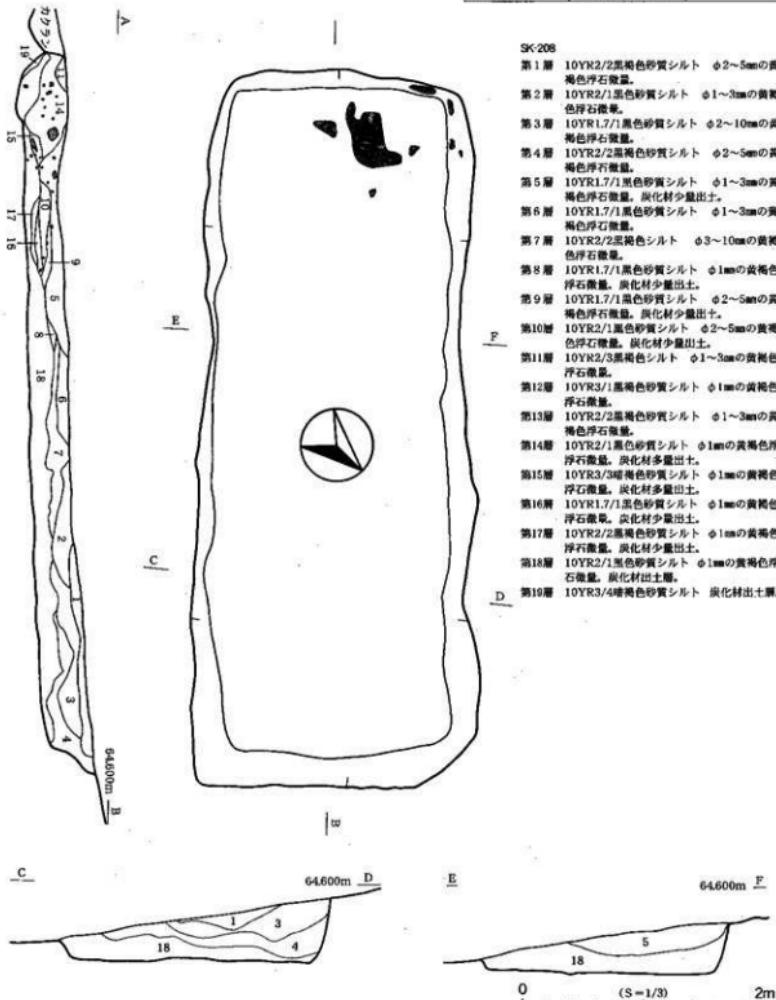


図16 第207号土坑出土遺物・第208号土坑

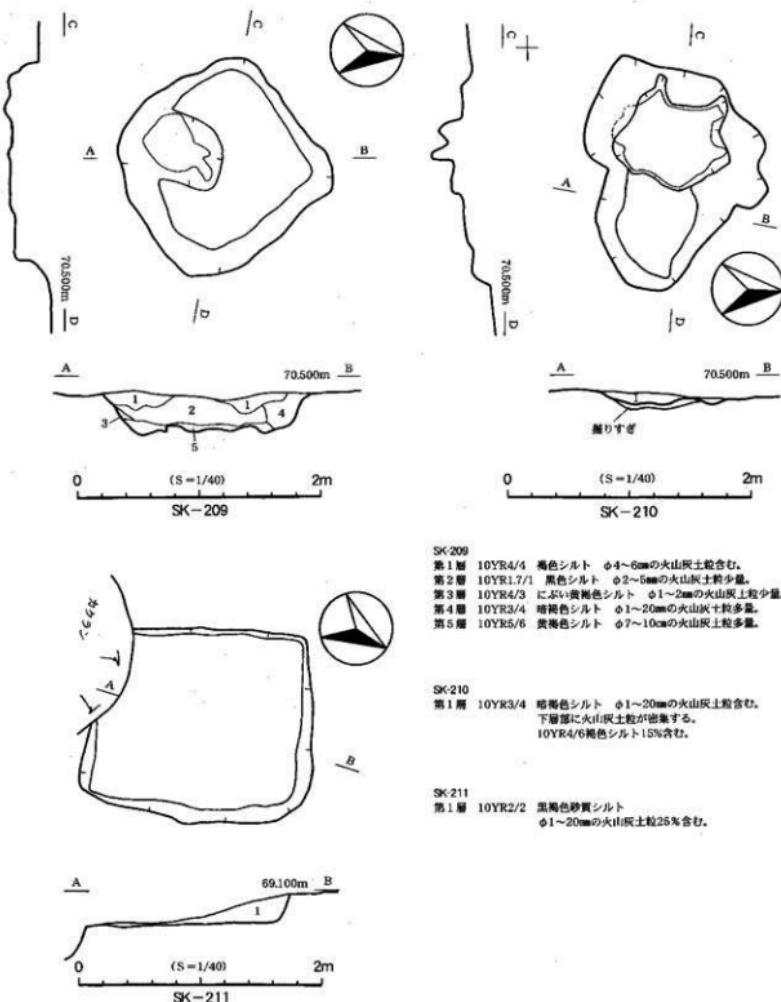
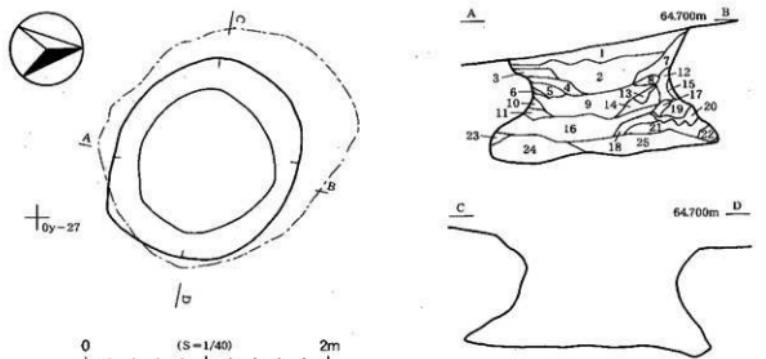
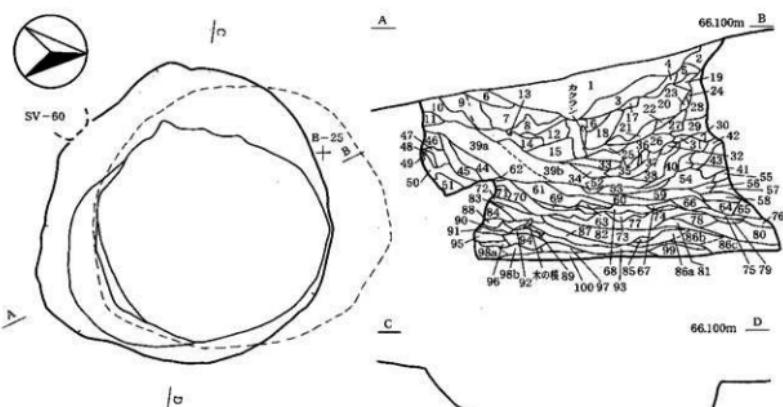


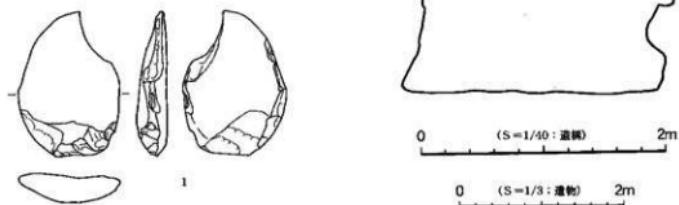
図17 第209・210・211号土坑



SK-213



SK-214



0 (S=1/40: 遺構) 2m
0 (S=1/3: 遺物) 2m

番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
1	SK-214	16			8.8	6.3	1.9	105.8	ホルンフェルス	

図18 第213・214号土坑

SK-213

- 第1層 10YR2/2黒褐色砂質土 $\phi 1\sim3\text{mm}$ の浮石微量。
 第2層 10YR2/2黒褐色砂質土 壊状構造。
 第3層 10YR2/2黒褐色砂質土 $\phi 1\sim3\text{mm}$ の浮石微量。
 第4層 10YR2/2黒褐色砂質土 $\phi 1\sim5\text{mm}$ の浮石微量。
 第5層 10YR2/2黒褐色砂質土 $\phi 1\text{mm}$ の浮石微量。
 第6層 10YR2/2黒褐色砂質土 $\phi 1\text{mm}$ の浮石微量。
 第7層 10YR2/3暗褐色砂質土 $\phi 2\sim5\text{mm}$ の浮石微量。
 第8層 10YR2/3暗褐色砂質土 $\phi 1\text{mm}$ の浮石微量。
 第9層 10YR2/3暗褐色砂質土 $\phi 1\sim5\text{mm}$ の浮石微量。
 第10層 10YR3/3暗褐色砂質土 $\phi 1\text{mm}$ の浮石微量。壁の火山灰土の崩落土。
 第11層 10YR3/3暗褐色砂質土 $\phi 2\sim5\text{mm}$ の浮石微量。壁の火山灰土の崩落土。
 第12層 10YR3/3暗褐色砂質土 $\phi 2\sim5\text{mm}$ の浮石微量。崩落土。
 第13層 10YR3/3暗褐色砂質土 $\phi 1\sim3\text{mm}$ の浮石微量。
 第14層 10YR3/2黒褐色砂質土 $\phi 1\sim3\text{mm}$ の浮石微量。左側に夾状構造

を持つ。

SK-214

- 第1層 10YR2/3暗褐色砂質土 灰土粒微量。 $\phi 3\text{mm}$ の黄褐色浮石含む。
 第2層 10YR2/3暗褐色砂質土 $\phi 3\text{mm}$ の黄褐色浮石含む。壊状構造。
 第3層 10YR2/2黒褐色砂質土 $\phi 3\text{mm}$ の黄褐色浮石含む。壊状構造。
 第4層 10YR3/3暗褐色砂質土 $\phi 3\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。
 第5層 10YR2/2黒褐色砂質土 $\phi 3\text{mm}$ の黄褐色浮石含む。
 第6層 10YR2/2黒褐色砂質土 $\phi 3\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。
 第7層 10YR2/2黒褐色砂質土 $\phi 5\text{mm}$ の黄褐色浮石多量。炭化物微量。
 第8層 10YR2/3暗褐色砂質土 $\phi 3\text{mm}$ の黄褐色浮石含む。
 第9層 10YR2/3暗褐色砂質土 $\phi 3\text{mm}$ の黄褐色浮石含む。
 第10層 10YR5/6黄褐色砂質土火山灰土。半分は黒色土と混じり合う。
 第11層 10YR2/3暗褐色砂質土 $\phi 2\text{mm}$ の黄褐色浮石微量。
 第12層 10YR2/3暗褐色砂質土 灰土粒微量。
 第13層 10YR3/3暗褐色砂質土
 第14層 10YR3/3暗褐色砂質土 $\phi 5\text{mm}$ の黄褐色浮石含む。
 第15層 10YR3/3暗褐色砂質土
 第16層 10YR3/3暗褐色砂質土 $\phi 5\text{mm}$ の黄褐色浮石含む。
 第17層 10YR3/3暗褐色砂質土 $\phi 5\text{mm}$ の黄褐色浮石含む。
 第18層 10YR3/3暗褐色砂質土 $\phi 5\text{mm}$ の黄褐色浮石含む。
 第19層 10YR4/4暗褐色砂質土 $\phi 1\sim10\text{mm}$ の浮石少量。崩落土と思われる。
 第20層 10YR2/3暗褐色砂質土 $\phi 1\sim10\text{mm}$ の浮石少量。右側部分崩落土が多く確認される。
 第21層 10YR3/4暗褐色砂質土 $\phi 2\sim5\text{mm}$ の浮石微量。
 第22層 10YR5/6暗褐色砂質土と思われる。 $\phi 3\sim5\text{mm}$ の浮石多量。もうく崩れやすい。
 第23層 10YR4/3^cぶい黄褐色砂質土 崩落土と思われる。堅くしまりがある。
 第24層 10YR2/3暗褐色砂質土 $\phi 3\sim5\text{mm}$ の浮石微量。
 第25層 10YR2/3暗褐色砂質土 $\phi 1\sim3\text{mm}$ の浮石微量。

第15層 10YR3/4暗褐色砂質土 $\phi 2\sim5\text{mm}$ の浮石微量。崩落土と思われる。第16層 10YR2/2暗褐色砂質土 $\phi 1\sim5\text{mm}$ の浮石微量。第17層 10YR3/3暗褐色砂質土 $\phi 1\sim3\text{mm}$ の浮石微量。崩落土と思われる。第18層 10YR3/2暗褐色砂質土 $\phi 1\sim3\text{mm}$ の浮石微量。第19層 10YR4/4暗褐色砂質土 $\phi 1\sim10\text{mm}$ の浮石少量。崩落土と思われる。第20層 10YR2/3暗褐色砂質土 $\phi 1\sim10\text{mm}$ の浮石少量。右側部分崩落土が多く確認される。第21層 10YR3/4暗褐色砂質土 $\phi 2\sim5\text{mm}$ の浮石微量。第22層 10YR5/6暗褐色砂質土と思われる。 $\phi 3\sim5\text{mm}$ の浮石多量。もうく崩れやすい。第23層 10YR4/3^cぶい黄褐色砂質土 崩落土と思われる。堅くしまりがある。第24層 10YR2/3暗褐色砂質土 $\phi 3\sim5\text{mm}$ の浮石微量。第25層 10YR2/3暗褐色砂質土 $\phi 1\sim3\text{mm}$ の浮石微量。

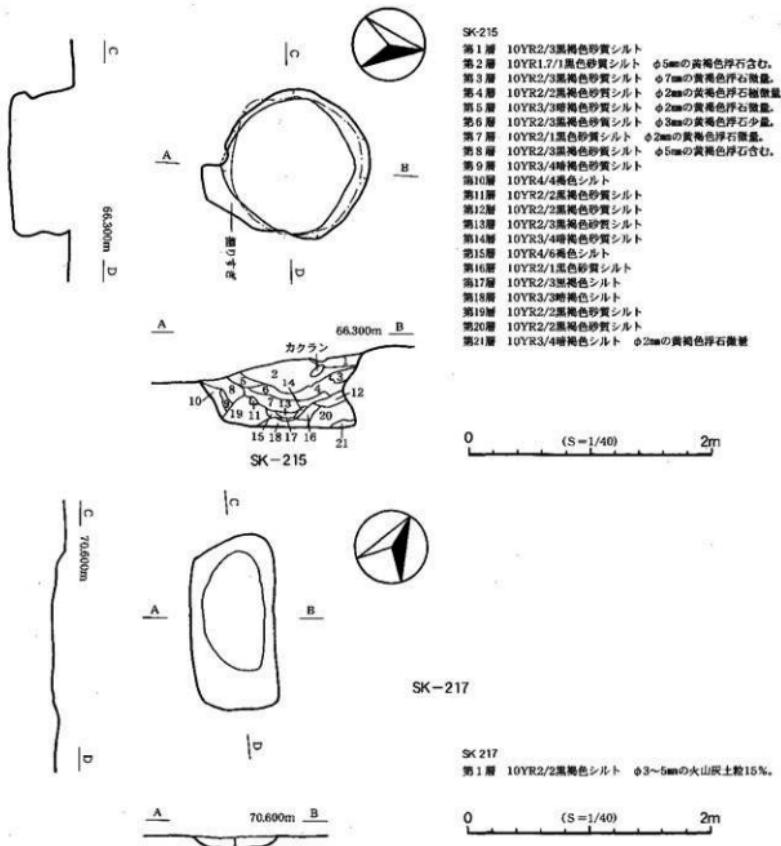


図19 第215・217号土坑

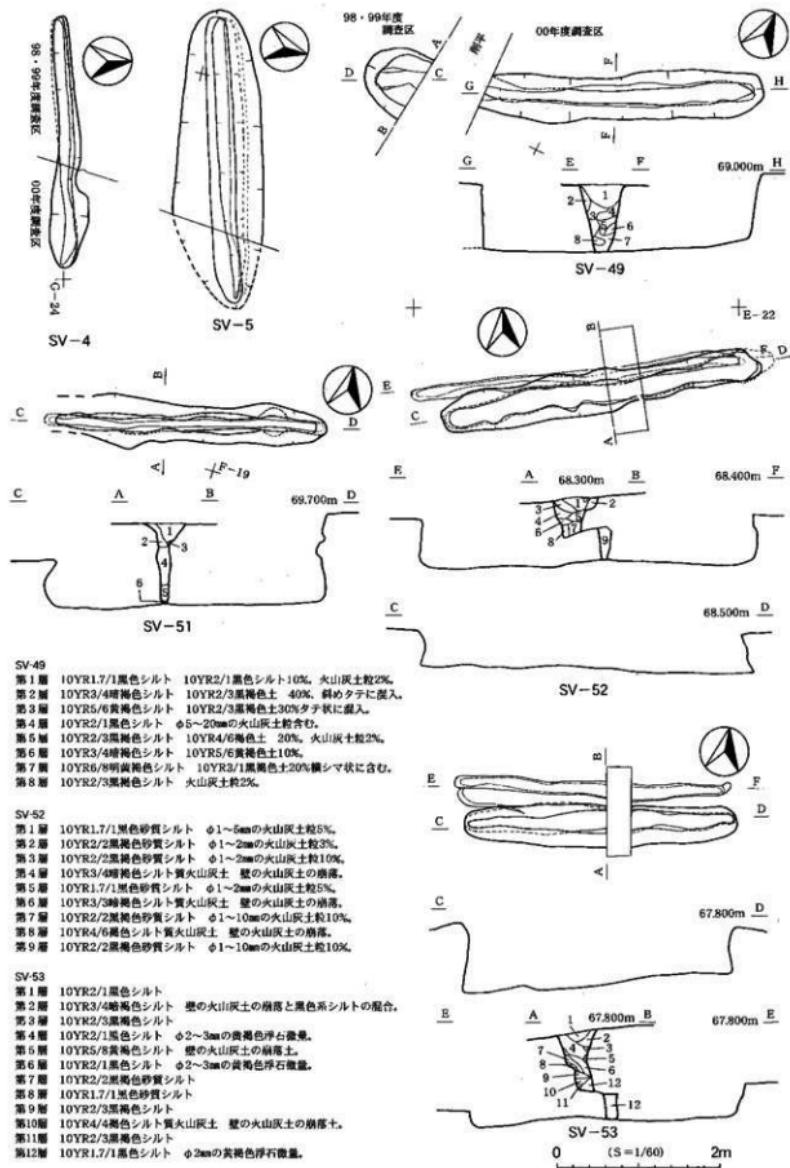
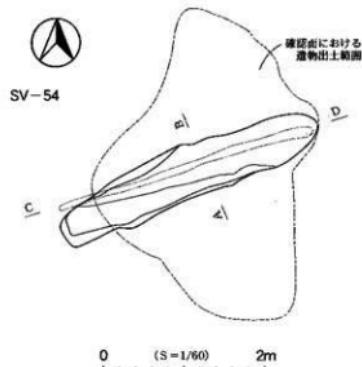
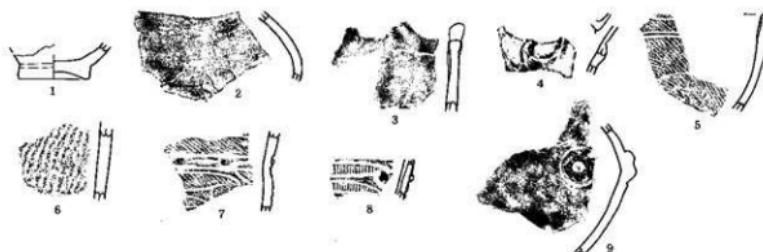
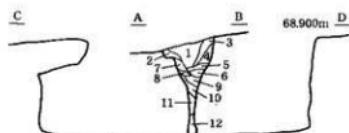


図20 第4・5・49・51・52・53号溝状土坑



- SV-54
第1層 10YR1.7/1褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石混在。
第2層 10YR2/1褐色砂質シルト
第3層 10YR3/1褐色砂質砂質シルト
第4層 10YR2/4褐色砂質シルト
第5層 10YR3/4褐色砂質シルト
第6層 10YR2/1褐色砂質シルト
第7層 10YR3/4褐色シルト質火山灰土 壁の大山灰土の崩落土。
第8層 10YR2/2褐色シルト
第9層 10YR3/4褐色シルト
第10層 10YR3/2褐色シルト φ5mmの火山灰土含む。
第11層 10YR2/3褐色砂質シルト 大山灰土粒多量含む。
第12層 10YR2/2褐色砂質シルト



番号	層位	外面文様等	内面倒節等	胎土	時期	備考
1	地表	ミガキ	ミガキ	石英岩	後期末～晩期初	
2	確認面	横方向のミガキ	横方向のミガキ	石英岩	後期末～晩期初	
3	確認面	U字縫合：二面の凹部・側方向のミガキ	側方向のミガキ	石英岩	後期末～晩期初	
4	確認面	ミガキ	ナデ	浮	後期末～晩期初	
5	確認面	平行な横縫合・R.L.横断面凹部	斜方向のミガキ	浮	後期末～晩期初	
6	確認面	U字縫合凹部	側方向のミガキ	石英岩	後期末～晩期初	
7	確認面	地文：U字縫合凹部 口縫部：平行沈縫 腹部：平行沈縫と背縫間の粘土沈縫付 網縫：入り組み文	風化	石英長石	後期末～晩期初	
8	確認面	縫合の隨みで充填された入り組み文 入り組み文の曲折部に縫合の施された 網十網縫付。	剥離	石英長	後期末～晩期初	
9	確認面	ミガキ	工具ナデ	石英岩	後期末～晩期初	

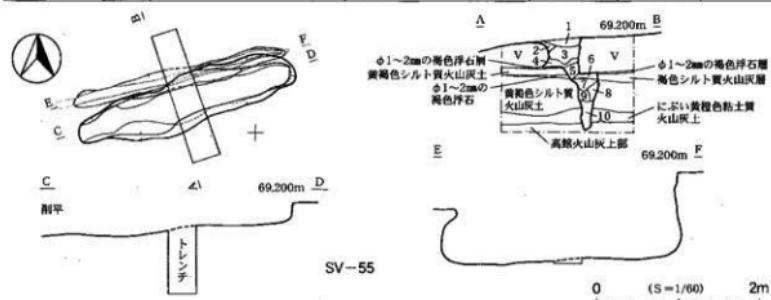


図21 第54・55号溝状土坑

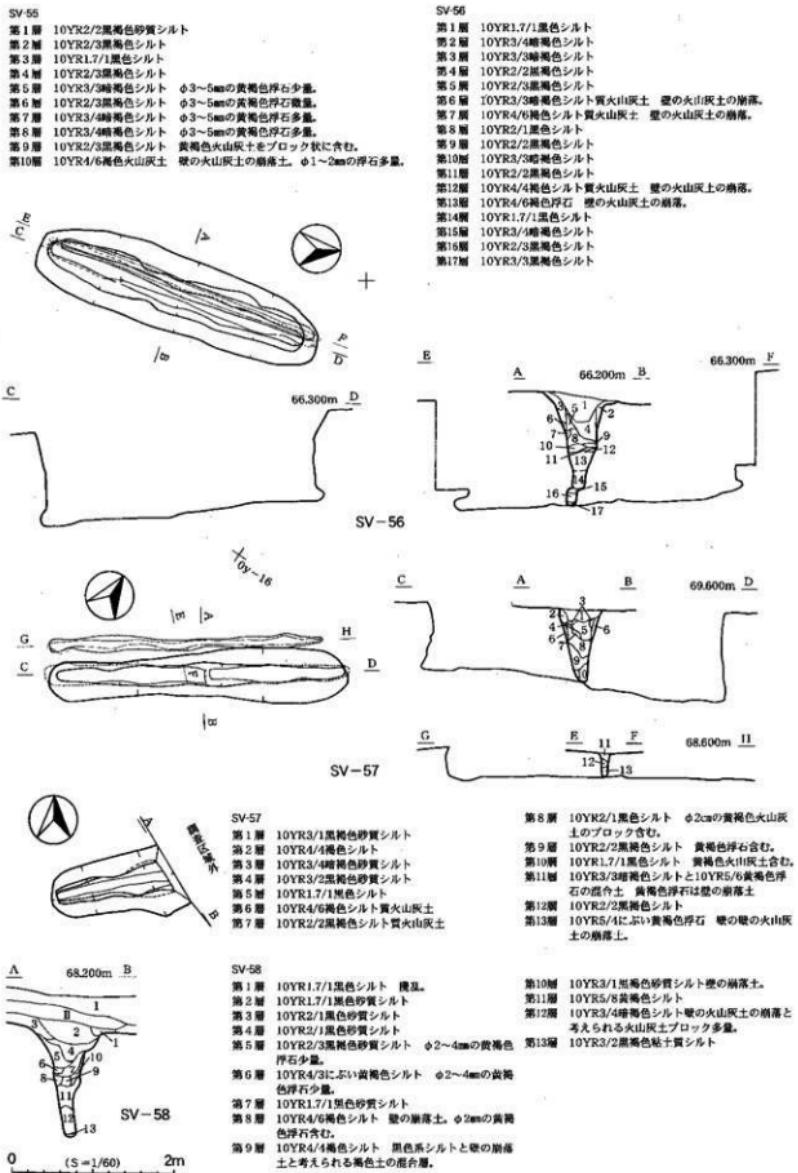


図22 第56・57・58号溝状土坑

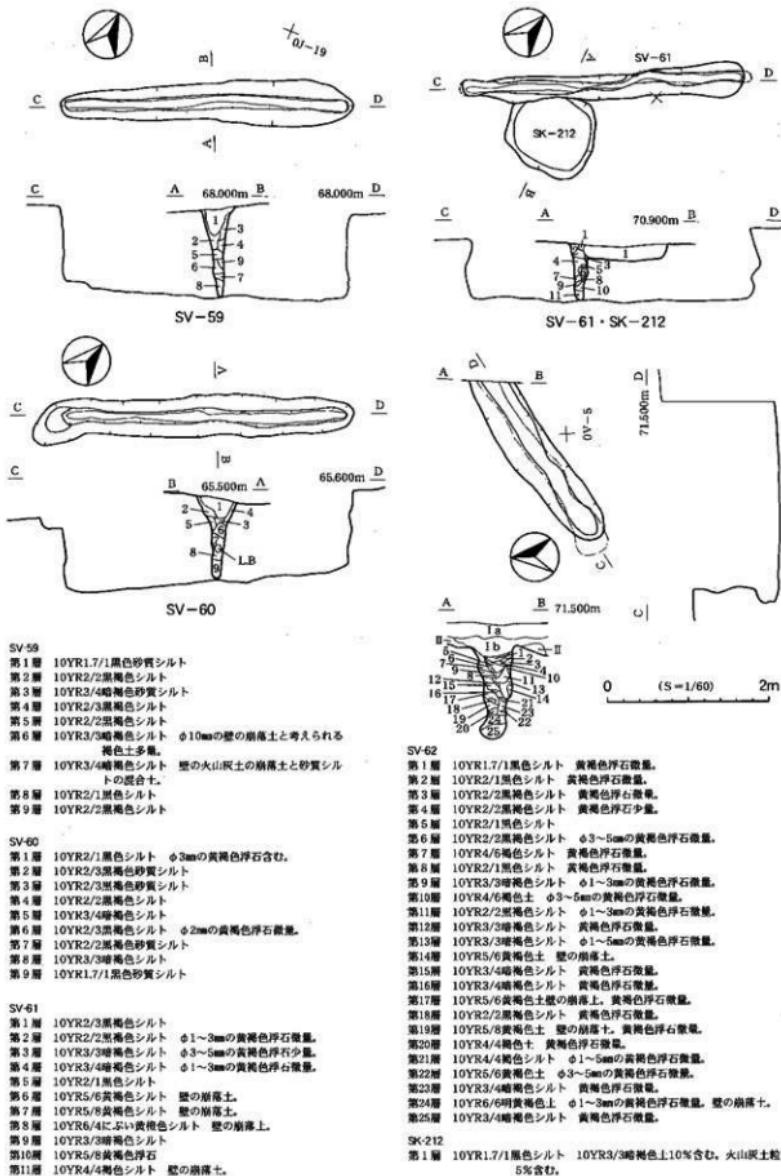


図23 第59・60・61・62号溝状土坑 第212号土坑

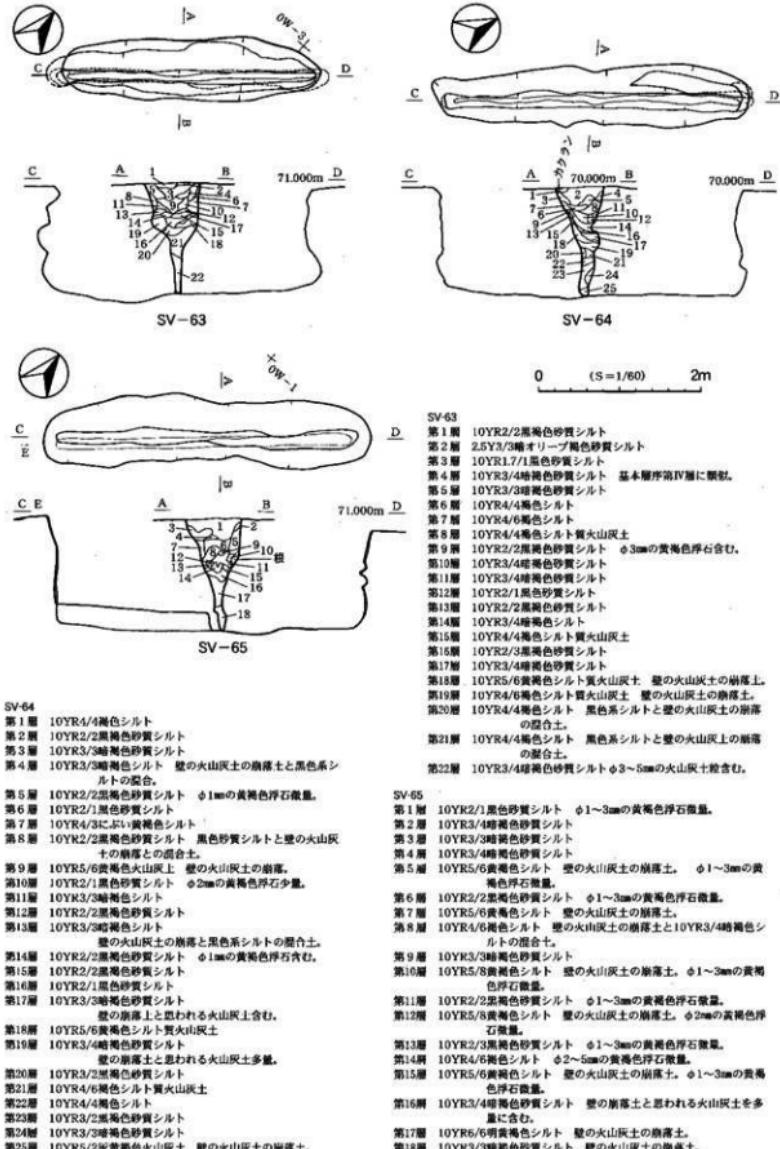


図24 第63・64・65号溝状土坑

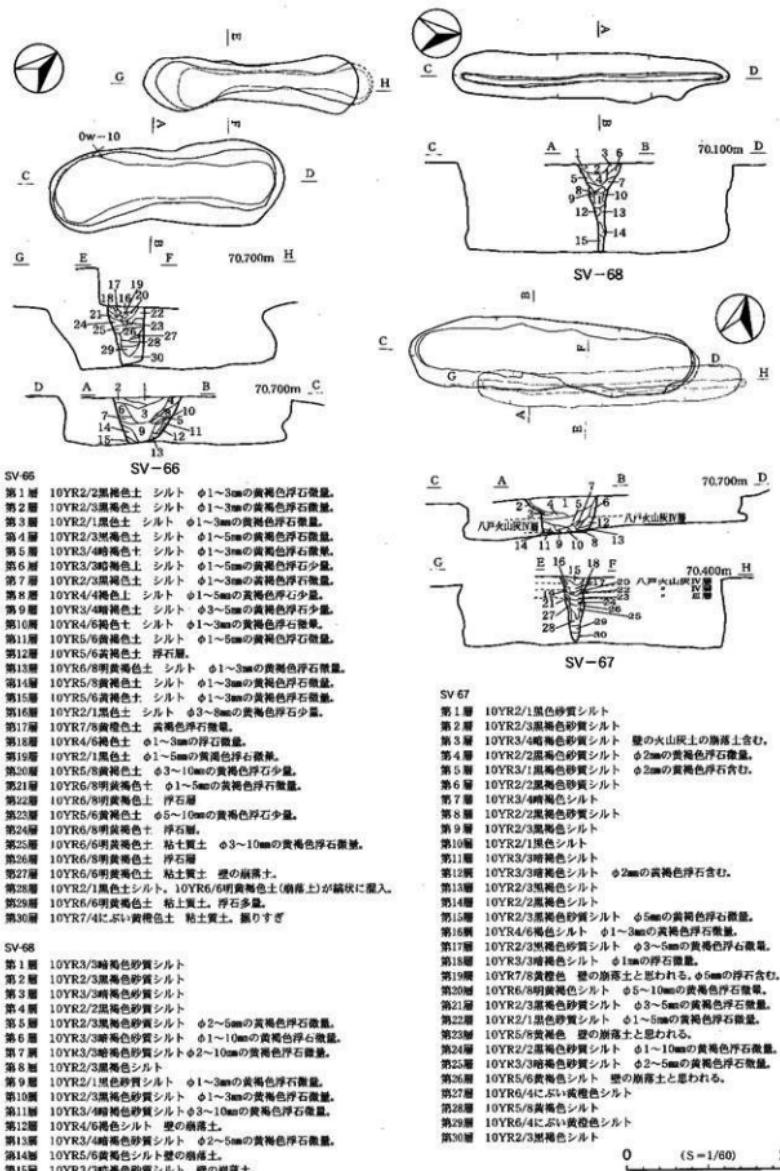


図25 第66・67・68号溝状土坑

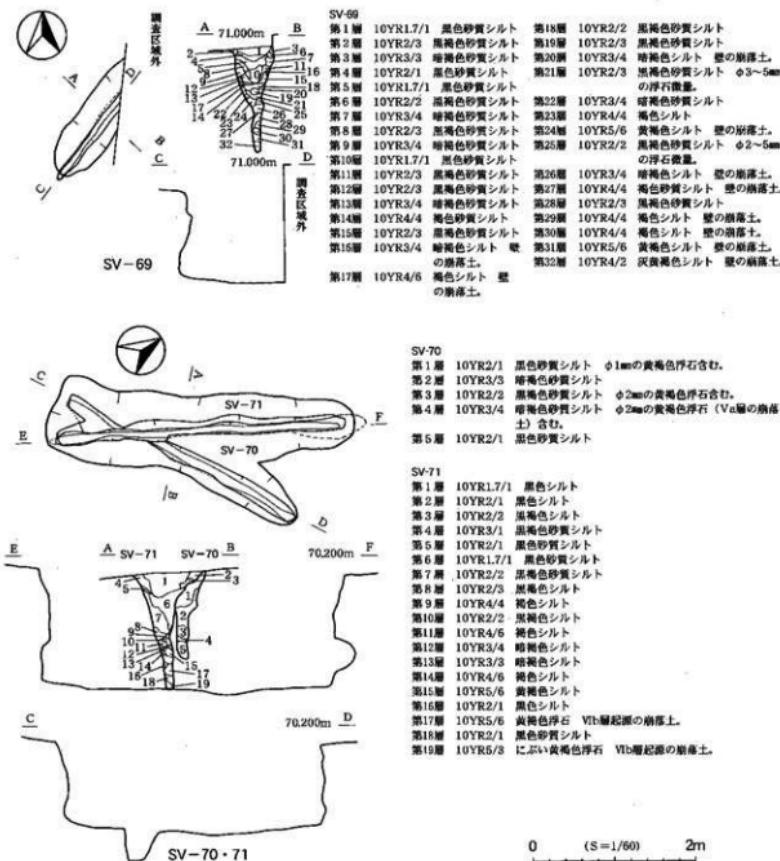


図26 第69・70・71号溝状土坑

溝状土坑の堆積土について

溝状土坑についてもフラスコ状土坑と同様の判断基準により自然堆積であると判断され、詳述しない。ここでは第70・71号溝状土坑の堆積土について若干留意されたことを述べる。

第70・71号溝状土坑は重複し、第70号溝状土坑が古く、第71号溝状土坑が新しい。堆積土は第70号溝状土坑に比べて第71号溝状土坑の方が黒味が強く、砂質の度合いも弱い。このことから第70号溝状土坑の埋没時期と第71号溝状土坑の埋没時期との間で堆積環境に差があった可能性も考えらる。この場合、どのようなレベルで二つの遺構の時間差を見積もればよいのか明らかでない。理論的には季節的な差といったミクロなレベル、数年単位での気候の較差のレベル、縄文時代後期～晩期への移行といった数十年から百年単位でのマクロな気候や植生の較差など各種のレベルが考えられる。第54号溝状土坑の埋没時期を以て、溝状土坑群が構築されなくなった時期と考えるわけにはいかない理由である。仮に、堆積土の様相に堆積環境が反映されており、それがマクロなレベルでの時間差に規定されるのであれば、堆積土の比較により遺構の時間差の推定が可能であったかもしれない。特に、遺物から埋没時期を推定できた第54号溝状土坑との比較は重要であったと考えられる。しかし、第70・71号溝状土坑は調査の最終盤で検出・精査したため、上記の視点での調査は実施できなかった。

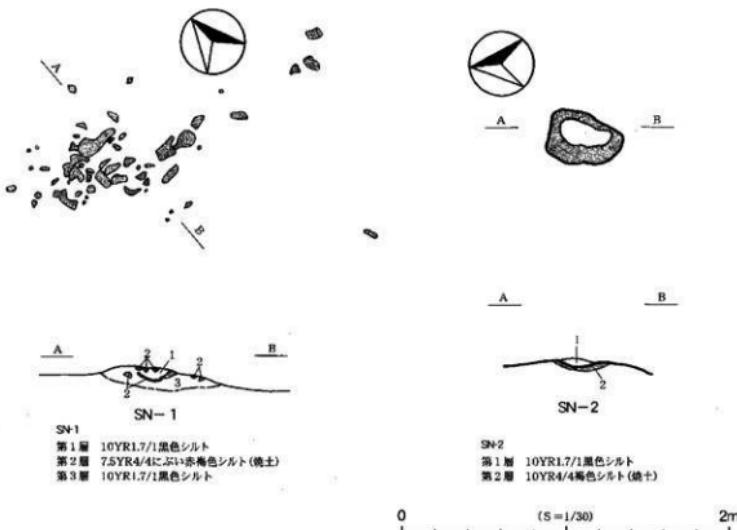


図27 第1・2号焼土遺構

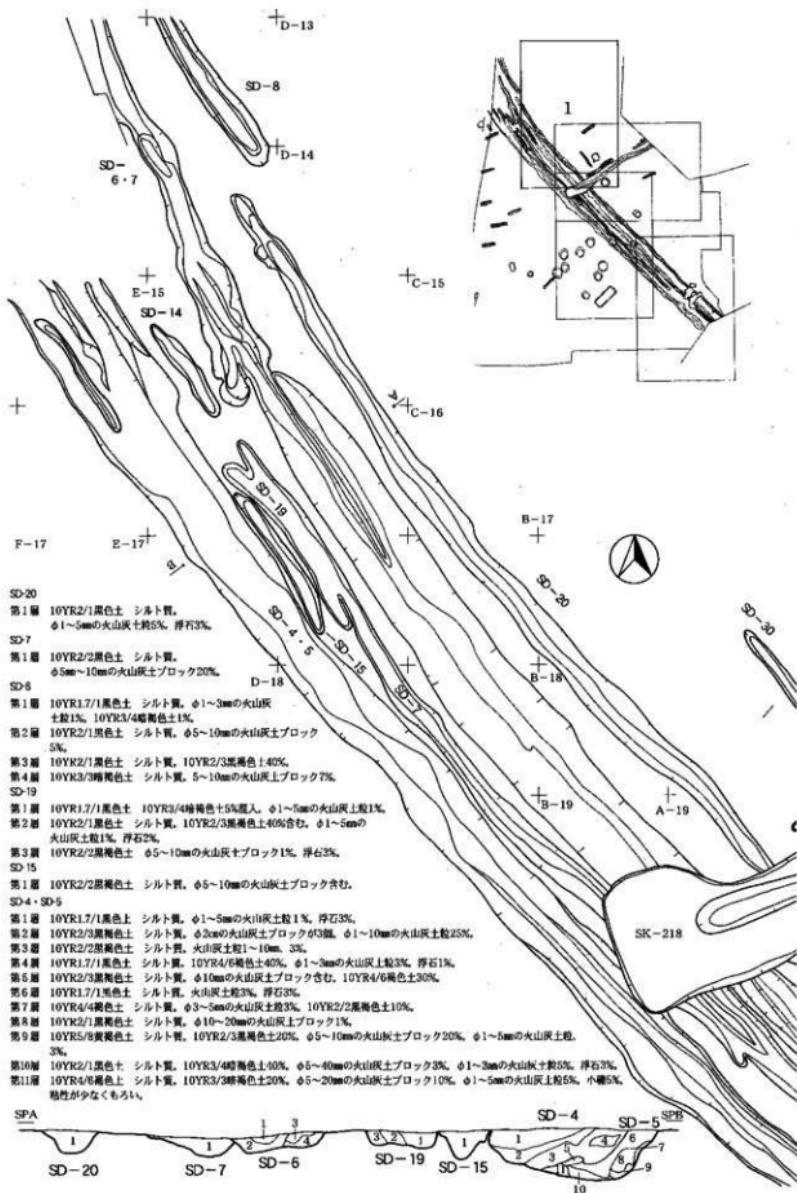
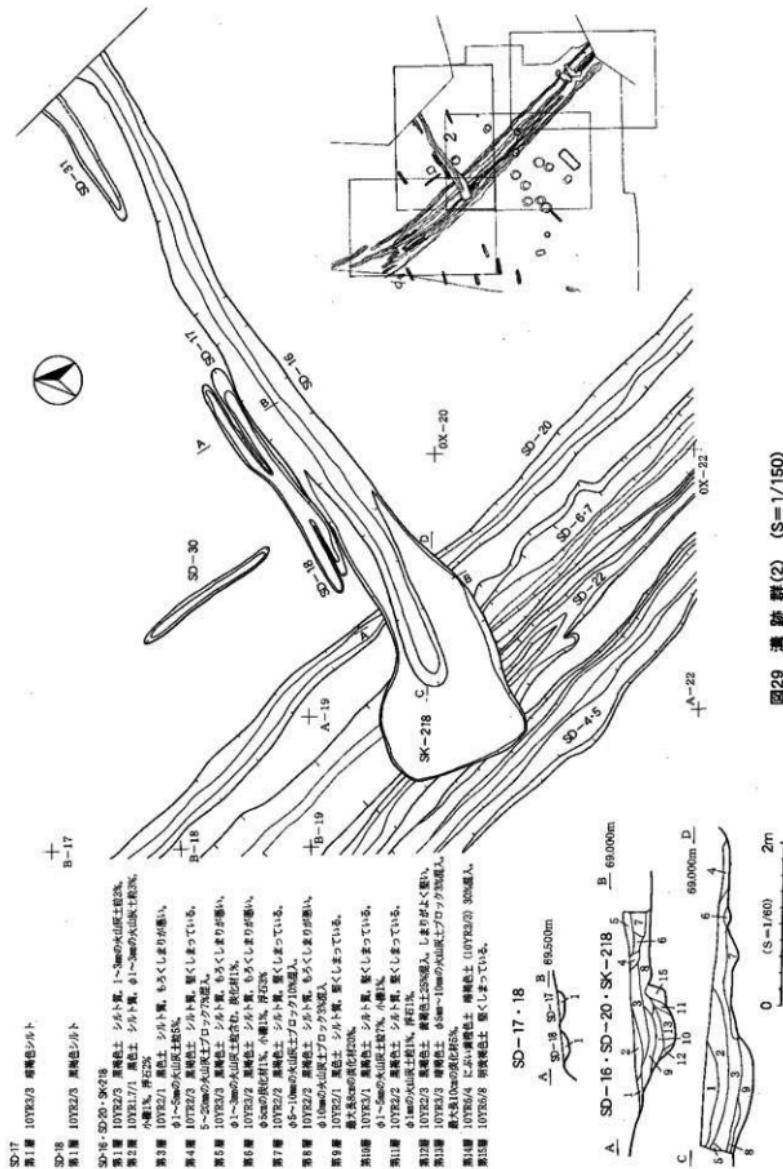


図28 溝跡群(1) (S=1/150)



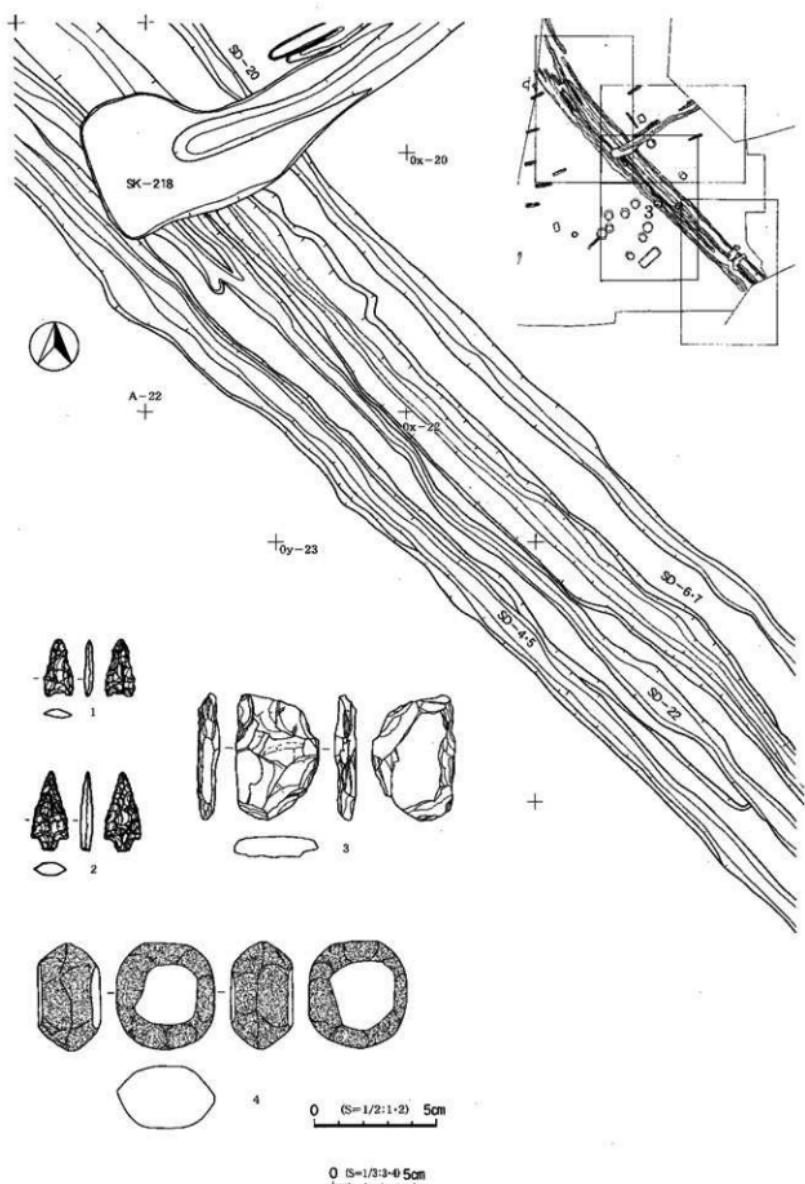
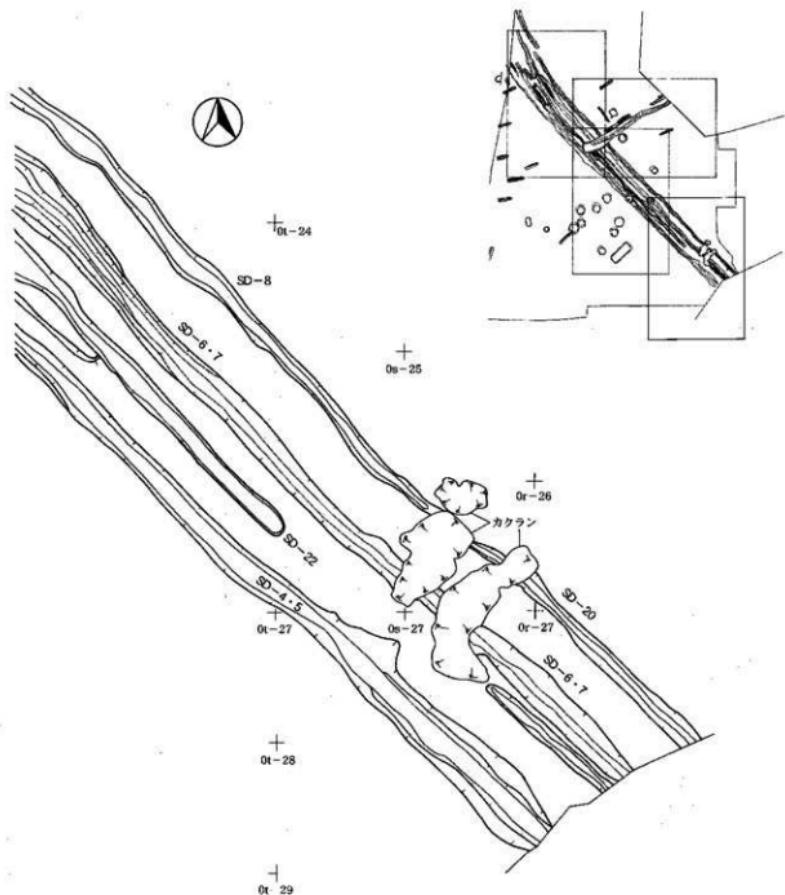


図30 满跡群(3) (遺構:S=1/150 遺物:S=1/2、1/3)



溝出土遺物整理表

番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
1	SD-9	覆土	石盤		2.3	1.2	0.3	0.7		
2	SD-4・5	覆土	石盤		3.3	1.6	0.5	1.8		
3	SD-20	覆土	磨G		7.7	5.1	1.3	61.9	粘板岩	
4	SD-20	覆土	磨石		6.5	6	3.8	272.5	ホルンフェルス	

図31 溝跡群(4) (S=1/150)

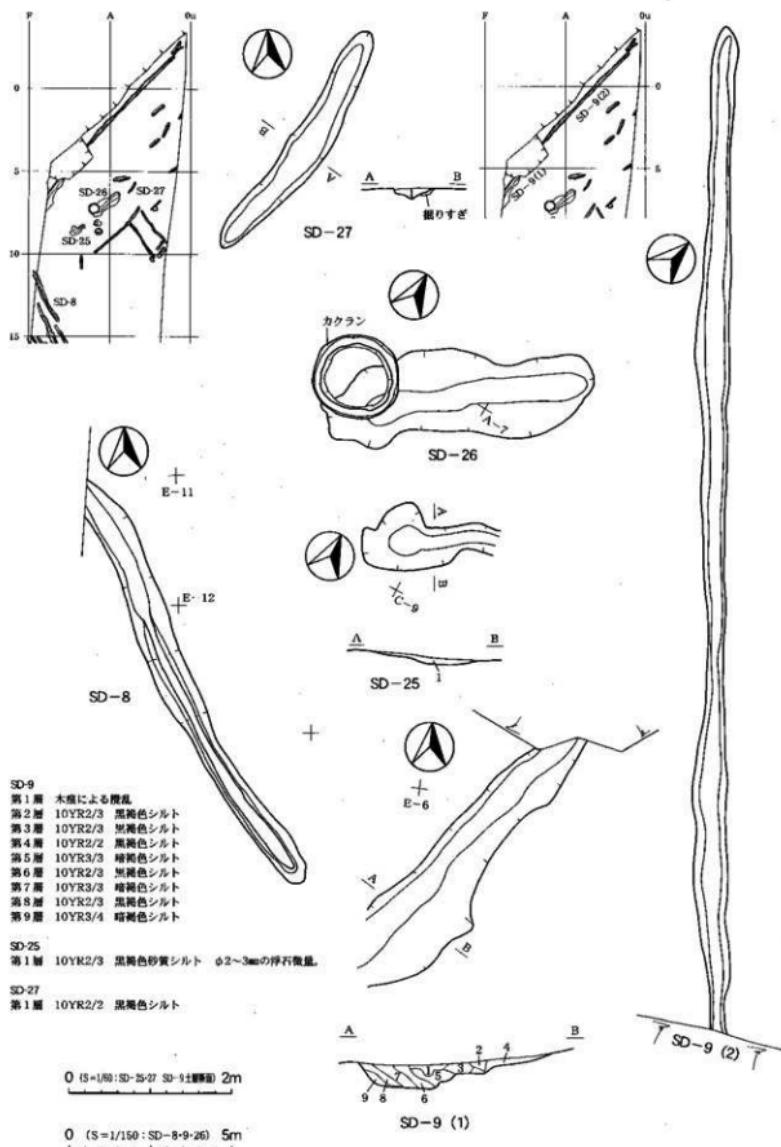


図32 第8・9・25・26・27号溝跡

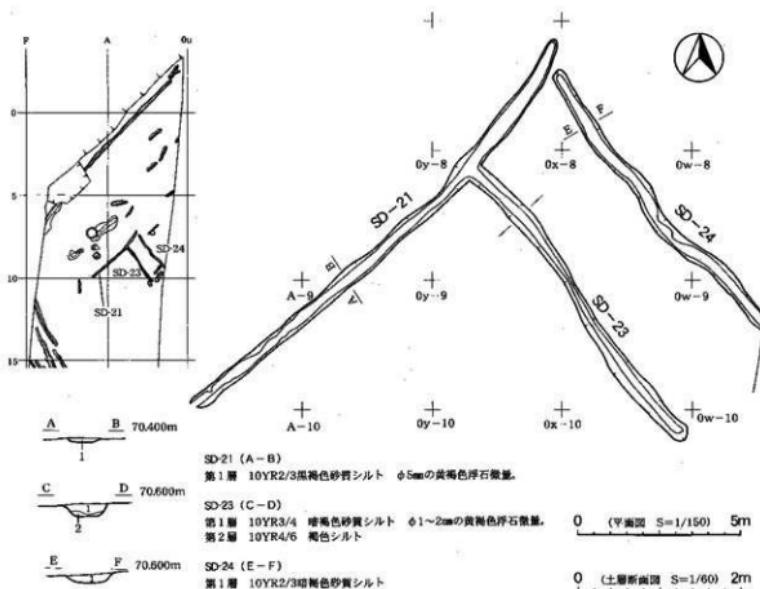


図33 第21・23・24号溝跡

第4章 遺構外出土遺物

平成12（西暦2000）年度の調査で出土した遺物は遺構内・遺構外合わせて土器1,920片、自然礫・石器390点である。尾根上の平坦部は削平された部分が多く、遺物の多くは南側の斜面部で出土した。

第1節 土器（図34～図37）

出土した土器は、縄文時代前期末葉～中期初頭、縄文時代中期中葉・後葉、縄文時代後期初頭、縄文時代後期前葉、縄文時代後期中葉、縄文時代後期末～晩期初頭、弥生時代後期の各時期がある。しかし、量的には縄文時代前期末～中期初頭のものが8割を占め、南側の尾根の集落に関連するものと考えられる。出土土器のうち、異なるグリッド・層位間で接合したものは*31点（遺構内・遺構外の接合含み、遺構内出土遺物同士の接合は除く）である。平面での最大距離は16.5mで第I層出土遺物同士である。第II層・III層出土遺物のグリッド間接合で最大の距離は8.9mである。

*一点毎の出土位置は記録していないため、ここではグリッドの中心間の距離を以て接合破片の距離の近似値として扱った。

縄文時代前期末葉～中期初頭の土器（図34-1～図36-96） すべて破片資料で、口縁部文様、区画、胴部文様を統一的に理解し分類するのは、質・量ともに難しい。口縁部文様、頸部区画、胴部文様を分類し、それぞれを算用数字、アルファベット、五十音で表す。

口縁部文様	頸部区画	胴部文様
1 縦条体回転文を施すもの（1～4）	A 捨糸側面圧痕（1～5）	ア 単輪絞条体1類（10・25・53・54）
2 捨糸側面圧痕を施すもの（5～21）	B 単輪絞条体1類側面圧痕（5）	イ 単輪絞条体1類+結節回転文（33・51）
3 縦条体圧痕を施すもの（22～24）	C 区画のないもの（6）	ウ 単輪絞条体1A類（6・9・11・12・32・34～50）
4 口唇部と口縁部に隆帯と捨糸側面圧痕を施すもの（26～29）	D 低い隆帯（7～10）	エ 単輪絞条体1A類+結節回転文（18・19）
	E 刺突（16）	オ 多輪絞条体（1～5・24・52・55～64・87）
	F 軽い段（10～13）	カ 刃状縄文（16・20・65～87・69）
	G 軽い段と刺突（18～21）	キ 回転縄文（単節）（70・71・76・77・79・80・81・88）
		ク 回転縄文（複節）（26・72・83～85）
		ケ 回転縄文（複節）（73・74・78・82・90～93）
		コ 異方向縄文（68）

口縁部に縦位の隆帯を施す17・21、あるいは頸部に軽い段が施され、刺突で区画される18～20は円筒下層d2式（江坂 1970）に比定される。1～8は円筒下層d1式に、26～29・31は円筒上層a式に比定される。9～16・22～25・30はd1式・d2式のいずれかに伴うと思われるが、判然としない。胴部破片はこれらに伴うものと思われる。（江坂 1970）によれば、クは円筒下層d2式から出現するとされている。しかし、これに伴う他の文様は十分に明らかにされていない。96は大木式系の土器で中期初頭と思われる。

縄文時代中期中葉・後葉の土器（97～102・150） 97・98は円筒上層d式、99～101は楕円式、102は大木9式平行器の土器である。150は中期後葉の土器の底部と思われる。

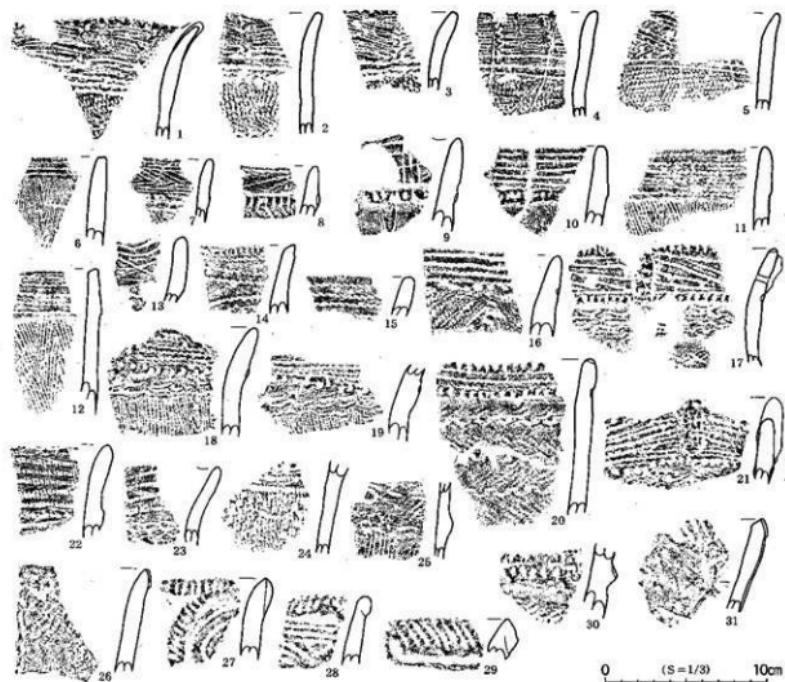


図34 遺構外出土土器（1）

縄文時代後期初頭・前葉の土器（103～114） 106～114は十腰内I式と思われる。103～105は十腰内I式に比べ、焼成は軟質で、施文が粘土の柔らかい段階で行われたと思われ、後期初頭に属すると考えられる。

縄文時代後期中葉の土器（115～132） 116・117は十腰内II～III式の壺形か注口形土器と思われる。115は器高の上から1/4程度で平行沈線を一条巡らし、これ以上を無文とする深鉢形土器である。119～132はこれに伴う粗製土器で、焼成は硬質で、口唇部付近がやや肥厚する。縄文は晩期のものに比べて大きく、0段多条原体が目立つ。

縄文時代後期末葉～晩期初頭の土器（133～146） 133・136は宮城県田柄貝塚VI～VII群（宮城県教育委員会 1986a）に相当するものと思われる。134は三叉文が施される晩期初頭の土器。137～146はこれらに伴う粗製土器と考えられる。後期中葉のものに比べて縄文原体が細かく、薄手で、焼成もやや軟質である。

弥生時代後期の土器（147～149） 147～149は弥生時代後期の土器と思われる。

第2節 石器

剥片石器（図38-1～図39-31）

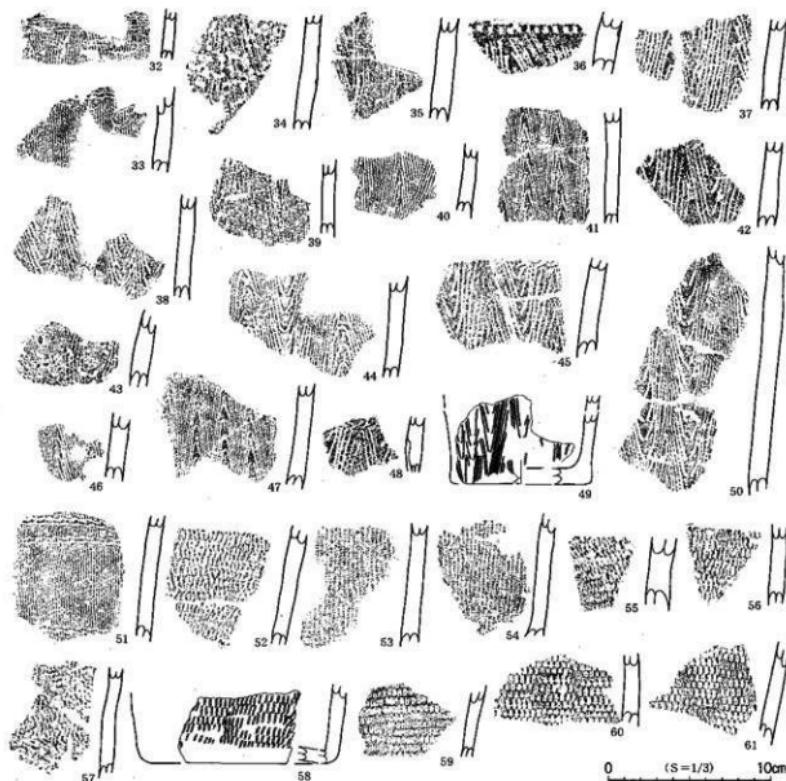


図35 遺構外出土土器（2）

遺構外からは石鏃21点、石匙1点、二次加工のある剥片類6点、その他の剥片類24点、石核1点が出土した。

石鏃（1～21）

1類（1～6） 平基無茎のもの。 2類（7～19） 有茎のもの。 3類（20・21） 尖基無茎のもの。

石匙（22・23） 2点出土した。縦長剥片を用い、バルブ側につまみを作出している。末端は蝶番剥離が認められる。主要剥離面側から左側縁部に軽い二次加工が施され、刃部が作出される。23は、石匙のつまみ部と思われる。

二次加工のある剥片類（24～30）

26は両面から二次加工が施されている。器体の一部を大きく欠いた後も一部加工が施されている。25は縦長剥片のバルブ付近に浅い角度の二次加工が施されている。バルブ除去を意図したものと思われる。30は主要剥離面の湾曲した一側縁に背面側から加工が施されている。

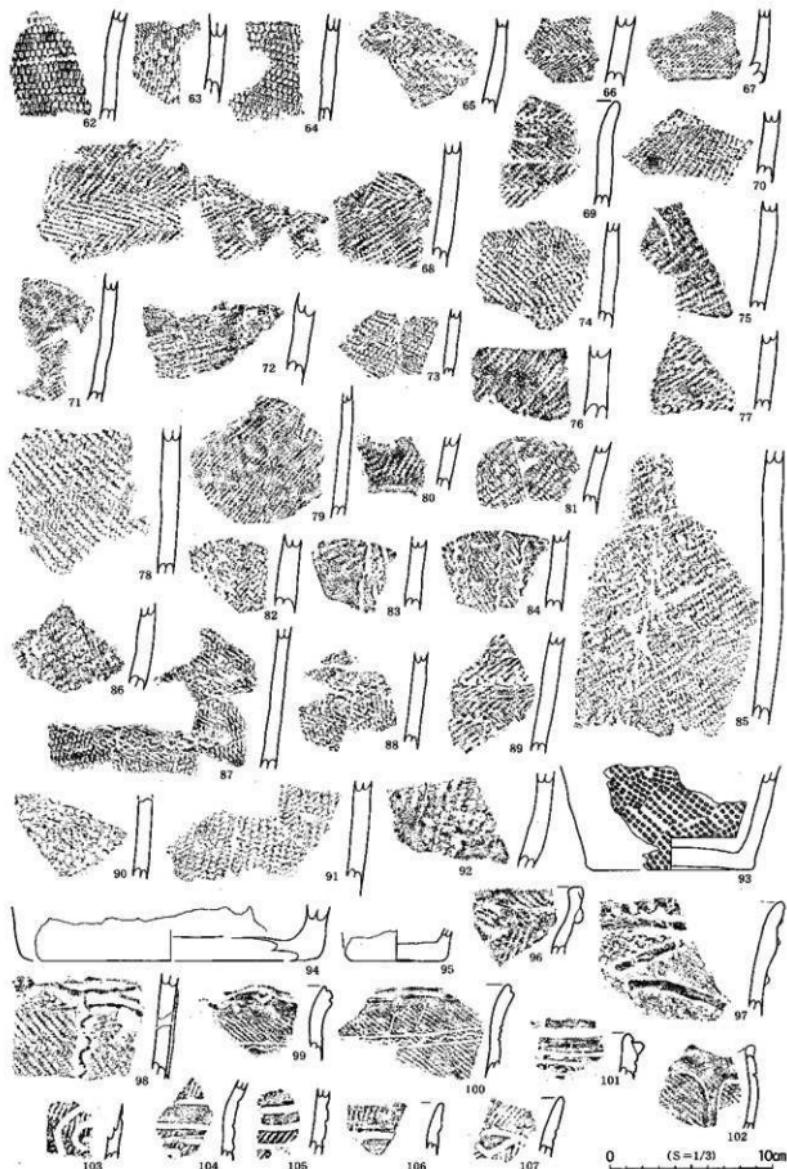


圖36 遺構外出土土器 (3)

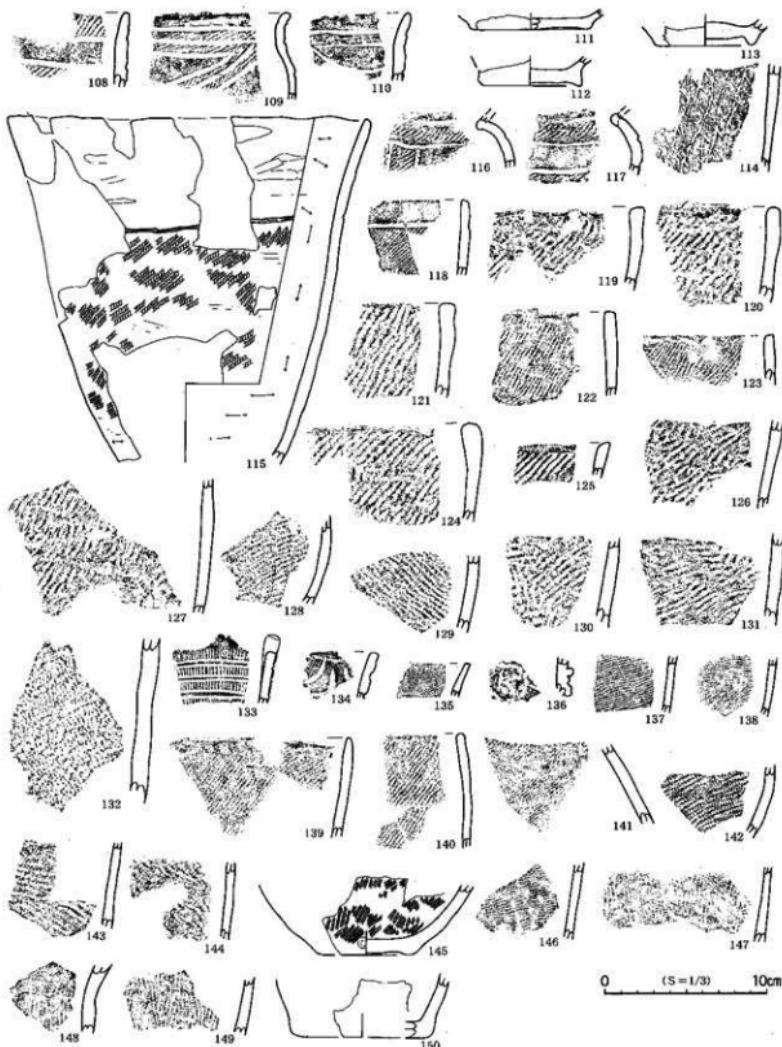


图37 遗構外出土土器（4）

石核 (31) 径5cm程度の礫の2面から剥片を剥離している。本資料は接合するが、明瞭な打点は確認できず、分割された原因は人為的なものとは考えられない。石質はやや軟質で、石器制作には不向きである。

礫石器 (図39-32~図44-74)

磨石 (32~52)

1類 (32~41・43~46・50) 扁平な礫の一側縁に磨り面をもつもの。32・39は磨り面を持たないものの、素材の形状や加工のあり方が磨面を有するものに類似するので、磨石に含めておく。器体の加工の程度により分類できる。

- a 器体の表裏ほぼ全面に剥離を施すもの。(34~36)
- b 器体の1面に全面に剥離を施し、残る1面は1/2以下の加工にとどまるもの。(34・37・38)
- c 器体の表裏とも1/2以下の加工にとどまるもの。(33・39~41・43~46)
- d 表裏とも加工せず、側縁部分に磨面をもつもの。

2類 (42・47~49) 断面三角形の柱状の礫の一側縁に磨面を持つもの。磨面に隣接する二面に剥離痕を持つが、器体の変形が全面に及ぶような加工は施されない。49は側縁部の磨面に隣接する1面にも磨痕がある。

3類 (51・52・68) 細の平坦面に磨り面をもつもの。側縁部は利用されない。

凹石 (56~59・61~63・65~70) 形状は機能面の裏面が平坦なものと平坦でないものがある。

敲磨器類 (53~56・60・65~67・69) 磨面と敲打痕を併せもつもの。

石皿・台石類 (68・71~73) 72は被熱し、破碎した状態で計31片出土した。B-27・28グリッド第I・II層、A-31グリッド第IIa層から出土しており、1片を除いてB-27・28グリッドから出土した。帰属時期と、被熱・破碎の時期は明らかでない。

磨製石斧 (74・75) 74は成形時の敲打痕を残している。

石製品 (図44-76)

石刀 (75) 75は石刀の一部かと思われる。剥離による成形痕を残している。

その他の礫 (図43-64、図44-76・77)

64は被熱礫である。このほかに3点出土しているが、第I・IIa層の出土で、その帰属時期は不明である。76・77は、縄文時代中期の遺跡にしばしば見られる石材で、加工痕・使用痕の認められないものも多い。加工痕・使用痕のないものも搬入礫と考えられる。76は磨面が認められるが、これが使用痕であるのか加工痕であるのかの判断は難しく、礫石器・石製品以外のその他の礫に含めた。

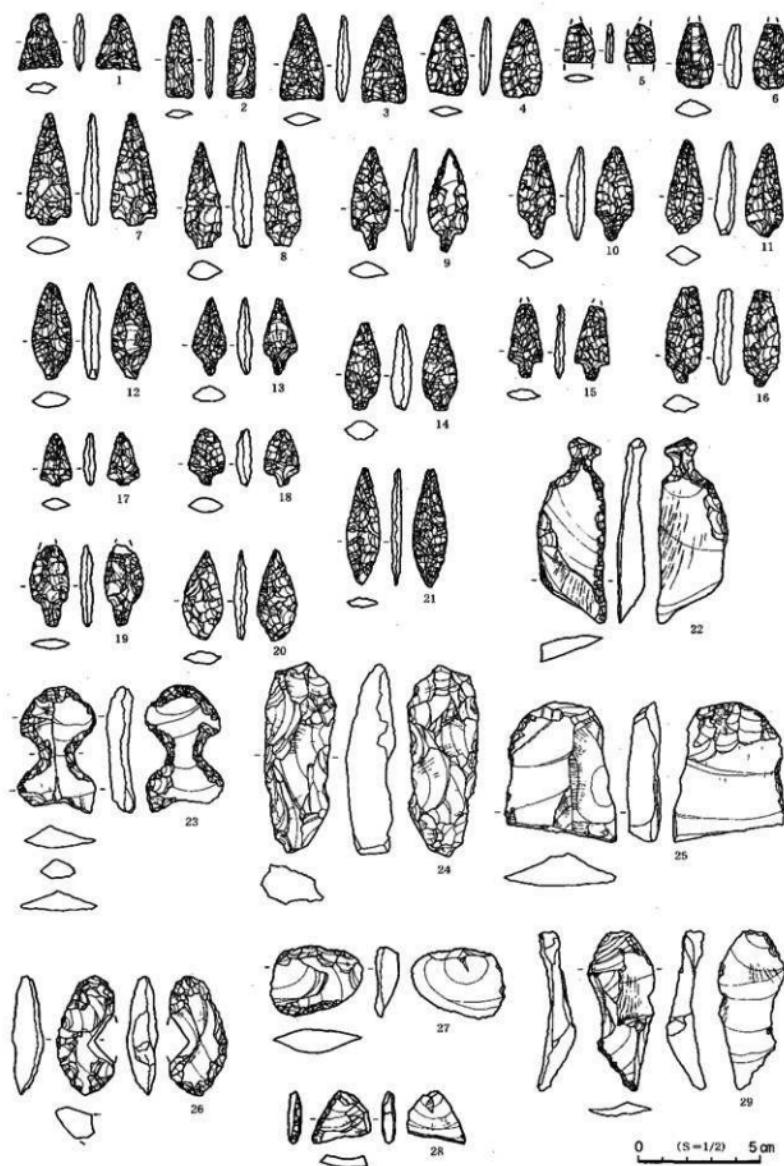


図38 造構外出土石器（1）

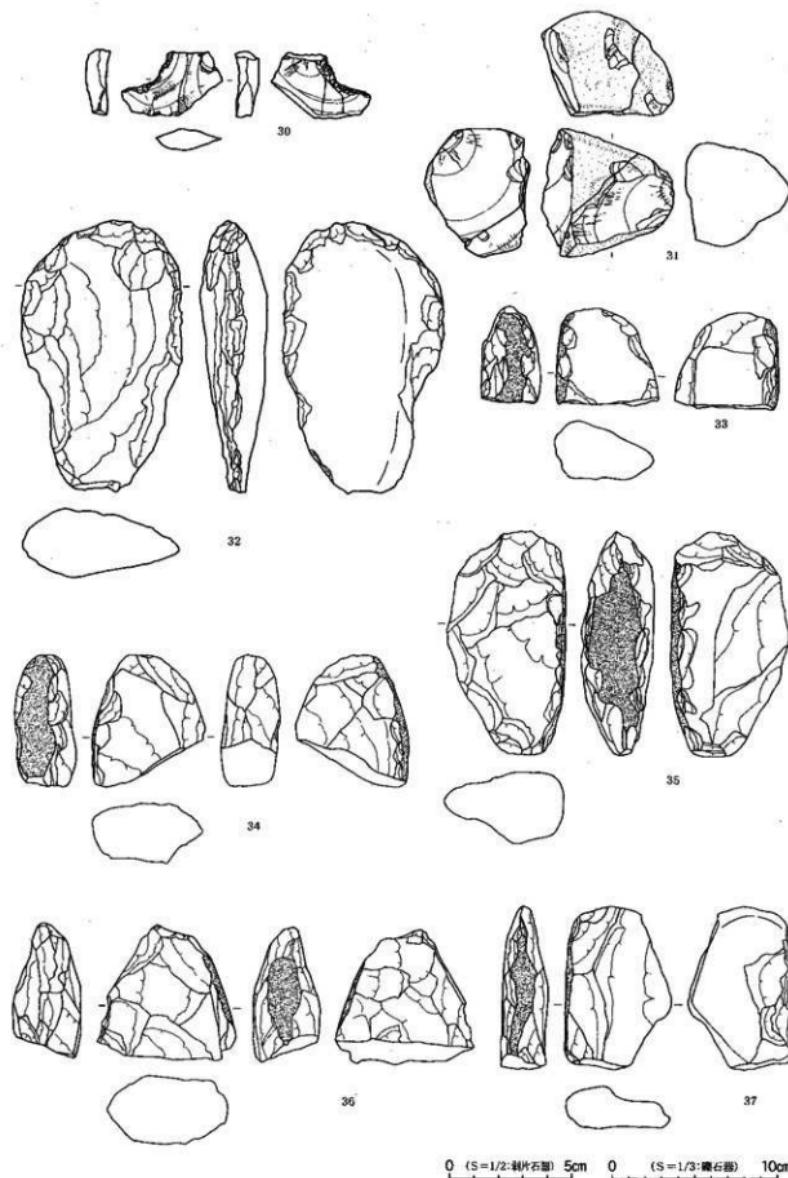


図39 遺構外出土石器（2）

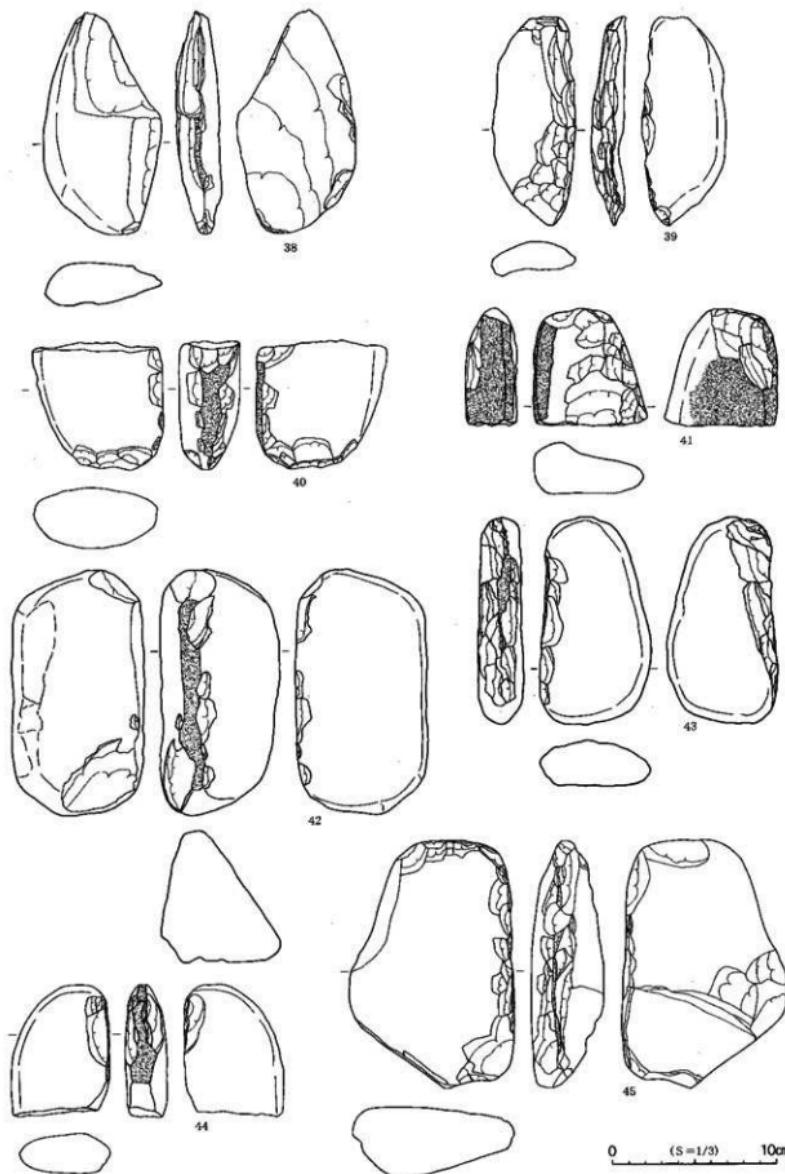


図40 遺構外出土石器（3）

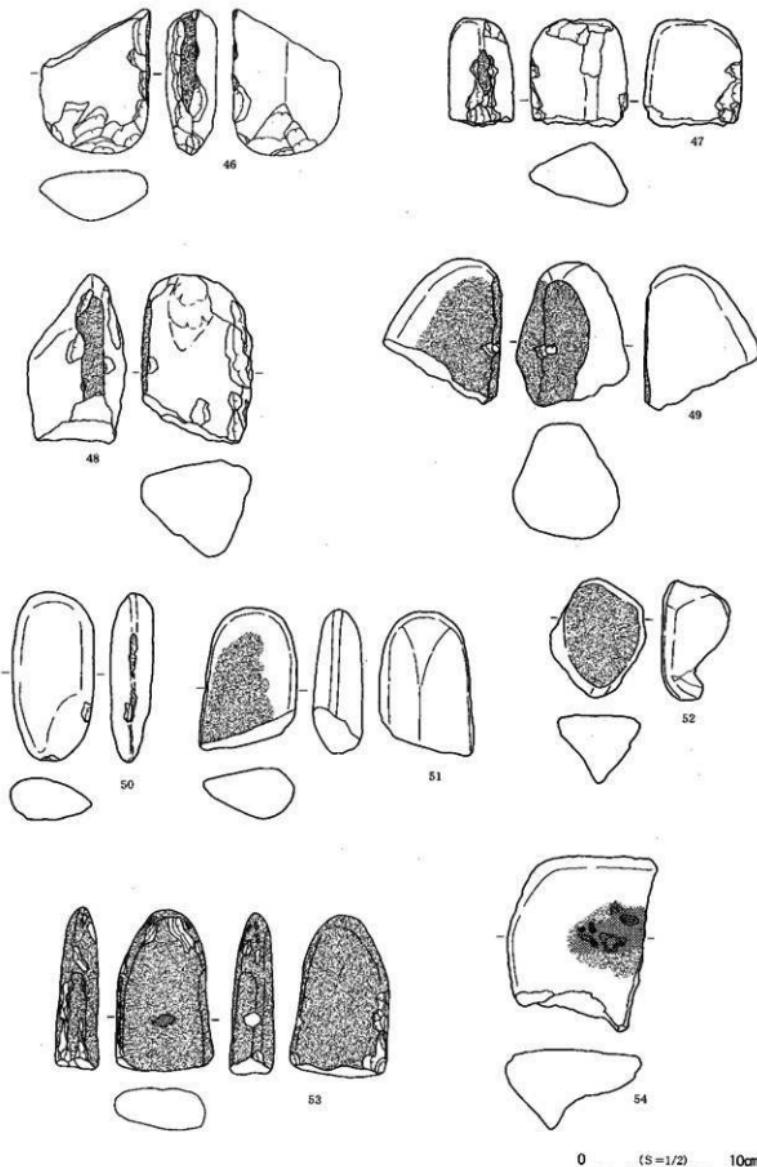


図41 遺構外出土石器 (4)

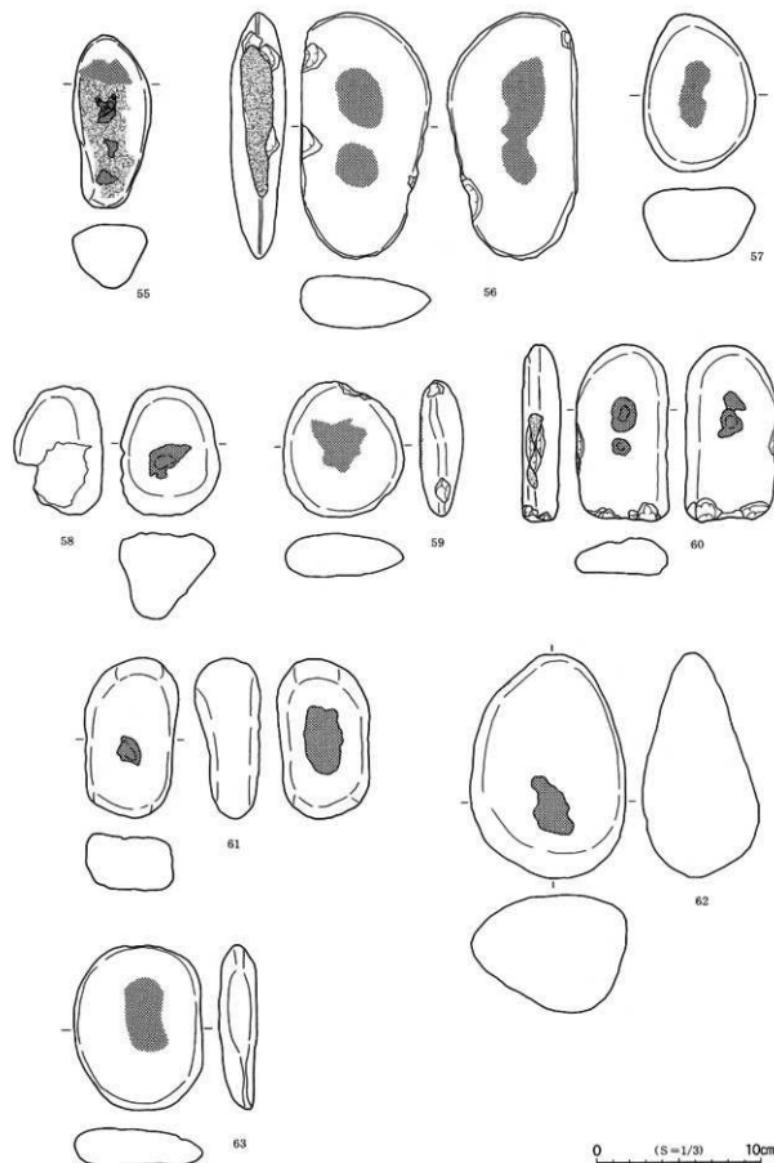


図42 造構外出土石器（5）

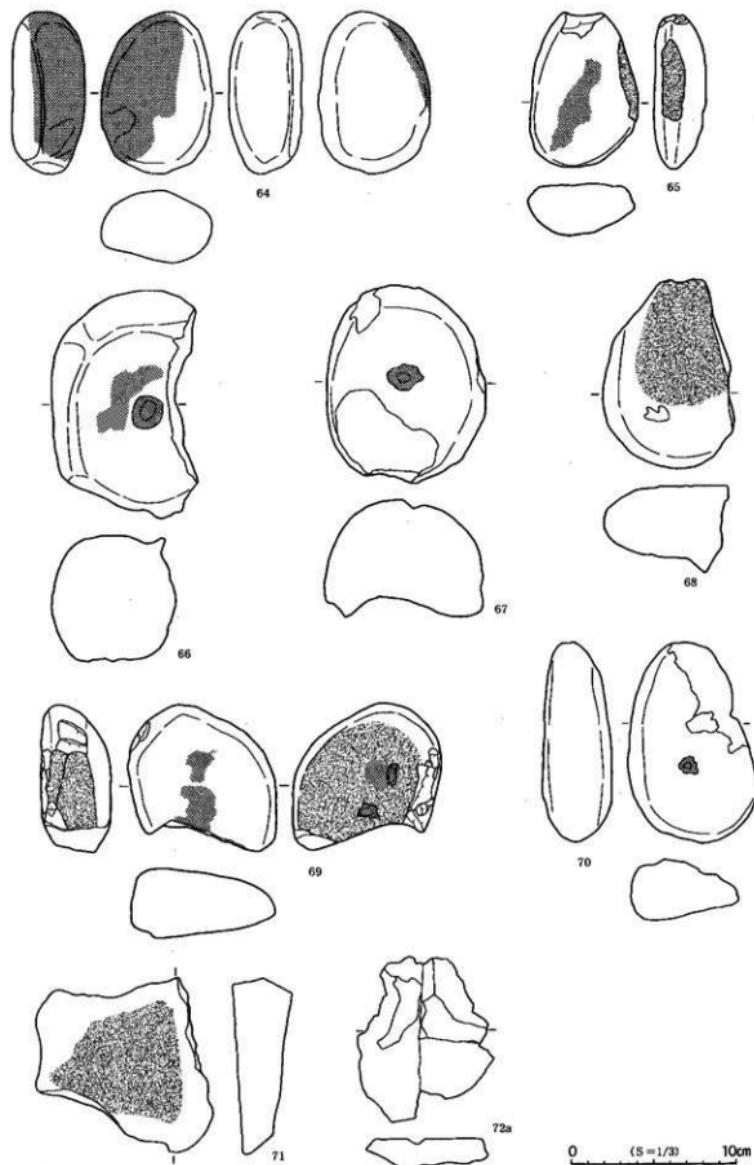


図43 遺構外出土石器（6）

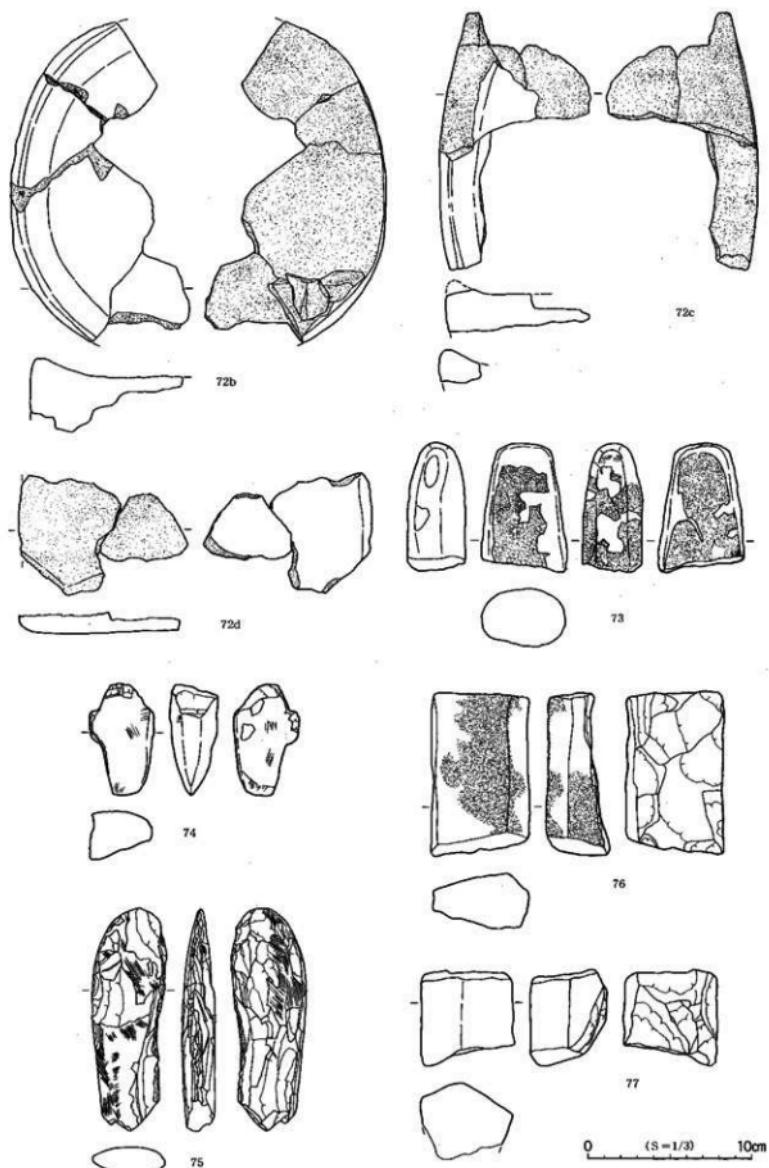


図44 遺構外出土石器（7）

遺構外出土土器

番号	出土位置	外觀文字等	内面調査等	出土	参考
34-1	0e-22II層	口盤:半輪A(L) 脚部:脚:RL-上部斜面直角、脚:多輪(1-3) 線位	縫合ナデ	縫合序右直角	
34-2	0e-22II層	口盤:半輪A(L) 脚:RL-上部斜面直角、脚:多輪(1-3) 線位	縫合ナデ	縫合序直角	
34-3	0e-24II層	口盤:半輪A(L) 脚:RL-上部斜面直角、脚:多輪(1-3) 線位	縫合ナデ	縫合序右直角	
34-4	0e-23II層	口盤:半輪A(L) 脚:RL-上部斜面直角、脚:多輪(1-3) 線位	縫合ナデ	縫合序右直角	
34-5	0y-25I層 0e-25II層	口盤:LR側面直角、脚:多輪(1-3) 線位	縫合上直角	縫合上直角	
34-6	0e-26II層	口盤:LR側面直角、脚:1段輪(1-3) 線位	縫合ナデ	縫合上直角	
34-7	C-6カクラン	口盤:LR側面直角(上)と下部斜角、脚:腰部の刺突、脚:RL脚柱	縫合ナデ	縫合上直角	
34-8	0e-30II層	口盤:LR側面直角、脚:RL脚柱	縫合ナデ	縫合上直角	
34-9	0e-29II層	口盤:LR側面直角、脚:腰部上半部斜面(2-3) 線位	縫合ナデ	縫合上直角	
34-10	0e-28II層	口盤:LR側面直角、脚:1段輪(1-3) 線位	やや縫合化、縫~斜合ナデ	縫合上直角	
34-11	0e-29II層	口盤:LR側面直角、脚:1段輪(1-3) 線位	縫合ナデ	縫合上直角	
34-12	0e-28II層上部	口盤:LR側面直角、脚:1段輪(1-3) 線位	口縫:機合ナデ	以下風化	縫合上直角
34-13	0e-30	口盤:LR側面直角	縫合ナデ	縫合上直角	
34-14	0e-25II層	口盤:LR側面直角、脚:脚底テラ粗み	縫合ナデ	縫合上直角	
34-15	G-29II層	口盤:LR側面直角	縫合ミガキ	魯古河直角	
34-16	0e-26II層	口盤:LR側面直角(上)による刺突、脚底斜面(1-3) 脚柱脚柱(1-3) RL-HD	縫合ミガキ	魯古河直角	
34-17	SD-20番地(Dv-24)	口盤:ヘラ跡、脚:脚底斜面(1-3) 脚柱斜面(1-3) 脚柱斜面(1-3) RL-HD	口縫合風化、縫合以下各方向のみ	縫合上直角	
34-18	0e-27II層	口盤:RL側面直角、脚:腰部上半部斜面(1-3) 線位	縫合ナデ	縫合上直角	
34-19	0e-27II層	口盤:RL側面直角、脚:腰部上半部斜面(1-3) 線位	縫合ナデ	縫合上直角	
34-20	0e-26II層 0e-27II層	1号:腰部に丸み、脚:RL脚柱直角、脚:腰部上半部斜面(1-3) 線位	口縫~縫合ミガキ	縫合上直角	
34-21	0e-20II層	口盤:LR側面直角	縫合化	西方斜角	
34-22	0e-24II層上部	口盤:RL側面直角	縫合ミガキ	縫合上直角	
34-23	0e-29I層	口盤:多輪(1-3) 脚:脚底斜面(1-3) 線位	縫合ナデ	石美村	
34-24	A-25II層	腰部:脚底斜面(1-3) 多輪(1-3) 線位	縫合ミガキ	魯古河直角	
34-25	0e-20II層	口盤:RL側面直角、脚:脚底斜面(1-3) 脚:脚柱直角	縫合ナデ	魯古河直角	
34-26	D-26II層	口盤:RL側面直角(2-3) 線位	やや縫合化、縫位ナデ?	井序6	
34-27	G-33II層	腰部:脚底斜面直角による見切、脚底斜面直角による見切、脚柱斜面直角による見切	やや縫合化、縫位ナデ?	井序6	
34-28	0e-25I層	口盤:LR側面直角	縫合化	東古河	
34-29	D-27II層	口盤:RL側面直角	縫合化	東古河	
34-30	0e-24II層	口盤:RL側面直角	縫合化	東古河	
34-31	G-32II層	口盤:RL側面直角	縫合化	東古河	
35-1	A-28番地上部	腰部:筋状斜面(1-3) 脚:脚底斜面(1-3) 脚:脚柱直角(1-2)	縫合ナデ	縫合上直角	
35-2	0e-26II層	腰部:筋状斜面(1-3) 脚:脚底斜面(1-3) 脚:脚柱直角(1-2)	縫合ナデ	縫合上直角	
35-3	0e-29II層	脚:脚柱直角(1-2)	脚:脚位のナデ	縫合上直角	
35-4	0e-29II層	脚:脚柱直角(1-2)	脚:脚位のナデ	縫合上直角	
35-5	0e-24II層	口縫:RL側面直角 第:コ字斜面直角、脚:脚底斜面(1-3) 線位	縫合ナデ	井序6	
35-6	0e-22II層 0e-23II層	脚:脚柱直角(1-2) 井序6	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-7	0e-22II層 0e-23II層	脚:脚柱直角(1-2)	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-8	0e-21II層 0e-22II層	脚:脚柱直角(1-2)	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-9	B-67カクラン	脚:脚柱直角(1-2)	縫合:風化、縫位ナデ?	縫合上直角	
35-10	A-28II層	脚:脚柱直角(1-2)	縫合ナデ	縫合上直角	
35-11	0e-24II層	脚:脚柱直角(1-2)	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-12	0e-24II層	脚:脚柱直角(1-2)	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-13	0e-30I層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位のミガキ	縫合上直角	
35-14	0e-23II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-15	0e-24II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-16	0e-20II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-17	B-29I層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-18	0e-25II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-19	0e-29I層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-20	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-21	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-22	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-23	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-24	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-25	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-26	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-27	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-28	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-29	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-30	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-31	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-32	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-33	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-34	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-35	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-36	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-37	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-38	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-39	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-40	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-41	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-42	0e-24II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-43	0e-30I層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-44	0e-23II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-45	0e-24II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-46	0e-20II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-47	B-29I層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-48	0e-25II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-49	0e-29I層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-50	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-51	A-26II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-52	0e-30I層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-53	0e-23II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-54	0e-24II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位ミガキ	縫合上直角	
35-55	0e-02II層	多輪部位(1-2)	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-56	0e-23II層	多輪部位(1-2)	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-57	0e-22II層 0e-23II層	脚:脚位(1-2)	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-58	0e-30I層	脚:脚位(1-2)	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-59	0e-25II層	脚:脚位(1-2)	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-60	0e-24II層上部 0e-23II層	多輪部位(1-2)	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-61	A-25II層	多輪部位(1-2)	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-62	A-24II層	多輪部位(1-2)	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-63	0e-24II層	多輪部位(1-2)	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-64	0e-24II層上部	多輪部位(1-2)	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-65	0e-29II層	羽狀足(白背景)	羽狀足	縫合上直角	
35-66	0e-29II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位のミガキ	縫合上直角	
35-67	0e-30II層	脚:脚位(1-2)	脚:脚位のミガキ	縫合上直角	
35-68	0e-22II層	RL-縫合	上半縫合ミガキ 下半縫合ミガキ	縫合上直角	
35-69	0e-21II層	RL-縫合	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-70	0e-29II層	RL-縫合	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-71	E-34II層	RL-縫合	縫合のナデ	縫合上直角	
35-72	G-33II層	RL-縫合	縫合位のミガキ	縫合上直角	
35-73	0e-25I層 0e-25II層	RL-縫合	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-74	0e-22II層	RL-縫合	縫合ミガキ	縫合上直角	
35-75	C-27II層	RL-縫合	縫合ミガキ	縫合上直角	

番号	出土位置	表面文様等	内部調査等	出土	備考
36-76	G-31Ⅱ層	LR埋位	横面ミガキ	骨頭石英質	
36-77	0x-29Ⅱ層	LR埋位 細網目鉛文(?)	馬化	骨頭石英質	
36-78	C-6カクフン	RL埋位	馬化、織目ミガキ	骨頭石英質	
36-79	G-33Ⅱ層	LR埋位	織目 織目ナダ	骨頭石英質	
36-80	A-27Ⅰ層	LR埋位	織目ナダ	石英岩	
36-81	E-34Ⅰb層	LR埋位	馬化	骨頭石英質	
36-82	F-39Ⅰ層	RL埋位、細網目鉛文(LR)埋位	斜面ミガキ	骨頭石英質	
36-83	F-32Ⅱb層	RL埋位 細網目鉛文(LR)埋位	織目ミガキ	骨頭石英質	
36-84	0x-24Ⅱ層	LR埋位 細網目鉛文(LR)埋位	斜面ミガキ	骨頭石英質	
36-85	E-33Ⅱb層	LR埋位 細網目鉛文(LR)埋位	馬化、織目ミガキ	骨頭石英質	
36-86	D-26Ⅱ層	LR埋位 細網目鉛文(RL)埋位	織目ミガキ	骨頭石英質	
36-87	0x-22Ⅱ層 0x-24Ⅱ層	多種目鉛文(RL) 細網目鉛文(RL)埋位	馬化、織目ナダ?	骨頭石英質	
36-88	(0x-22Ⅱ層 0x-23Ⅱ層	LR埋位 細網目鉛文(RL)埋位	やや馬化、織目ナダ	骨頭石英質	
36-89	0x-29Ⅱ層	上手: 細網目鉛文を伴うRL+LR埋位 下手: 細網目鉛文1種(RL+LR)埋位	斜面ミガキ	骨頭石英質	
36-90	0x-29Ⅱ層	RL埋位	織目ナダ	骨頭石英質	
36-91	A-35Ⅰ層 A-29Ⅱ層 0y-27Ⅱ層	RL埋位	斜面ミガキ	骨頭石英質	
36-92	D-25Ⅰ層	LR埋位	織目ミガキ	骨頭石英質	
36-93	Cx-22Ⅱ層	RL埋位	馬化	骨頭石英質	
36-94	G-32Ⅰb層	馬力尚のナダ	三毛	骨頭石英質	
36-95	0x-29Ⅰ層	ナダ	ナダ	骨頭石英質	
36-96	0x-30Ⅱ層	口唇:八字状鉛文、折り重ね口唇 口背:一毫背下端: RL埋位 以下RL埋位	横面のミガキ	骨頭石英質	
36-97	A-25Ⅰ層	RL埋位 脊柱付 脊柱上部側面直面(RL)	横・斜面ミガキ	骨頭石英質	
36-98	A-27Ⅰ層	RL埋位 側面・貼り付け垂直	斜面ナダ	骨頭石英質	
36-99	0x-29Ⅱ層	口唇: 扇形状鉛文、側面:平行底面間に状況記録 地紋: RL埋位	馬化	骨頭石英質	
36-100	0x-30Ⅱ層 0x-30Ⅲ層	口唇: 扇形状鉛文、側面:平行底面間に状況記録 地紋: RL埋位	やや馬化、側・斜面ミガキ	骨頭石英質	
36-101	0x-30Ⅲ層	口唇: 扇形状鉛文、側面:平行底面間に状況記録 地紋: RL埋位(厚2.5mm)	横面ミガキ	骨頭石英質	
36-102	F-28Ⅲ層	新規丁字型の鉛文による棒形器内面にRL埋位	横面ナダ	骨頭石英質	
36-103	0x-30Ⅰ層	沈面による書道文と差別	横面ナダ	骨頭石英質	
36-104	0x-30Ⅰ層	沈面による書道文にRL埋位	斜面ミガキ	骨頭石英質	
36-105	0x-30Ⅰ層	沈面による書道文にRL埋位	横面ナダ	骨頭石英質	
36-106	A-27Ⅰ層	沈面による書道文を中心	横面ナダ	骨頭石英質	
36-107	A-27Ⅱ層	沈面による書道文を中心	斜面ミガキ	石英	
37-108	0x-30Ⅰ層	二つの鉛文を並べると、上下手は埋位	横面のミガキ	石英岩	
37-109	0x-21Ⅱ層	沈面による書道文の中にし縫化	口唇: 斜面のミガキ、裏: 直線状ミガキ 見面ナダ? 斜面・縫合のナダ?	石英岩	
37-110	E-25Ⅱ層	沈面による書道文	横・斜面ナダ	石英岩	
37-111	D-24Ⅱ層	ミガキ	ナダ	石英岩	
37-112	H-27Ⅰ層	ナダ・脂膏付き	ナダ	石英岩	
37-113	P-25Ⅱ層	ナダ	ナダ	骨頭石英質	
37-114	C-25Ⅱ層	馬力尚のナダ	骨頭ミガキ	骨頭石英質	
37-115	F-21Ⅰb層 A-24Ⅱ層	山根・上部ナダ? 植・花鉛 剥・LR埋位	口唇: 斜面ミガキ 横面ミガキ	骨頭石英質	
37-116	0x-29Ⅱ層	沈面による書道文にRL埋位	横面ナダ	骨頭石英質	
37-117	0x-29Ⅱ層	沈面による書道文にRL埋位	横面ナダ	骨頭石英質	
37-118	A-22Ⅱ層 上面 0y-22Ⅱ層	沈面: 扇形 文 頭部: 平行状記録 地紋: RL埋位	横面ミガキ	骨頭石英質	
37-119	E-24Ⅱ層 E-25Ⅰ層	0y多条件RL埋位	横面ナダ	香り石英質	
37-120	E-24Ⅱ層	0y多条件RL埋位	工具ナダ	骨頭石英質	
37-121	E-24Ⅱ層	0y多条件RL埋位	横面ナダ	骨頭石英質	
37-122	0x-29Ⅰ層	LR埋位	横面ナダ	骨頭石英質	
37-123	0x-28Ⅰ層	LR埋位	横面ナダ	石英岩	
37-124	E-24Ⅱ層	0y多条件RL埋位	馬化、横面のナダ?	骨頭石英質	
37-125	0x-29Ⅱ層	LR埋位	横面ナダ	石英岩	
37-126	E-24Ⅱ層	0y多条件RL埋位	横面ナダ	骨頭石英質	
37-127	F-26Ⅱ層 E-24Ⅱ層	0y多条件RL埋位	横・縫合ナダ	石英岩	
37-128	E-20Ⅱ層	LR埋位	横面ナダ	石英岩	
37-129	0y-25Ⅱ層	RL埋位	横面ナダ	骨頭石英質	
37-130	D-22Ⅱ層	0y多条件RL埋位 → 新縫	残存部: 縫合ナダ	骨頭石英質	
37-131	D-22Ⅱ層	0y多条件RL埋位 → 新縫	横面ナダ	骨頭石英質	
37-132	D-26Ⅰ層	LR埋位	横面ミガキ	骨頭石英質	
37-133	E-21Ⅰ層	突起: 平行状(幅2.0mm)間に縫合のへら跡み	縫・斜位のナダ?	石英岩	
37-134	0y-26Ⅰ層	沈面による書道文にRL埋位	斜面ミガキ	石英	
37-135	C-25Ⅱ層	LR埋位	斜面ミガキ	石英岩	
37-136	H-30Ⅰ層	ボク・鉄鉱付 脊柱上二方向からへら跡み	縫合のナダ	石英岩	
37-137	D-16Ⅰ層	LR埋位	ハサケ	骨頭石英質	
37-138	D-16Ⅰ層	LR埋位～鉛位	剝離多	石英岩	
37-139	F-25Ⅱ層	LR埋位	横面ナダ	骨頭石英質	
37-140	F-25Ⅱ層	LR埋位	横面ナダ	石英岩	
37-141	A-25Ⅰ層	LR埋位	横・斜位ナダ?	石英岩	
37-142	E-21Ⅰ層	LR埋位	横・斜位ナダ?	石英岩	
37-143	C-22Ⅱ層	RL埋位	斜面ナダ	石英岩	
37-144	C-21Ⅰ層 C-22Ⅱ層	RL埋位	縫合ナダ	石英岩	
37-145	C-26Ⅰ層 C-27Ⅰ層 D-26Ⅰ層	LR埋位抽抜・指揮えさ	縫合ミガキ	石英岩	
37-146	D-27Ⅰ層 D-28Ⅰ層	LR埋位	縫合ナダ	石英岩	
37-147	SD-7-8(D-17)層下 B-17Ⅱ層	RL埋位	横面のナダ?	石英岩	
37-148	D-17Ⅱ層 D-19Ⅱ層	横・丸状のナダ? 脊柱: RL斜位	縫合ナダ	骨頭石英質	
37-149	D-17Ⅱ層	RL斜位	内面馬化	石英岩	
37-150	B-27Ⅰ層	軸方向のナダ?	ナダ	石英	

遺構外出土石器

番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考	
38-1	0v-27	Ⅲ	石核		1. 2.4	1.8	0.4	1.4	珪質頁岩		
38-2	F-31	Ⅱa	石核		1. 3.4	1.1	0.3	1.4	珪質頁岩		
38-3	G-30	Ⅱ	石核		1. 3.5	1.8	0.5	2.4	下彫		
38-4	C-32	I	石核		1. 3.3	1.7	0.4	1.9	玉砂		
38-5	0v-27	Ⅲ	石核		1. 1.6	1.3	0.3	0.6	珪質頁岩		
38-6	F-30	I	石核		1. 2.6	1.5	0.7	2.6	珪質頁岩		
38-7	0v-23	Ⅲ	石核		2. 4.6	1.9	0.7	4.7	珪質頁岩		
38-8	B-28	Ⅲ	石核		2. 4.4	1.5	0.7	3.8	綠綿岩		
38-9	0v-21	Ⅲ上面	石核		2. 4	1.5	0.7	3.5	珪質頁岩		
38-9	F-33	I	石核		2. 4.3	1.6	0.6	3.3	珪質頁岩		
38-10	0v-27	Ⅲ	石核		2. 3.9	1.5	0.7	3.1	珪質頁岩		
38-11	0v-29	Ⅲ	石核		2. 3.9	1.5	0.7	2.5	珪質頁岩		
38-12	0v-29	Ⅲ	石核		2. 4	1.6	0.7	4.1	珪質頁岩		
38-12	G-32	Ⅲb	石核		2. 3.6	1.4	0.8	3.2	珪質頁岩		
38-13	0v-02	Ⅲ	石核		2. 3.2	1.4	0.6	1.7	珪質頁岩		
38-15	C-32	I	石核		2. 3.1	1.3	0.4	1.3	珪質頁岩		
38-17	E-33	I	石核		2. 2.2	1.2	0.4	0.9	玉砂		
38-18	E-31	Ⅲb	石核		2. 2.3	1.5	0.7	1.8	玉砂		
38-19	G-34	I	石核		2. 3.4	1.6	0.4	2.1	珪質頁岩		
38-20	0v-28	Ⅲ	石核		3. 3.7	1.6	0.5	2.5	珪質頁岩		
38-21	0v-20	Ⅲ	石核		3. 4.9	1.4	0.4	2.5	珪質頁岩		
38-22	0v-03	Ⅲb	石核		7.7	2.9	1.1	14.5	珪質頁岩		
38-23	0v-20	Ⅲ	石核		5.2	3.2	1.1	13.8	珪質頁岩		
38-24	0v-23	Ⅲ	二次加工のある削片		7.9	2.9	2	42.6	珪質頁岩		
38-25	0v-24	Ⅲ	二次加工のある削片		1.8	1.9	0.7	1.8	珪質頁岩		
38-26	0v-23	Ⅲ	二次加工のある削片		4.9	2.4	1.3	11.2	珪質頁岩		
38-27	0v-28	Ⅲ	二次加工のある削片		2.9	3.9	1	8.8	珪質頁岩		
38-28	0v-23	Ⅲ	二次加工のある削片		2.2	2.4	0.5	2.2	珪質頁岩		
38-29	A-27	上面面	二次加工のある削片		6.6	2.8	1.1	11.6	珪質頁岩		
39-30	0v-29	I	二次加工のある削片		2.7	4.1	1	7.3	珪質頁岩		
39-31	B-17	Ⅲ	石核		3.9	3	0.8	8.6	玉砂		
39-32	C-20	I	磨石		1. 16.7	9.9	4.2	668.6	花崗岩		
39-33	0v-28	Ⅲ	磨石		1. 8	6.9	3.7	249.5	砂岩		
39-34	F-32	Ⅲb	磨石		1. 5.9	6.3	3.6	185.4	安山岩		
39-35	D-19	I	磨石		1. 13.8	7.3	4.5	539.9	輝綠岩		
39-36	C-18	I	磨石		1. 8.2	8.5	4.2	332.9	輝綠岩		
39-37	A-30	Ⅲb	磨石		1. 10	6.6	2.9	223.2	砂岩		
40-38	0v-30	Ⅲ	磨石		1. 15.7	7.2	2.7	299.7	輝綠岩		
40-39	0v-24	Ⅲ	磨石		1. 12.9	5.1	2.1	143.5	ホルンフェルス		
40-40	0v-	Ⅲ	磨石		1. 7.9	8	3.8	360.5	砂岩		
40-41	G-32	Ⅲb	磨石		1. 7.2	7	3.2	246.3	安山岩(古期)		
40-42	B-21	I	磨石		2. 15	7.3	8.1	1220.8	砂岩		
40-43	0v-29	Ⅲ	磨石		1. 12.7	6.8	2.3	349.6	チャート		
40-44	0v-25	Ⅲ	磨石		1. 8.1	6.1	2.6	203.7	砂岩		
40-45	0v-25	Ⅲ	磨石		1. 15.2	10.2	4.5	814.6	輝綠岩		
41-46	A-26	Ⅲ	磨石		1. 9	6.7	3.1	223.8	安山岩(古期)		
41-47	A-18	I	磨石		2. 6.6	6	3.9	212.1	安山岩		
41-48	0v-23	I	磨石		2. 10.4	6.8	6	500.7	安山岩(古期)		
41-49	B-20	I	磨石		2. 8.9	6.9	7.1	432.7	泥質岩(古期)		
41-50	0v-24	Ⅲ	磨石		1. 10.3	5	2.6	204.2	安山岩		
41-51	0v-30	Ⅲ	磨石		3. 8.8	5.9	3.1	200.1	砂岩		
41-52	F-33	Ⅲb	素石		3. 7.4	5.9	4.2	161.5	石英安山岩		
41-53	0v-24	Ⅲ	敲撃器		—	9.9	6	2.7	240.2	輝灰岩	
41-54	B-21	I	敲撃器		—	10.8	9.1	4.9	538.2	輝灰岩	
42-55	0v-29	Ⅲ	敲撃器		—	10.6	4.9	3.9	265.1	石英安山岩	
42-56	Ox-36	Ⅲ	凹凸		1.5.2	8	3.3	547.6	安山岩		
42-57	A-16	Ⅲ	凹石		—	9.7	7	4.5	421.3	安山岩	
42-58	A-26 - B-29	I - II	凹石		—	8	6.2	5.5	251.2	輝灰岩	
42-59	0v-24	Ⅲ	凹石		—	8.4	7.4	2.7	229.3	輝灰岩	
42-60	0v-25	Ⅲ	敲撃器		—	10.9	5.7	2.3	216	砂岩	
42-61	F-32	Ⅲa	凹石		—	9.8	5.7	4.1	319.6	石英安山岩	
42-62	G-32	Ⅲb	凹石		—	13.7	9.5	7.2	1131.4	石英安山岩	
42-63	G-34	Ⅲ	凹石		—	10.1	8	2.4	295.7	安山岩	
43-64	C-25	I	敲撃器		—	10	6.9	4.5	438.2	チャート	
43-65	0v-24	Ⅲ	凹石		—	9.6	6.7	3.2	283.7	安山岩	
43-66	0v-25	Ⅲ	凹石		—	14	9	8.5	1359.1	安山岩	
43-67	G-30	Ⅲ	凹石		—	12.2	9.8	7.2	1164.9	安山岩	
43-68	A-22	Ⅲ	石墨・台石		—	11.6	8.1	5.4	592.6	輝灰岩	
43-69	0v-24	Ⅲ	凹石		—	9	9.2	4.3	459.2	砂岩	
43-70	0v-30	I	凹石		—	12.3	7.9	4.3	486.2	安山岩	
43-71	0v-28	石墨・台石			—	11	10.8	3.8	539.4	安山岩	
44-72	B-27 - 28	I - II	石墨・台石		—	19.8	11.1	4.6	332.9	輝灰岩	被熱
44-73	Ox-26	II	磨製石斧		—	8	5.3	3.6	228.4	輝灰岩	
44-74	0v-30	I	磨製石斧		—	6.8	4	3	92.7	安山岩	
44-75	0v-25	II	石刀		—	13.6	4.6	2	153.7	熱板岩	
44-76	F-30 - 33	I - II b	その他の		—	10.1	6.1	3.9	295.8	漢牧岩	
44-77	F-33	II b	その他の		—	5.9	5.8	4.7	183.8	塊狀岩	

韓文詩代翰題水賦～中興初年

G	F	E	D	C	B	A	Dy	Dg	Dm	Dv	Dg	G	S	D	Dg	Dp	Ds	
05																		
04																		
03																		
02																		
01																		
00																		
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20																		
21							13		10				1	2	13			
22							1						7	85	5			
23								1					25	6	9			
24	2		1	3	4	14	1					4	6	61				
25							2	41	3				8	2	2			
26									1	5	17		1	18	10			
27								10	41	1	33	2	4	6	26	1	16	
28										11	3	2	7					1
29	1						5	1	8	1	9	5	4	28	13			
30	3						10		2	7	3	7	7	2	1			
31	10	1					7											
32								1										
33	51	35	16	11														
34	11	16	17	61														
R	89	74	37	52	29	16	114	27	38	30	64	15	78	193	16	27	1	9

漢文時代後期初頭～前

G	F	R	D	C	B	A	Dy	Dg	Dw	Dv	Dx	Dz	Dn	Dp	Dq	Ds
15																
16																
17																
18																
19																
20																
21																1
22																
23																
24																-4
25				1	1	1										1
26																
27								2	1							
28									1							1
29																
30																1
31																
32																
33																
34																
35																
36																
37	1	3	1	3	2	-3	2	-1	6	1						20

外生中期

周文靜代中醫中藥~後篇

第六章 代碼範例

G	F	E	D	C	B	A	I	0x	0xw	0v	0s	0t	0s	0r	0q	0p	0o
15																	
16			2							3							
17						1											
18																	
19																	
20																	
21																	
22																	
23																	
24																	
25																	
26																	
27																	
28																	
29																	
30																	
31																	
32																	
33																	
34																	
35																	
36																	
37																	
38																	
39																	
40																	
41																	
42																	
43																	
44																	
45																	
46																	
47																	
48																	
49	24	24	12	62	6	5	4	11	13	3	1	7	7				

萬文時代後期後葉～晚期初期

G	I	K	D	C	B	A	Dy	Dx	0w	0v	0s	0t	0m	0r	0g	0p	0o
00																	
01																	
02																	2
03																	
04																	
05																	
06																	
07																	
08																	
09																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
16							1	1									
17								4	1	2							
18																	
19							1	1									1
20							1	1									4
21																	
22																	
23																	
24							17	1	2								
25																	6
26																	1
27																	
28																	1
29																	
30																	
31																	
32																	
33																	
34																	
35																	
36																	
37	22	19	21	2	13		3	2	1	19	2	2	1				

第Ⅲ・Ⅳ層面上1箇破片数を算計した。

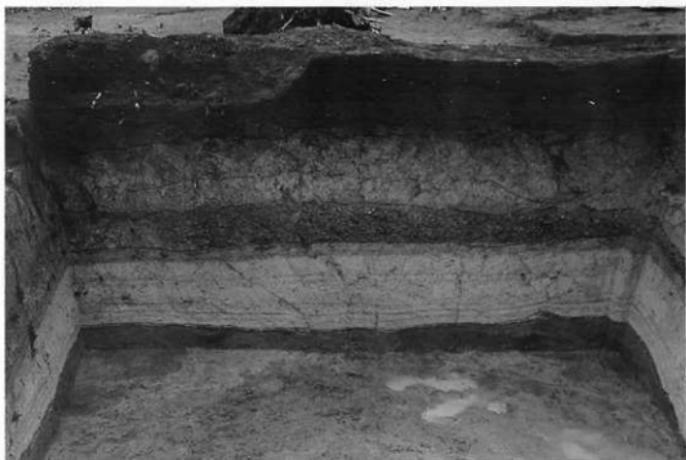
遺物の出土していないグリッドは表中から除外している場合がある。

第Ⅱ編中で1点の時期不明遺物がある。

遺物外出土器破片數集計表

参考文献

- 青森県教育委員会 2001 「笹ノ沢(2)・(3)遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第305集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 「秋浦Ⅰ遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第346集
- 江坂 韶彌 1970 『石神遺跡』ニュー・サイエンス社
- 大池 昭二・中川 久夫 1979 『三戸地域広域農業開拓』基本調査地形並びに表層地質調査報告書
- 中村 哲也 2001 「第5章 まとめ」『松ヶ崎遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第291集 青森県教育委員会
- 松山 力 1983 『八戸の地質』文化財シリーズ第24号 八戸市教育委員会
- 北上市教育委員会 1983 『滝ノ沢遺跡』北上市文化財調査報告第33集
1990 『滝ノ沢遺跡Ⅱ』北上市文化財調査報告第60集
- 宮城県教育委員会 1986 a 『田柄貝塚Ⅰ 遺構・土器編』宮城県文化財調査報告書第111集
1986 b 『小梁川遺跡 遺物包含層土器編』宮城県文化財調査報告書第117集



1. 0x-3 グリッド基本層序 (南から)



2. フラスコ状土坑群配置状況 (南から)



3. フラスコ状土坑群空中写真
(画面左端は橋脚工事のための優先調査区域で既に掘削されている。)



4. フラスコ状土坑群配置状況（南から）



5. 繩文集落区域近景（南から）



6. 第198号土坑セクション（南から）



7. 第198号土坑完掘状況（東から）



8. 第197号土坑完掘状況（南から）



9. 第199号土坑遺物出土状況（東から）



10. 第199号土坑セクション（東から）



11. 第199号土坑完掘状況（東から）



12. 第200号土坑セクション（東から）



13. 第200号土坑完掘状況（東から）



14. 第201号土坑セクション（南東から）



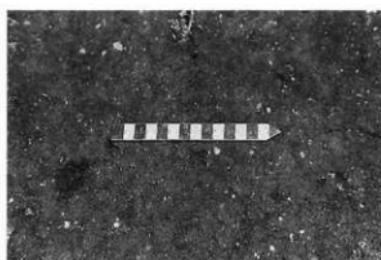
15. 第201号土坑完掘（南東から）



16. 第202号土坑セクション（東から）



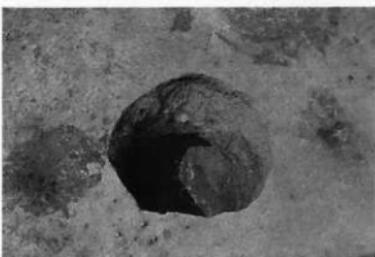
17. 第202号土坑完掘状況（東から）



18. 第202号土坑堆積土斑状構造



19. 第203号土坑セクション（南から）



20. 第203号土坑完掘状況（南から）



21. 第204号土坑セクション（南西から）



22. 第205号土坑セクション（東から）



23. 第205号土坑完掘状況（東から）



24. 第206号土坑完掘状況（東から）



25. 第207号土坑セクション（東から）



26. 第207号土坑完掘（東から）



27. 第208号土坑中央南側炭化物出土状況



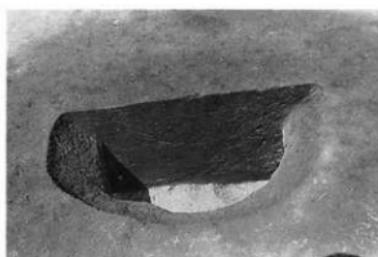
28. 第208号土坑炭化物出土状況（北東から）



29. 第28号土坑完掘状況（北東から）



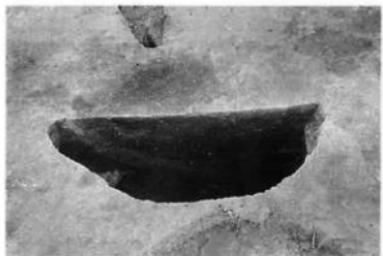
30. 第213号土坑完掘状況（東から）



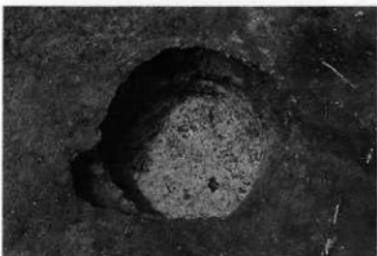
31. 第213号土坑セクション（東から）



32. 第213号土坑完掘状況（東から）



33. 第214号土坑セクション（東から）



34. 第215号土坑完掘状況（東から）



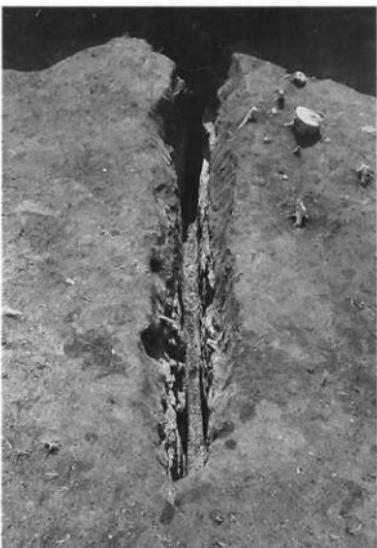
35. 第215号土坑セクション（東から）



36. 第215号土坑セクション（東から）



37. 第4号溝状土坑完掘状況（西から）



38. 第49号土坑溝状土坑完掘状況（東から）



39. 第49号溝状土坑セクション（東から）



40. 第52号溝状土坑セクション（東から）



41. 第52号溝状土坑完掘状況（東から）



42. 第53号溝状土坑セクション（東から）



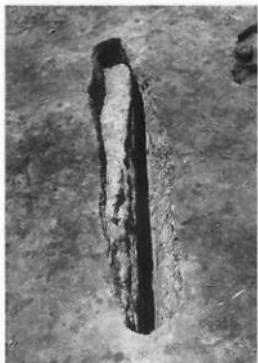
43. 第53号溝状土坑セクション（東から）



44. 第54号溝状土坑遺物出土状況（南から）



45. 第54号土坑溝状土坑セクション(東から)



46. 第54号溝状土坑（東から）



47. 第55号溝状土坑セクション（東から）



48. 第55号溝状土坑下半部完掘状況(東から)



49. 第56号溝状土坑セクション（北から）



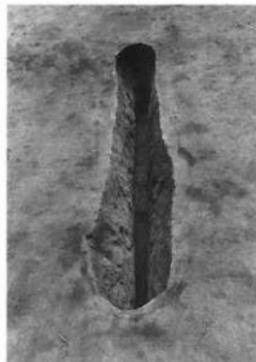
50. 第56号溝状土坑完掘状況（北から）



51. 第56号溝状土坑下半部完掘状況(北から)



52. 第57号溝状土坑セクション（東から）



53. 第57号溝状土坑完掘状況（北東から）



54. 第57号溝状土坑下半部確認状況（北東から）



55. 第57号溝状土坑下半部セクション（南西から）



56. 第58号溝状土坑セクション（南西から）



57. 第59号溝状土坑セクション（東から）



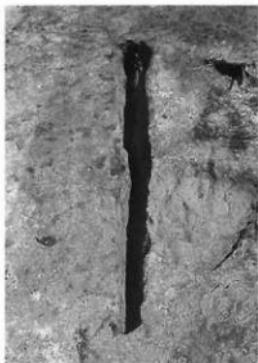
58. 第59号溝状土坑完掘状況（東から）



59. 第60号溝状土坑セクション（北東から）



60. 第60号溝状土坑完掘状況（北東から）



61. 第61号溝状土坑完掘状況（南西から）



62. 第62号溝状土坑セクション（西から）



63. 第63号溝状土坑セクション（南西から）



64. 第63号溝状土坑完掘状況（北東から）



65. 第64号溝状土坑セクション（南西から）



66. 第64号溝状土坑完掘状況（南西から）



67. 第65号溝状土坑セクション（北東から）



68. 第65号溝状土坑上半部完掘状況（北東から）



69. 第65号溝状土坑下半部完掘状況（北東から）



70. 第67号溝状土坑セクション（西から）



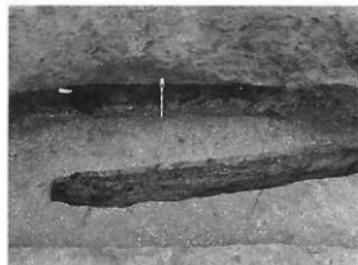
71. 第67号溝状土坑下半部セクション（西から）



72. 第67号溝状土坑完掘状況（西から）



73. 第67号溝状土坑下半部完掘状況（西から）



74. 第67号溝状土坑
北側壁面（南から）



75. 第68号溝状土坑セクション（南から）



76. 第68号溝状土坑完掘状況（南から）



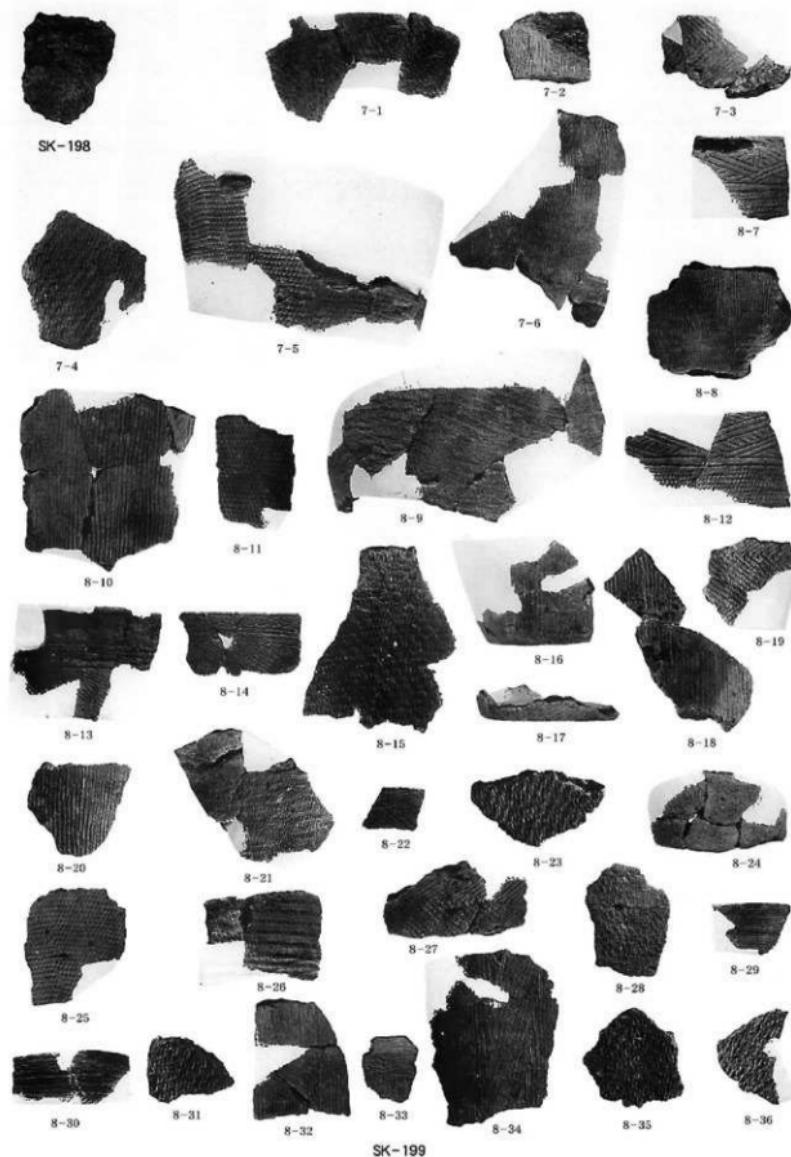
77. 第69号溝状土坑セクション（西南から）



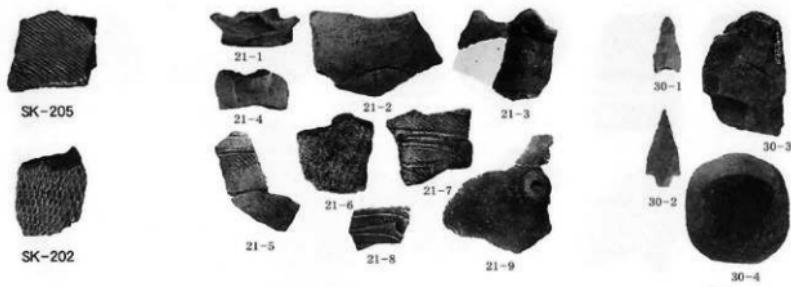
78. 第70・71号溝状土坑セクション（西から）



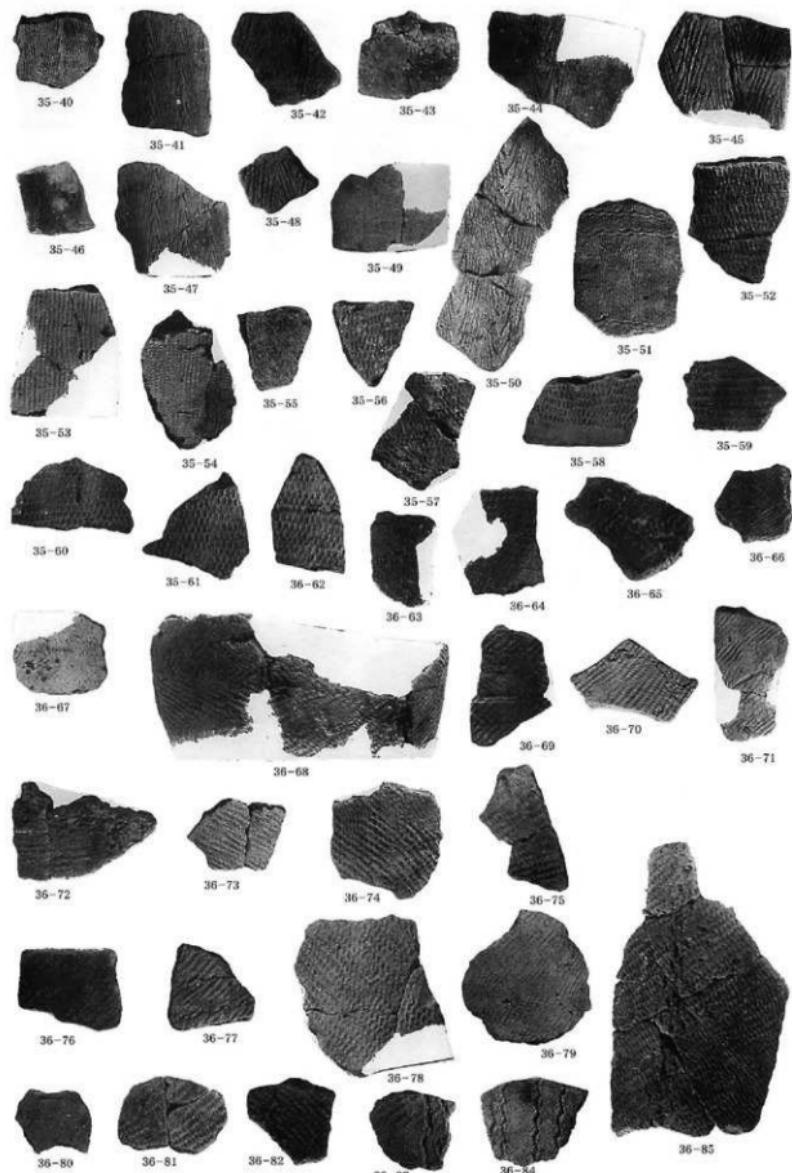
79. 第70・71号溝状土坑完掘状況（西から）



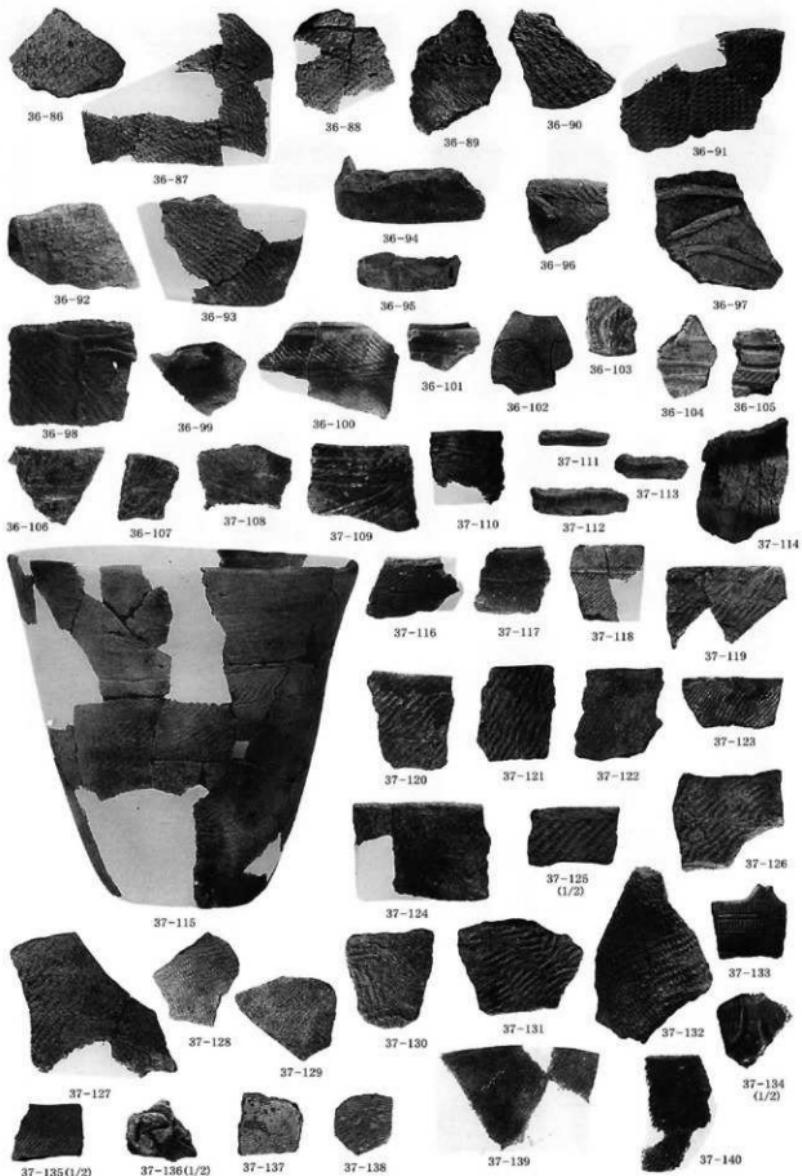
写真図版 14 遺構内出土遺物 (1)



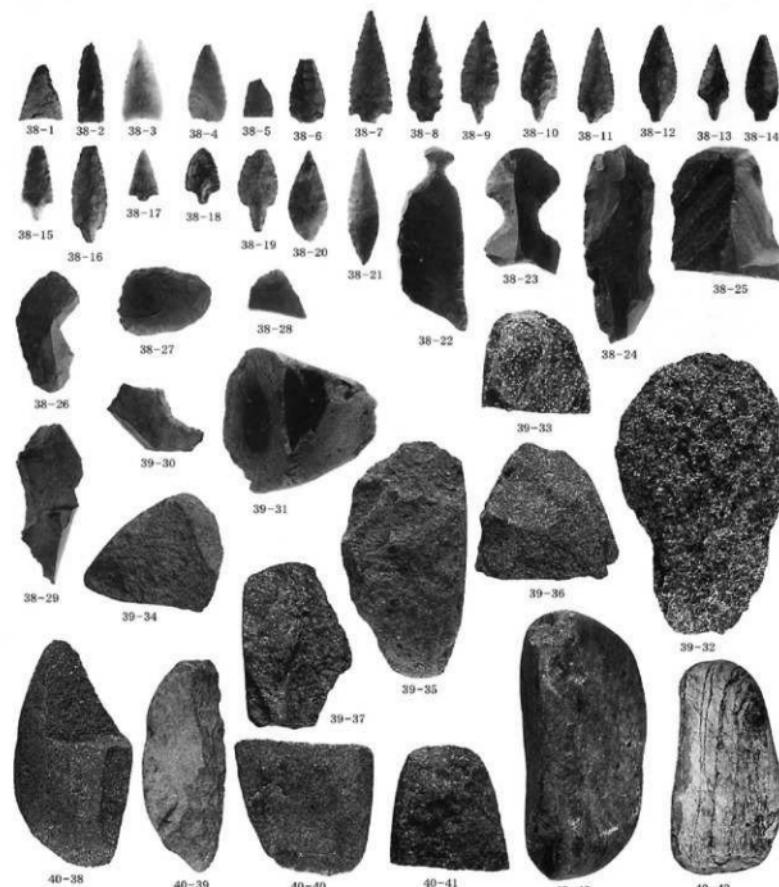
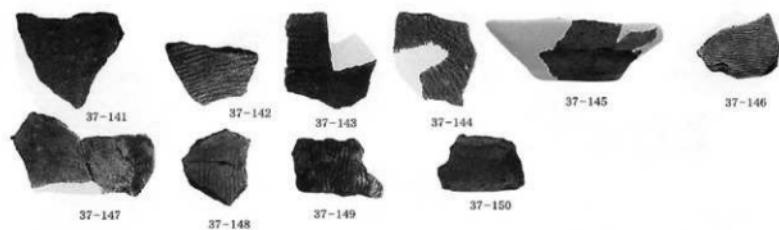
遺構外



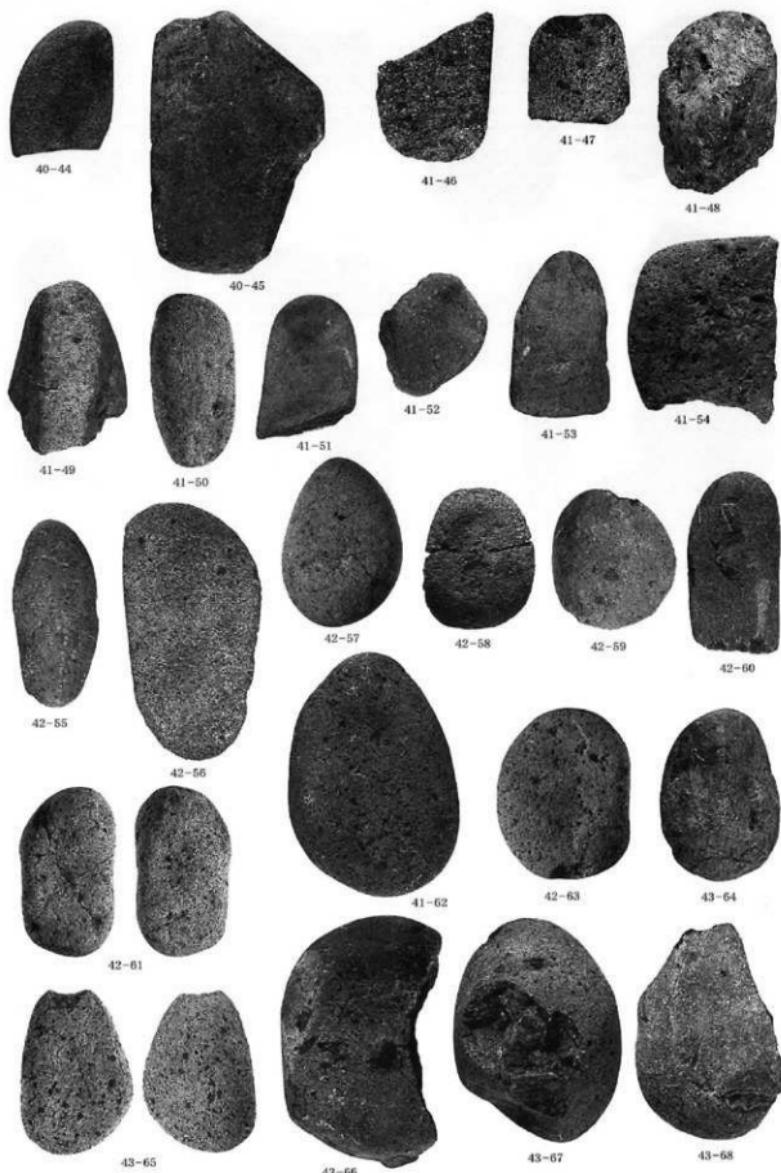
写真図版 16 遺構外出土土器 (2)



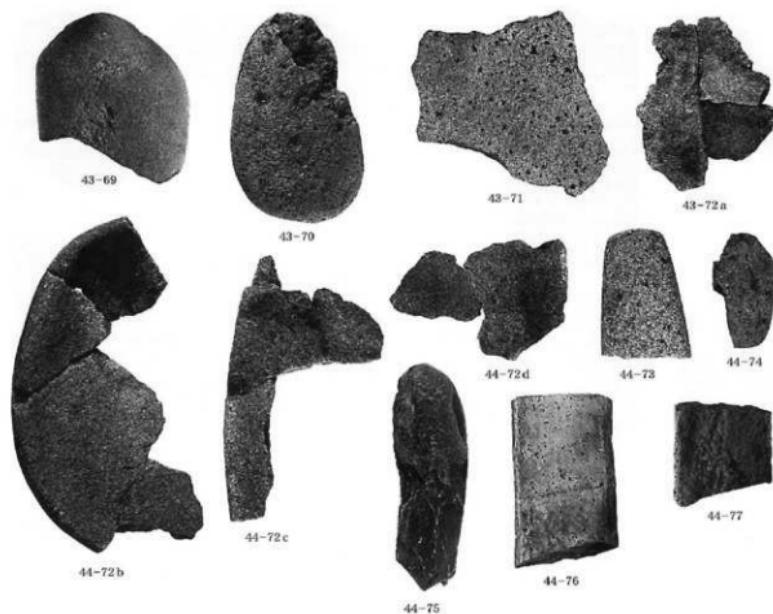
写真図版 17 遺構外出土土器 (3)



写真図版 18 遺構外出土土器 (4)・遺構外出土石器 (1)



写真図版 19 遺構外出土石器 (2)



写真図版 20 遺構外出土石器 (3)

報告書抄録

書名	笛ノ沢(3)遺跡							
副書名	八戸環状道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第318集							
編著者名	中村 哲也							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森市新城字天田内152-15 TEL017-788-5701 FAX017-788-5702							
発行年月日	平成14年2月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 度	東経 度	調査期間	調査面積	調査原因	
笛ノ沢(3) 遺跡	青森県八戸市 人字尻内町字下 毛合清水、外	02-203 03-042	40° 30' 03"	141° 08' 53"	000418 ~ 000914	8,400m ²	八戸環状道路建 設事業に伴う発 掘調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
笛ノ沢(3) 遺跡	集落跡	縄文時代 前期末葉～中期初頭 以降	フ拉斯コ状土坑 12基 溝状土坑 24基	土器・石器				

青森県埋蔵文化財調査報告書第318集
 笹ノ沢（3）遺跡II

－八戸環状道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－

発行年月日 平成14年2月28日

発 行 青森県教育委員会

〒030-0801 青森市新町二丁目3-1

編 集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042 青森市新城字天田内152-15

TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702

印 刷 株式会社 サンエイ

〒030-0121 青森市妙見三丁目2-19

TEL 017-738-0040 FAX 017-738-0880



活彩あおもり

—輝くあおもり創造力—